

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	訂正公表 No	備考
1	B-05023886	男性	6月	30mg	ブランルカスト水和物	痙攣	軽快	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルを6日間服用した翌日、痙攣発作が見られた。44日後にけいれん重積発作が軽快した。	異常以外-1	
2	B-07000002	男性	6月	不明		痙攣	軽快	インフルエンザ検査は陰性であったが、リン酸オセルタミビルを処方。痙攣が起きたため、入院。	異常以外-2	
3	B-07000270	女性	10月	18mg		痙攣 発育遅延	回復 不明	インフルエンザワクチン接種後、感冒様症状出現。ワクチン接種翌日、感冒様症状は軽快。ワクチン接種4日後、再び感冒様症状あり、迅速検査でインフルエンザ陰性。対症療法薬剤を1~2回服用。再度、感冒様症状発現から2日後、38.6℃発熱。リン酸オセルタミビルを服用。本剤服用約20分後、脱力、意識消失、チアノーゼ、痙攣を生じた。本剤服用45分後頃、病院にて間代性けいれん、意識障害に対しジアゼパムを投与。10分後、痙攣が止まる。約90分後、意識清明、神経学的異常なし。その後は服用なし。5日後、下肢機能不良。発達障害あり。	異常以外-3	
4	B-05005388	男性	11月	33mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシロール d-マレイン酸クロルフェニラミン 塩酸プロカテロール アセトアミノフェン	脳症(急性脳症) 肺水腫(肺水腫) 心停止(心停止)	後遺症	感冒様症状有り、受診しインフルエンザと診断。治療的にリン酸オセルタミビル投与。2日後、覚醒した後、四肢脱力・呼吸停止となり、救急搬送される。急性脳症と診断され処置をとる。翌日肺水腫は消失。その後、人工呼吸器離脱し、リハビリ開始となる。寝たきりの状態となり、外来で通院加療となる。	異常以外-4	
5	B-05016248	女性	11月	36mg	カルボシステイン d-マレイン酸クロルフェニラミン	ヘモフィリス菌性髄膜炎(インフルエンザ桿菌による細菌性髄膜炎) 硬膜下ヒゲローマ(硬膜下水腫)	未回復	B型インフルエンザ発症。治療的にリン酸オセルタミビル投与。本剤投与終了後、1ヶ月後にインフルエンザ桿菌による細菌性髄膜炎発現。けいれん嘔吐のため救急搬送される。本剤投与終了後約1.5ヶ月後、硬膜下水腫発現。細菌性髄膜炎は軽快したが、硬膜下水腫は未だ回復せず。現在入院中。	異常以外-5	
6	B-07001805	男性	11月	35mg	アセトアミノフェン ジアゼパム リン酸ジメモルファン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	痙攣	回復	午後より発熱、けいれんを2回程発症。その後、インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル処方。1回目服用後もけいれんを認める。38.8℃。服用2日目、入院。服用3日目、夜、発熱は続き、数秒~10数秒のけいれんが頻発。	異常以外-6	
7	B-03003223	男性	1歳	不明	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン	意識レベルの低下 不機嫌	軽快	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用のたびに不機嫌、意識もうろう等の症状出現。症状発現後しばらく経過観察していると症状消失していたらしい。翌日夜に発熱、咳嗽も続くため急患受診し本剤中止し入院。その後症状の出現なし。	異常以外-7	
8	B-03003783	女性	1歳	40mg	ロキタマイシン カルボシステイン 臭化水素酸フェノテロール 塩酸シプロヘプタジン	痙攣	軽快	インフルエンザB型と診断、リン酸オセルタミビル40mg/日を処方。5日目朝の服用後、投与終了。翌朝、意識なく、両手をびくびくさせたり、眼球上転し全身強直など、痙攣が何度か続く。他剤投薬により、午後になって意識清明。同日入院し、後遺症なし。4日後には痙攣重積回復。	異常以外-8	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
9	B-04026211	男性	1歳	不明	なし	幻視	回復	B型インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビルを服用。投与開始後3日目に、幻視及び不機嫌(軽微)の有害事象発現、入院。本剤中止後5日後に回復。	異常以外-9	
10	B-04026477	男性	1歳	40mg	カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	傾眠	回復	B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル40mg/日を3日間服用。投与開始後4日目、活気がなくなり、傾眠傾向がみられた(けいれんはなし)。8日目、発熱及び傾眠傾向が観察されるため、入院。11日目、回復。	異常以外-10	
11	B-05024607	男性	1歳	36mg	ヒベンス酸チベピジン 塩酸アンプロキソール 塩酸シプロヘプタジン ツロブテロール アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザ確定診断でインフルエンザウイルスが検出されなかったものの、姉がA型インフルエンザに感染していたことと発熱が見られたことからリン酸オセルタミビルの投与開始。投与開始から約7時間後に下肢伸展の強直性痙攣が約1分半見られた。投与開始から3日目の早朝にも痙攣が見られ、リン酸オセルタミビルの投与を中止。その後、痙攣も回復。	異常以外-11	
12	B-06023781		1歳	不明	不明	痙攣	不明	本剤服用後、痙攣を起こした。詳細不明(担当医の協力が得られなかった)。	異常以外-12	
13	B-07002190	女性	1歳	180mg		嘔吐 傾眠	軽快 軽快	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル5日分処方するも、同日夕、5日分を1回ですべて服用。服用1時間後、嘔吐発現(数回)。嘔吐発現から1時間後、傾眠発現。救急外来受診。胃洗浄、輸液。入院。その4日後、嘔吐、傾眠軽快。	異常以外-13	
14	B-07003243	男性	1歳	114 mg		痙攣	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用後10分以内に、全身性痙攣発現し、同日回復。	異常以外-14	
15	B-07003702	男性	1歳	22.5mg		痙攣	軽快	インフルエンザ迅速検査陰性であったが、インフルエンザ罹患の可能性も考え、リン酸オセルタミビル処方。また急性中耳炎治療後でもあり、滲出性中耳炎化も考慮し、抗菌薬等処方。投与開始2日目、本剤2回目服用後、突然痙攣が始まり、緊急入院。なお、家族が本剤以外の併用薬は服用させていなかった。	異常以外-15	
16	B-07027256	男性	1歳	18mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後すぐ服用。1回目の服用後に症状(暴れる)が発現。暴れて手がつけられなかった。同日2回目の服用中止。服用4日目、本剤服用終了。	異常以外-16	
17	B-02001935	男性	2歳	75mg	葛根湯 アモキシシリン 桂麻各半湯 アジスロマイシン リン酸ジヒドロコデイン/dl-塩酸メ チルエフェドリン/マレイン酸クロ ルフェニラミン デキサメタゾン	幻覚	回復	発熱により受診し、インフルエンザと診断されリン酸オセルタミビル75mgを分割投与(1日)。深夜、訳のわからないことを1時間程言い続ける。投与1日後、50mgへ減量し、継続投与したが、幻覚症状なし。投与開始3日後、解熱。投与開始5日後に投与中止。	異常以外-17	
18	B-05023795	女性	2歳	22.5mg		幻覚 落ち着きのなさ	軽快 軽快	発熱(39.1℃)のため医療機関を受診し、その後リン酸オセルタミビルを服用。約3時間後に幻覚と不穏が発生し、4時間継続した。翌日の朝も発熱(39.5℃)していたものの、午前10時頃には37.5℃に解熱していた。その後、リン酸オセルタミビルを服用し、約1時間後に幻覚が発生し、約2時間で幻覚が消失した。	異常以外-18	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
19	B-05025785	男性	2歳	50mg	ジアゼパム	浮動性のまい	回復	発熱し全身性痙攣があったため近医受診、A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルを夕方より服用開始(嘔吐、下痢有り、発熱39°C)。翌日再度痙攣がありジアゼパム坐剤投与。本剤服用3日目解熱(37.2°C)したが、歩行時のふらつき出現。その翌日も歩行時のふらつき改善しないため入院。入院3日目歩行時のふらつき消失。朝、本剤服用終了。翌日インフルエンザ軽快し退院。	異常以外-19	
20	B-07001353	女性	2歳	22 mg	耐性乳酸菌製剤(2) ロートエキス散 塩化リゾチーム 塩酸シプロヘパタジン	異常行動 筋力低下	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。同日昼食後に本剤内服し、種なく立って歩こうとするが、フラフラしてすぐに転ぶといった両下肢脱力、大声で叫ぶ症状が発現。熱は38~39°C。異常行動は覚醒時に発現の様子。同日夕方、これら2症状は消失し回復。その後、本剤中止。	異常以外-20	
21	B-07003012	男性	2歳	114 mg		痙攣	回復	B型インフルエンザの診断のもと、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用。深夜、本剤服用2時間後より、興奮状態、けいれん発現。目は半開き、ボーっとした状態(意識はある様子)。翌朝、39.3°Cで、痰がらみの咳、鼻汁、かすれ声、咽頭発赤(軽度)あり。	異常以外-21	
22	B-07010107	女性	2歳	42mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方より本剤服用開始。夜、異常行動(夜中暴れる)発現。服用4日目、本剤終了。服用開始から6日目、異常行動回復。	異常以外-22	
23	B-07027920	男性	2歳	60 mg	クラリスロマイシン カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル処方。同日、寝ていると思ったらびくびくして突然飛び上がった。怖がったり震えたりした。服薬2日目、その後も服用続けたが、そのような症状は出現せず。	異常以外-23	
24	B-08000403	女性	2歳	27 mg	ジアゼパム アセトアミノフェン	譫妄 激越 異常行動	回復 回復 回復	鼻汁、咳、軟便、嘔吐1回、発熱38.5°Cあり。受診し、インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用し、その後ぐったりと寝ていた。服用2日目、朝、本剤服用後、部屋の隅でじっと座って話かけても返事をしない。その後傾眠。夜、本剤服用後、母を叩く、物を投げる、空中を指差し、「取って、取って」と叫んだ。熟睡。服用3日目、腹痛、軟便あり。午前、本剤服用。部屋の隅でじっとしていた。傾眠。午後、本剤服用後、母を叩く、空中の物を払う様な動作がみられ、熟睡。服用4日目、午前、本剤服用。部屋の隅に座っていた(ふさぎ込んだ様子)。もう一つ元気がない。本剤中止し、その後精神症状は見られなくなった。その後元気になる。		2008/4/1以降 新規報告
25	B-08000404	女性	2歳	21 mg	エチルコハク酸エリスロマイシン ツロプテロール モンテルカストナトリウム カルボシステイン	落ち着きのなさ 落ち着きのなさ	回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、激しく泣いて覚醒し暴れた。不穏状態発現。30分位で落ち着いて入眠。不穏状態 回復。服用2日目、深夜、激しく泣いて目を覚まし暴れた。不穏状態発現。30分位で落ち着いた。		2008/4/1以降 新規報告
26	B-08002519	女性	2歳	23 mg	アンピシリン セフジニル セフミノクスナトリウム ブドウ糖 開始液(1) ベタメタゾン・d-マレイン酸クロロ フェニラミン 塩酸アンブロキソール イブプロフェン	異常行動	回復	A群β溶連菌迅速試験陽性にて、抗生物質等投与していた。発熱あり。インフルエンザウイルスA型およびB型混合感染にて、リン酸オセルタミビル服用開始。抗生物質等点滴の処置あり。リン酸オセルタミビル服用後、1時間睡眠。ぐっすり眠る。1時間寝て、目覚めて、人が変わったように布団を丸めて起きて玩具を投げるといった異常行動が発現。服用2日目、午前に本剤服用したが、それ以降本剤中止。本剤服用中止から2日目、急に泣いて起き上がり、筆箱やテレビを指さす、5分後に再び眠るといった異常行動が発現。その後、異常行動は回復と判断。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
27	B-02000900	男性	3歳	37.5mg	塩酸ツロブテロール クロモグリク酸ナトリウム 塩酸プロカテロール テオフィリン ヒベンズ酸チベピジン d-マレイン酸クロルフェニラミン	感覚鈍麻 意識レベルの 低下	回復	約5ヶ月前より気管支喘息発症し、クロモグリク酸ナトリウム、塩酸プロカテロール、テオフィリンの服用歴あり。リン酸オセルタミビル服用後まもなく、手の震え、ボーッとした感じあり。処方中止し、他剤に変更。本剤服用後、24時間以内に症状消失。なお、患者には卵・牛乳アレルギーあり。	異常以外-24	
28	B-05000602	女性	3歳	50mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘパタジン フマル酸ケトチフェン カルボシステイン ラクタミン	意識変容状態	回復	アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等の既往あり。日本脳炎ワクチン接種の翌日38.9°Cの発熱、迅速検査でインフルエンザB型と診断されリン酸オセルタミビル投与。本剤服用開始4日後の夜突然転倒し、約10秒間意識消失、約10分間顔色不良、その後意識回復し、清明。その後2日間投与を継続したが異常なし。心電図、血液、脳波、全脳MRI検査を実施するも異常を認めず。	異常以外-25	
29	B-05001648	女性	3歳	不明		譫妄(譫妄)	回復	インフルエンザ治療目的のため、リン酸オセルタミビル投与。1回分服用後、譫妄発現(重篤でないし軽微でもない)し、親の判断にて服用を中止。その後、譫妄回復。	異常以外-26	
30	B-05023472	男性	3歳	60mg	ブランカスト水和物 カルボシステイン プロピオン酸ベクロメタゾン クロモグリク酸ナトリウム ツロブテロール アミキシシリン アセトアミノフェン	譫妄 幻覚 眼瞼機能障害	回復	発熱(38.6°C)、咳、鼻症状、にて、本剤処方。服用後、まばたきが多くなる(体温:39.7°C)。2回目服用後、幻覚症状発現し、30分ごとぐらいいに3回繰り返す。深夜、救急にて受診(体温:38.3°C)処置なし。翌朝、幻覚、異常なまばたき、うわごと回復。本剤中止。7日後、インフルエンザ回復	異常以外-27	
31	B-06006096	男性	3歳	不明		幻覚 妄想	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(41°C)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約5時間後に幻覚及び妄想が発症し、約5分後に回復した。その後も幻覚及び妄想が見られた。	異常以外-28	
32	B-06026623	男性	3歳	27 mg		幻覚	回復	インフルエンザに対し、リン酸オセルタミビル27mg内服。遠くを見つめ、おぼけが出る等の症状を訴えたため、本剤中止。	異常以外-29	
33	B-07023545	男性	3歳	36 mg	カルボシステイン エストロゲン〔結合型〕 塩酸エブラジノン 塩酸シプロヘパタジン 酪酸菌製剤 ピフィズス菌製剤(4) ツロブテロール	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用1時間後、熱性痙攣発現。経過観察のため入院。痙攣収束後に意識の反応は認めるも、手足を興奮した様子で動かし、視線は何かを透視する様に動き、口をモグモグ動かしていた。発語を全く認めなかった。行動異常、発語障害発現。ジアゼパム坐薬使用し入眠。自然覚醒後、異常な行動は無く、発語も認め通常状態となった。	異常以外-30	
34	B-07025436	男性	3歳	30 mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チベピジン	異常行動 痙攣	回復 回復	インフルエンザA型診断にて、リン酸オセルタミビル服用。服用5分後、腹痛があり臥床していた。服用20分後、足をつっぱり、白眼になり痙攣の様な暴れ出した感じが2~3分続き、その後死んだように動かなくなった。来院時、発熱あるが、症状が消失し、意識もしっかりしていた。	異常以外-31	2008/4/1以降 追加報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	訂回公表 No	備考
35	B-07027837	女性	3歳	31.5mg	塩酸アンブロキシール	痙攣	回復	インフルエンザB型発症。体温は38.5℃。リン酸オセルタミビル1回服用後、電気が走るように体がつっぱる発作を10回繰り返した。けいれん発作発現。その後、10～15分後に嘔吐発現。30分程度眠った目が覚めてから1回嘔吐。再度入眠した。以後、けいれん・嘔吐はなく経過している。本剤投与中止。 本剤投与中止から1日目、けいれん発作・嘔吐 回復。	異常以外-32	2008/4/1以降 追加報告
36	B-08001027	男性	3歳	30 mg	カルボシステイン カルボシステイン メキタジン	痙攣	回復	今シーズン、インフルエンザワクチン未接種。 発熱し、元気がなくなる。 当院受診し、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用。 約2時間後、けいれん発現。咳込みがあり、その後しゃっくり様のヒクヒクした動きが10分程続く。母の呼びかけに反応せず。顔色はよい。体温は39.3℃。 けいれん発現から約30分後、会話可能となる。以後、本剤投与中止。 本剤服用中止から1日目、解熱し、同様のエピソードはなかった。		2008/4/1以降 新規報告
37	B-02001232	女性	4歳	75mg	アモキシシリン ヒベンズ酸チペビジン カルボシステイン ピフィズス菌製剤	協調運動異常	回復	インフルエンザA型陽性であったが、熱性痙攣を起こしていたためリン酸オセルタミビルを投与開始。投与2日目、目が回る、フラフラするなどの失調症状発現。投与継続し、3日目朝には、症状みられないが、5回目投与後に失調症状発現。3時間経過後、失調症状軽快し、投与中止。	異常以外-33	
38	B-06015552	男性	4歳	60mg	ヒベンズ酸チペビジン フマル酸クレマスチン 維持液(3) コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム トリクロホスナトリウム 抱水クロラール カルボシステイン	意識変容状態 痙攣	回復 回復	A型インフルエンザの治療のためにリン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約1時間後に痙攣及び意識障害が発現。痙攣は3分程度で止まり、救急センター受診後にジアゼパム坐剤を服用し、意識障害も回復した。転院後、ぼーっとした様子が見られ、併用薬の使用も行っている。リン酸オセルタミビル服用開始から2日目以降もリン酸オセルタミビルを使用している。	異常以外-34	
39	B-06024209	女性	4歳	24mg		意識変容状態 筋骨格硬直 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザ発症時に発熱(39.4℃)、咳、倦怠感。リン酸オセルタミビルを服用2時間後、手のみ硬直した様子。ろれつが回らない様、赤ちゃん言葉の様なものを発していた。その約2時間後受診、意識は清明、麻痺なし。応答も明瞭。	異常以外-35	
40	B-06026808	女性	4歳	30 mg	カルボシステイン フマル酸クレマスチン 塩酸アンブロキシール	異常行動	回復	服用後5時間、異常言動発現。再来院し、入院。脳波及びCT検査での異常はなし。	異常以外-36	
41	B-07000067	女性	4歳	60 mg	乳酸リンゲル液 アセトアミノフェン	痙攣	回復	リン酸オセルタミビル27mg服用後、暫くして痙攣。2回目から服用中止。翌日、痙攣軽快。	異常以外-37	
42	B-07000101	男性	4歳	72 mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チペビジン セフォタキシムナトリウム ジアゼパム	痙攣 意識レベルの 低下	不明 回復	深夜、発熱。翌朝、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。 本剤3回目服用後、けいれん(1分くらい)発現し、入院。丸1日意識レベル低下。けいれん、意識レベル低下(ともに非重篤)発現。 翌日、熱が下がる。翌々日、本剤服用中止。 服用中止1日後、ふらつき、頭痛あり。(意識レベルは正常)MRI異常なし。幻覚、視覚異常、ふらつき、傾眠発現。服用中止2日目、「あそこにかかいるから痛い」と言う異常行動発現。	異常以外-38	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	症例番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回の症例No	備考
43	B-07000152	女性	4歳	100mg		痙攣	回復	40.5℃の発熱と腹痛のため、母親同意の下、リン酸オセルタミビル処方。一回目の本剤服用約20分後、いびきをかいて寝ているような状態であったため、心配になって確認したところ、口から泡を吹いているような状態で、再受診。その際、顔は真っ青で、唇はチアノーゼがでていたとのこと。再受診の際は、目は開けているがぼんやりとしており、両親の問いかけにも反応が悪かったとのこと。けいれんが見られており、抗けいれん薬などの処置により回復。	異常以外-39	
44	B-07000201	女性	4歳	66 mg	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンプロキソール 塩酸ツロブテロール	譫妄 間代性痙攣	回復 回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。翌朝服用後、突然うわ言、痙攣発現。そのまま寝てしまう。夕方、回復し、本剤を服用すると再び同じ症状出現。嘔吐もあり。 本剤服用中止。	異常以外-40	
45	B-07000243	男性	4歳	54 mg	テオフィリン ブランカスト水和物 ツロブテロール アセトアミノフェン	異常行動 痙攣	回復 回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル服用1時間後、突然笑い出す、しばらくして消失。再度、本剤及び他薬剤を服用後、両眼球が左上向きになり、口をバクバクして、呼びかけにも応じず、唇の色が悪くなったので、指を口の中へ入れて吐かせる等の対応をした。	異常以外-41	
46	B-07000285	女性	4歳	36 mg	セフトリアキソンナトリウム	痙攣	回復	インフルエンザの疑いの為、リン酸オセルタミビル投与開始。熱性痙攣発現。 インフルエンザは陰性。熱性痙攣回復。	異常以外-42	
47	B-07001669	女性	4歳	60 mg		痙攣	軽快	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル5日分処方。同日朝、38.5℃。本剤1回目服用。同日昼、39.4℃。同日夜、2回目服用30分後、全身痙攣5分間。意識有り、やや軽い痙攣。服用1時間半後、39.5℃ 全身痙攣5分間、意識有り、やや軽い痙攣。アセトアミノフェン坐剤を使用。服用2時間半後、39.2℃ 痙攣5分間。服用3時間半後、38.4℃。痙攣5分間、意識有り。痙攣強。幻覚あり(ママの目が真っ赤でこわいと言う)。服用6時間半後、36.2℃。痙攣2分間、幻覚あり。本剤投与中止。 中止1日後、症状回復	異常以外-43	
48	B-07001747	女性	4歳	36 mg	ジヒドロコデイン・エフェドリン配合剤 アセトアミノフェン	痙攣	回復	40℃近い発熱あり。インフルエンザB型陽性であったため、リン酸オセルタミビル処方。同日夕方、本剤1回目服用。体温:39.6℃。意味不明なことを言い出すなどの意識障害、幻覚発現。服用2時間後、痙攣発現。救急車にて搬送。到着時は意識ははっきりしていた。体温:39.4℃。解熱剤投与し、帰宅。帰宅後も頭痛、腹痛、嘔吐あり。翌朝、痙攣、意識障害、幻覚回復。1回目服用から翌朝までの記憶はなかった。	異常以外-44	
49	B-07001807	女性	4歳	60 mg	ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 非ピリン系感冒剤(2)	痙攣	回復	体温:38.5℃。インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。 服用開始3日目、インフルエンザの軽快・回復。深夜、すでに解熱。 服用開始4日目、計6回目服用後、30分くらいの発作あり。ひきつけなのか悪夢をみたのか不明。その後、就寝中にうなり声を聞いた。 その翌朝、ふだんと変わらず。	異常以外-45	
50	B-07003187	女性	4歳	28.5mg	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペピジン セフロキサジン	痙攣 異常行動	回復 回復	インフルエンザの検査を行うが陰性のため、解熱剤、抗菌剤等処方。夕方、熱が下がらないと再度受診。体温40℃。検査はしなかったがインフルエンザと判断し、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用。服用1時間以内にけいれん、うわ言、白目をむいた状態となる。けいれんに関してはそれほど長くあったわけではないようだが、うわ言に関しては、若干長く言っていた様子。 翌日、症状回復。 なお、以前一度、本剤を服用したことがあったが、そのときは何もなかったとのこと。熱性けいれんは過去になし。	異常以外-46	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	今回公表 No	備考
51	B-07004082	女性	4歳	56 mg	酒石酸アリメマジン ヒベンズ酸チペピジン 塩酸プロカテロール 塩酸プロムヘキシ	恐怖 異常行動	回復 回復	インフルエンザA型との診断にてリン酸オセルタミビル処方。服用約2時間後、壁を見て「こわい、こわい」と怯えるため再診して入院。インフルエンザの熱せん妄の可能性もあり、入院しながら服用し、経過観察する方針で本剤28mg再投与。再び2時間後、「こわい、こわい、虫がいてる、やっつけて」と15分間怯えため、本剤中止。30分後、意識清明。(熱は39℃あった)	異常以外-47	
52	B-07010110	男性	4歳	60 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。受診時、発熱はそれほどでもなかった(36~37℃)。夜、異常行動(夜中暴れる)発現。服用2日目、異常行動回復。服用5日目、朝、服用後、本剤終了。	異常以外-48	
53	B-07027782	男性	4歳	75 mg	塩酸シプロヘプタジン 鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル処方され、服用。昼、寝ていてギャンと泣いた。午後、再度本剤服用。解熱剤も服用。夜もギャンと泣いた。本剤服用終了から1日目、熱は下がった。夜ギャンギャン泣いた。頭をぶつけてくる感じがあった。本剤服用終了から2日目、夜中急に泣く(いやだーと言ってすぐ泣く)。ほったたをたたいて起こすが本人は泣いたことを覚えていない。その後本剤中止。本剤服用終了から3日目、特に何事もなし。異常行動 回復。父親より、服用中止してから全く異常なく、健康との連絡あり。	異常-20	2008/4/1以降 追加報告
54	B-08003759	女性	4歳	50 mg	塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン ドンペリドン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用。服用3時間後、開眼し、意味不明の言動あり、異常行動および言動発現と判断。服用5時間後、突然起きだし、シクシク泣く。一点凝視し、震える。おびえた様子。「こわい夢を見た」と言う。当院へ母より連絡あり。「子供のそばを離れないように。様子がおかしい時はだっこするように。本剤服用が心配なら中止してもよい。」とナーズの対応があった。服用6時間後、部屋の角を指差し泣きだす。その後も本剤服用続けるが、異常行動は見られず。回復と判断。服用3日目、再診。解熱し元気よくなった。		2008/4/1以降 新規報告
55	B-08027286	女性	4歳	65 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、異常行動発現。急に寂しがったり、急に泣き出すとともに、やってないのに“おり紙”をおるまねをし始めた(ひるにやっていたのを思い出した様子)。医療機関を受診した際も、ポーッとしており機嫌もやや悪かったため、そのまま入院とした。入院後補液及びザナミビル水和物の服用を開始した。本剤服用終了から1日目、症状は消失しており、経過良好。本剤服用終了から2日目、退院となった。		2008/4/1以降 新規報告
56	B-08029728	不明	4歳	投与量 不明		痙攣 意識消失	回復 回復	3年ほど前の春に病院を受診。インフルエンザと診断されリン酸オセルタミビル服用開始(5日間)。引付、意識がなくなるといった症状が発現。病院からの帰り、引付を起こし、病院に戻ったが意識がなくなり入院。下痢、腹痛発現。1週間後、回復し退院。1か月後、目が見えなくなる。病院受診、アレルギー性の弱視と診断。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

症例No	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
57	B-01012114	男性	5歳	75mg	テオフィリン 塩酸セファケンピボキシル ヒベンズ酸チベピジン ツロブテロール	幻覚 恐怖	回復	体温39.1℃、インフルエンザ疑いでリン酸オセルタミビル服用。 約2時間後、急に目を開き、タオルを取ろうとするもうまく取れないといい泣き叫ぶ。この 時心搏亢進2+。 約5分後、症状消失。 症状消失から5時間後、再度本剤投与。 その1時間半後、突然目を開き、意味不明のことを口走り、泣き、叫ぶ様な状況が何度 か繰り返される。 約5分後、症状消失。 翌日、解熱	異常以外-49	
58	B-02000734	女性	5歳	75mg	塩酸トリメキノール セフジニル 塩酸プロムヘキシシ	構語障害 意識レベルの 低下 感覚鈍磨	回復	発熱、咳嗽のためセフジニル、塩酸トリメキノール、塩酸プロムヘキシシ内服。翌日A型 インフルエンザとの診断でリン酸オセルタミビル投与開始、これまでの薬剤は中止とな る。本剤服用1時間後より手の震え、意識減損、言語障害発現し受診。経過観察目的に て入院。本剤中止し塩酸アマタジンに変更となる。翌日、解熱し言語も可能となり、意 識レベルもクリアとなった。	異常以外-50	
59	B-03000276	男性	5歳	90mg	アセトアミノフェン ドンペリドン ピフィズス菌製剤	坐骨神経痛	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル90mg/日を投与開始。投与開始後 3日目に両側下腿痛発現。翌日より本剤投与中止。有害事象発現8日目、回復。	異常以外-51	
60	B-04027244	男性	5歳	60mg	なし	浮動性めまい	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル60mg/日を投与開始。夕食後服用、寝 る前にふらつき(鑑体外路障害の様子)が見られたため、リン酸オセルタミビルの服用中 止。翌日有害事象改善。	異常以外-52	
61	B-04027262	女性	5歳	不明	なし	痙攣 呼吸停止	不明	インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビル投与開始。本剤服用2-3 時間後痙攣発現、呼吸停止。(再々にわたり詳細調査を依頼したが担当医の協力が得ら れず、これ以外の詳細不明)	異常以外-53	
62	B-05000047	男性	5歳	36mg	塩酸プロカテロール フマル酸ケトチフェン カルボシステイン	意識変容状態	回復	A型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル36mg/日を投与開始。投与1回目 10秒後、嘔吐と一過性の意識障害(数秒間)が発現。すぐに回復。入院して経過観察す るが、以後有害事象の発現なし。	異常以外-54	
63	B-05004406	女性	5歳	32.5mg	α-マレイン酸クロルフェニラミン ヒベンズ酸チベピジン アセトアミノフェン	痙攣(無熱性 痙攣)	回復	頭痛、咽頭痛有り受診。治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。本剤服用翌日、顔面 蒼白、全身の強直性痙攣約1分が見られた後、覚醒し頭痛を訴えた。救急外来受診、本 剤投与中止。翌日、解熱のため無投薬で経過観察。3日後、インフルエンザ回復。	異常以外-55	
64	B-05021995	男性	5歳	34mg	塩酸ツロブテロール ヒベンズ酸チベピジン フマル酸クレマシチン	痙攣	回復	1歳時に熱性痙攣の既往歴あり。 高熱、咳のため、確定診断後、本剤投与開始。 翌日、本剤投与5時間後、嘔吐、チアノーゼ、一点凝視が続き、救急車にて来院。頭部 CT異常なし。 脳波棘波、左右差あり、てんかんと診断し入院となる。ジアゼパムを計3回使用。けいれ ん発作発現し、同日回復。 その後、退院。以後けいれんなし。	異常以外-56	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
65	B-07000090	女性	5歳	70 mg	塩酸セフカペンピボキシル ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘパタジン 塩酸アンプロキシール 塩酸プロカテロール	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。 同日、「何か気分がいい」との異常言動が発現し、翌日回復するが、服用4日目まで、「何者かに追われている」との異常言動が発現。 服用4日目、本剤服用中止。中止翌日、異常言動回復。	異常以外-57	
66	B-07000110	男性	5歳	30 mg	塩酸セフカペンピボキシル 塩酸シプロヘパタジン アセトアミノフェン 耐性乳酸菌製剤(3) 塩酸アンプロキシール	痙攣	回復	リン酸オセルタミビル服用当日夜、意識障害(重篤)、痙攣が発現。翌日、意識障害回復。	異常以外-58	
67	B-07000148	男性	5歳	100 mg	アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与終了2日後、意識障害、痙攣発現。同日、回復。	異常以外-59	
68	B-07000282	男性	5歳	39 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸プロムヘキシン 塩化リゾチーム 塩酸アンプロキシール アセトアミノフェン アセトアミノフェン	譫妄 幻覚	回復 不明	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用30後、口をもぐもぐさせるような仕草あり。元気なし。せん妄状態発現。服用3時間30分後、覚醒してから多弁、興奮、幻覚あり。服用8時間30分後、入院。脱水傾向もあり。体温38.8℃。幻覚症状としては、さかんに手を伸ばして目の前のものをつかむ様な行動を就寝まで間歇的に認めた。深夜、興奮状態で多弁が続いていたが、自然に入眠。未明、再び自然に覚醒したが、この時には普段の状態へ回復。服用から2日目、昼、せん妄状態回復。インフルエンザ軽快。	異常以外-60	
69	B-07001738	男性	5歳	36 mg	セフトレキシムピボキシル d-マレイン酸クロルフェニラミン トラネキサム酸 カルボシステイン フマル酸ケチフェン メフェナム酸	異常行動	回復	39.0℃の高熱あり。インフルエンザウイルス検出されなかったが、インフルエンザ疑いのため、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤服用30分後、踊ったり飛んだりしたず気分高揚が発現。経過観察。同日症状回復。本剤服用中止。	異常以外-61	
70	B-07002264	男性	5歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夕方より服用開始。服用2日目、発熱持続。朝、夕服用。その夜、就寝していたところ急に足をバタバタさせ、その後「おしっこに行きたい」と話しトイレへ。排尿をすませた後走って戻り、何か早口で喋り(家人に内容は分からなかったとのこと)再度就寝。異常行動ではないかと救急受診。受診時意識清明、見当識良好、神経学的異常所見なかったが、家人の心配が強いため、入院の上、経過観察とした。本剤服用中止。入院後は何事もなく解熱。	異常以外-62	
71	B-07002947	男性	5歳	36 mg	カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン	痙攣	回復	インフルエンザA陽性と診断され、夕方より、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間30分後、けいれん発作発現(1分程で停止)。服用2時間後、受診。けいれん発作おちついており処置なし。念のため本剤服用中止。 投与中止3日後、病状軽快。	異常以外-63	
72	B-07003094	男性	5歳	33 mg	フマル酸クレマスチン	振戦	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。昼に本剤服用し、2時間半眠った。覚醒後に手と首にふるえがみられ、はっきりと聞き取れなかったが歌を歌うような何を言っているかわからない発語がみられた。痙攣、手と首のふるえ、意味不明な発語発現。2-3分ではっきりとして回復。この時の体温は不明。本剤服用中止。 投与中止7日後、インフルエンザ回復。	異常以外-64	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
73	B-07003968	男性	5歳	不明		幻覚 失見当識	不明 不明	インフルエンザA型に対し、リン酸オセルタミビル服用。幻覚及び失見当識(父親を判別できない状態)が数時間発現。	異常以外-65	
74	B-07013302	男性	5歳	35 mg	トラネキサム酸 カルボシステイン 塩化リゾチーム ヒベンズ酸チベピジン 酪酸菌製剤	落ち着きのなさ	回復	39.0°Cの発熱あり。インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。翌朝、2日目服用。夕方、不穏状態、脱力感発現。前日からの発熱が続いている状態で、落ち着かない感じになり、ふらふらと体に力が入らないようになった。その後、傾眠傾向。来院時、意識は清明で会話も問題なし。	異常以外-66	
75	B-07022880	男性	5歳	不明	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン アセトアミノフェン	痙攣	回復	高熱(39.6度)を出し来院。インフルエンザAと診断し、リン酸オセルタミビル処方。昼、服用後、就寝。服用1時間後、けいれん発作発現。眼球上転し、両上肢を上げ両下肢をつっぱった。数分で回復し、発熱39度台が続いていた。夕方、けいれん発作回復。	異常以外-67	
76	B-07022881	男性	5歳	30 mg		幻覚	回復	前日からの発熱にて受診。インフルエンザA型陽性であったため、家族に説明の上、リン酸オセルタミビル処方。帰宅して本剤1回服用。服用1時間後、「妹の腕に何かがいっぱい刺さっている」「時計の針が遅くなった」「時計、コーヒーカップみたいに体が右左ビックビックとなっている」などの訴えが出現。母親から見て目をパチパチしてたりなどあり。幻覚発現し、本剤服用中止。症状は1~2時間で消失。経過観察目的で入院するも著変なく退院。	異常以外-68	2008/4/1以降 追加報告
77	B-07024355	男性	5歳	投与量 不明		熱性譫妄 熱性痙攣	回復 回復	インフルエンザ発症し、38°Cの発熱。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方。同時に鼻水どめも処方。服用後就寝。就寝約30分後、名前や「ちがう、ちがう」等うわごと(熱せん妄)を言った。就寝約2時間後、軟便、嘔気、嘔吐後再び眠る。就寝約3時間後、起きてスポーツドリンクを飲み、2-3分後、急に起き上がり、嘔吐。その後、全身強直性間代性けいれん(熱性けいれん)を約2-3分間認めた。来院時、発熱以外、チアノーゼなし、心肺腹部異常なし、神経学的異常なし。熱性けいれんで入院した。入院後は本剤使用せず経過観察。入院後は意識もしっかりとした。その後解熱し、退院。	異常以外-69	2008/4/1以降 追加報告
78	B-07024540	男性	5歳	90 mg	アジスロマイシン水和物 耐性乳酸菌製剤(2) カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン 塩酸プロカテロール 塩化デカリニウム	異常行動 幻覚	回復 回復	40°Cの熱で受診。キット微かにA型と判断されたため、リン酸オセルタミビル等処方。夕方、本剤服用1時間後、10分程度、両眼が異常なまばたきを始めた。服用5時間後、全身のふるえが起り、泣き叫んで部屋の中に目玉がたくさんあると言いつつ続けた。10分くらいで症状はおさまった。	異常以外-70	
79	B-07026066	男性	5歳	78 mg		譫妄	回復	リン酸オセルタミビル服用後、譫妄発現。同日、譫妄は回復。	異常以外-71	
80	B-07028058	女性	5歳	36 mg	塩酸セフカペンピボキシル フェンジソ酸クロベラスチン カルボシステイン フマル酸クレマスチン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断にて、リン酸オセルタミビルを処方。服薬1時間後、大声を出す、ふすまを破るなどした。6時間後異常行動回復。家族の判断で本剤内服中止。	異常以外-72	
81	B-01007263	女性	6歳	50mg		浮動性めまい	回復	発熱(39.2°C)、近所でインフルエンザの流行があり、家族の強い希望にてリン酸オセルタミビル投与開始(確定診断せず)。この日は発熱のみで食事とれていた。投与2日目、ふらつきとともに口内痛あり、経口摂取低下。投与3日目に下痢発現(本剤投与終了)。翌日も同様の症状が続いたため来院。経口摂取不可、自力でトイレに行けず、入院(39.6°C)。症状発現から6日後失調は軽快。7日後解熱。9日後回復、退院。	異常以外-73	
82	B-03002360	男性	6歳	68mg	ヒベンズ酸チベピジン D-メレニン酸クロルフェニラミン 塩酸アンブロキソール クラリスロマイシン	譫妄	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル68mg/日を投与開始。投与2日目夕刻、譫妄状態(母親のことが分からない、実在しないものが見える)発現。譫妄は一晩で改善したが、翌日も落ち着かない状態が続く。脱水、肝機能障害があり入院し、同日、内服薬は全て中止。投薬中止から8日目には肝機能障害も回復。	異常以外-74	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	副作用 No	備考
83	B-04027499	女性	6歳	200mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン レボフロキサシン	幻覚 痙攣	回復	A型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル200mg/日を投与開始。投与開始1日目、1回目の投与後、少しの震えを観察。2回目投与約1時間後、全身の震えるような痙攣発現、幻覚をみているような状態が1時間続いた。2日目本剤服用中止、痙攣回復も脱水症状あり、入院。3日目、有害事象回復し、退院。	異常以外-75	
84	B-05001259	男性	6歳	80mg		幻視(幻視) 譫妄(夢遊状態)	回復	インフルエンザB治療のためリン酸オセルタミビル投与2日後突然起きだしげらげら笑い出し、つまむような手の動作をする。発熱39℃。同じ状態が解熱するまで4日間続く。平熱になり、意識正常になった2日後インフルエンザA発症、本剤を1日投与するが譫妄等なく解熱する。	異常以外-76	
85	B-05021404	男性	6歳	99mg	カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チベピジン ジアゼパム フェノバルビタール ピフィズ菌製剤(4) 酪酸菌製剤 塩酸プロカテロール カルボシステイン 塩酸アンブロキシオール	意識レベルの低下(意識レベル低下)	回復	2日前から発熱(40℃)インフルエンザB診断確定後リン酸オセルタミビル投与開始。翌日夜からろれつが回らずうわ言の内容が聞き取れなくなり、手探り動作、意識レベルの低下発現。意識レベル低下発現2日後本剤投与中止と共に意識レベル徐々に回復。意識レベル低下発現8日後に回復となる。担当医によると症状発現中の頭部MRIの所見はインフルエンザ脳症として非典型的。	異常以外-77	
86	B-05023797	男性	6歳	96mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシオール 塩酸シプロヘプタジン イブプロフェン	幻覚	回復	A型インフルエンザで高熱(39℃)のところを受診し、その後リン酸オセルタミビルを服用。約3時間後に幻覚が発現した。入眠するも、翌朝に覚醒後に再度幻覚が発現し、40℃の高熱であった。昼過ぎには幻覚症状が消失し、体温も37℃以下であった。	異常以外-78	
87	B-05024745	男性	6歳	40mg	臭化水素酸デキストロメトルフアン 塩酸アンブロキシオール	幻覚	回復	以前にリン酸オセルタミビルを服用して、幻覚が発現した既往がある。A型インフルエンザで発熱(39.3℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを服用。服用開始から約4時間後に幻覚症状が発現し、リン酸オセルタミビルの内服を中止。その後、幻覚症状は回復した。	異常以外-79	
88	B-05025712	男性	6歳	78mg		譫妄	回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始(39℃)。服用開始後3日目に譫妄出現し本剤投与中止。投与中止2日後に譫妄回復。その翌日にインフルエンザ軽快、回復。	異常以外-80	
89	B-05025713	女性	6歳	不明		錯乱状態	回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始(39.2℃)。夜、本剤2回目服用約1.5時間後に興奮状態、錯乱発現(目が据わり壁に向かって叫び、次に高笑い)。翌朝本剤服用時、味が悪いと少し嘔吐、以降本剤服用せず。夜、体温37.6℃。錯乱回復するが回復時期は不明。	異常以外-81	
90	B-05025717	男性	6歳	75mg		大発作痙攣	回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間40分後硬直・間代性痙攣出現、約5分間持続。30分後救急車にて入院。病院到着時呼び掛けには応じるが、指の不随意運動が見られていた。入院後は全く元気だが高熱は持続、本剤の投与は中止。6日後に解熱し退院。	異常以外-82	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	取別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前公表No	備考
91	B-06024210	女性	6歳	72mg	アセトアミノフェン	幻覚	回復	リン酸オセルタミビル服用後、熱が40°Cになり、アセトアミノフェンを服用し1時間位就寝。目覚めた際に幻覚症状の訴えあり。その後症状なし。4日後インフルエンザ症状回復。	異常以外-83	
92	B-07000278	男性	6歳	88 mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル投与開始。翌日、異常行動発現。その後回復。	異常以外-84	
93	B-07001808	男性	6歳	136.2mg	ドンペリドン	異常行動	回復	37°Cの発熱、咳、咽頭痛が朝よりあったため、感冒剤服用。同日夜、38.3°Cに上昇。嘔吐もあったので、救急受診し、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用時、38.3°C。服用1~2時間後、寝たままで最初手足をビクビクさせ、ワ〜と大声で泣き叫び、全身の筋肉を硬直させ、眼は大きく見開いて一点を凝視した。2~3分持続。反応中は意識不明。5分後、意識回復。その後も、ぐずったり、泣いたりして熟睡している様子ではなかった。38°C台の高熱あり。服用開始2日目の朝、夕方、服用3日目の朝いずれも、38°C台~41°Cの発熱あり。いずれも本剤服用1~2時間後に、毎回、同様の異常行動が発現。本剤中止。	異常以外-85	
94	B-07002053	女性	6歳	96 mg	アセトアミノフェン ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン プロピオン酸フルチカゾン	強直性痙攣	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。痙攣、声を発するなどの異常行動が発現。5分くらいで症状治まる。	異常以外-86	
95	B-07002054	男性	6歳	40 mg		異常行動	回復	診察時から興奮気味。インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夕方、服用後、おかしな発言を繰り返す(こわいこわいと云っている)。睡眠中、夜には一度熱が下がり、症状は落ち着く。服用開始2日目、朝、再び発熱。本剤服用しないが、気分高揚し、妹と遊んでいる最中にはさみで妹の指を傷つけた。服用開始3日目、異常行動回復、インフルエンザ軽快・回復。	異常以外-87	
96	B-07023193	女性	6歳	80 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 塩化リゾチーム アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。すぐ解熱。夕方、本剤2回目服用。服用2日目、朝、夕、服用。夕方服用1時間30分後、就寝。この時点まで著変を認めず。服用3時間後、異常行動(睡眠時遊行症疑)発現。「お母さん、お母さん」と寝言を言い出す。その後閉眼したまま、手で母を追い求める様子動作~手足をバタつかせる動作が約1時間持続。父が揺り起こすと覚醒しその後は異常は認めず。	異常以外-89	
97	B-08027633	男性	6歳	投与量不明		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル処方。インフルエンザに対し、本剤服用開始。服用約4時間後、異常行動発現し、入院。翌日、異常行動回復。		2008/4/1以降新規報告
98	B-03009370	男性	7歳	80mg	クラリスロマイシン 塩酸プロカテロール カルボシステイン 塩酸プロムヘキシン	記憶障害 書字障害 異常行動	軽快	リン酸オセルタミビル80mg/日を処方。開始3日目に、落ち着きがなく会話のつじつまがあわないことに母親が気づく。3日後、通学するも、学校で異常行動が見られ、入院。文字が書けなくなる、父親の名前を忘れる等の症状が出る。7日目に退院。翌日、質問の答えに少し正確性が増す、物の置き場所を思い出す。1ヶ月以上後、母親のはなしでは、文字、計算等は7~8割程度戻ったとのこと。	異常以外-90	
99	B-03009903	男性	7歳	72mg		譫妄	回復	リン酸オセルタミビル72mg/日投与後、うわごとが発現。本剤投与終了日にうわごと回復。	異常以外-91	
100	B-04027265	女性	7歳	80mg	塩化リゾチーム セフジトレンピポキシル フマル酸ケトチフェン	嗜眠 低体温	不明	A型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル80mg/日を投与開始。投与2日目に嗜眠発現。3日目、低体温発現し、本剤投与中止。低体温は6時間で回復。	異常以外-92	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
101	B-05001028	男性	7歳	99mg		譫妄(譫妄(意味のわからない事を言う))	軽快	インフルエンザに対してリン酸オセルタミビルを投与開始。翌日譫妄(意味のわからない事を言う)発現。本剤の投与を中止したところ翌日軽快。	異常以外-93	
102	B-05021660	男性	7歳	不明	アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱(40.0℃)、咳、咽頭痛にて、本剤服用。その後、解熱剤服用。この頃より異常行動(トイレの場所がわからない、いない人が見える等)発現。入院し、採血、CT、MRIに異常なし。本剤から、シメトレルに変更するも異常行動(足をバタバタして突然取う、急に教科書の文章を読む、いない人、物が見えるなど)翌朝まで持続。朝以降、異常行動(意識障害)消失、解熱傾向。3日後、退院。	異常以外-94	
103	B-05024829	女性	7歳	不明		幻覚	不明	担当医の協力が得られずに詳細不明。	異常以外-95	
104	B-05025796	女性	7歳	39mg	アセトアミノフェン リン酸ジメメルファン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン	回転性めまい 幻覚	回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルを夕方より服用開始(38℃)。翌朝服用直後より回転性めまい、幻覚が発現し入院し本剤中止。症状は2時間程度持続した。その後症状消失したが、発熱は持続。入院5日後解熱し、インフルエンザ軽快・回復したため退院。	異常以外-96	
105	B-06025201	男性	7歳	不明	アセトアミノフェン	異常行動 意識レベルの低下	回復 回復	インフルエンザのため、本剤処方。その夜、異常行動(意味の分からないことを話したり、何も無いところに手を伸ばしてつかもうとしたりする)が発現し、入院。翌日、解熱し異常行動消失。2日目、退院。	異常以外-97	
106	B-07000075	女性	7歳	90mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロトルファン 塩化デカリニウム 鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム	幻覚	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用2時間後に幻覚発現。服用5日目、幻覚は回復。	異常以外-98	
107	B-07000157	男性	7歳	90 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン カルボシステイン 耐性乳酸菌製剤(2)	譫妄	回復	朝から、前頭部痛あり。幼稚園にて38.8℃の発熱。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤1回目服用。体温は39℃。夜、2回目服用。深夜、目を覚ましお母さんには何も見えない所を指示し、「見える」と言って身震いをしながら怯えていた。視線は宙を見ているようだった。母親が向かい合わせで抱っこしてつかまえていた。放すと逃げ出したであろうと思われるので、一晩中そのままにしていた。ずっと同じではないが、時々指さしては怯えてもがく感じだった。熱せん妄発現。服用2日目、朝方には落ち着いていた。熱せん妄回復。本人は覚えていなかった。リン酸オセルタミビル3回目服用。以後1日2回ずつ服用。	異常以外-99	2008/4/1以降 追加報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	服薬番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
108	B-07000277	男性	7歳	不明	クラリスロマイシン	譫妄	回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。服用6日目、昼ごろ起床し、本剤内服。約1時間後、せん妄発現。昼寝後、バツと起きて何かとろうとするしぐさをしたり、叫んだりする。「鳥があつちからもこつちからも飛んでくる」「木が歩いてきた」等の幻覚や立ってもフラフラして転ぶ等の症状があった。 夜、受診。受診時には会話は可能だが、明らかに興奮状態であり、大笑い、大泣きしたり、床に転がったりする状態。入院の上、補液のみで経過観察。入院時、インフルエンザウイルスは陰性。服用7日目、朝、せん妄回復し退院。	異常以外-100	
109	B-07001360	男性	7歳	138mg		激越	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。服用1時間後、約30分位いたり、父親に殴りかかった(叩いた)という異常行動発現。 その後異常行動は治まり、以後本剤2回内服したが異常行動はなかった。異常行動軽快。その後服用中止。	異常以外-101	
110	B-07001665	女性	7歳	87 mg	クラリスロマイシン 臭化水素酸デキストロメトラン 耐性乳酸菌製剤(3) アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザウイルス測定でははっきり陽性とならなかったが、インフルエンザの可能性強かったため、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後、本剤服用。服用10分後、実際にはないコップをとうろしたり、かけていない布団を布団が重いからとってくれと言ったり、意味がわからない言葉をつぶやいていたので、母親が心配になり入院。	異常以外-102	
111	B-07001811	男性	7歳	116mg	ジアゼパム	意識変容状態	回復	発熱あり。受診し、インフルエンザB型との診断にて、リン酸オセルタミビル処方。昼、1回目服用。夜、ジアゼパム坐剤使用2時間30分後、本剤2回目服用。服用1時間30分後、意識障害が発現。寝ている時に急に起き上がり、何か意味不明のことを言う。5分位で再び入眠。1時間に1回位の頻度で繰り返した。(後から聞く本人の記憶なし)服用2日目、朝、壁に向かって笑う。経過中けいれんはなし。服用開始から3日目、意識も完全に清明。	異常以外-103	
112	B-07001812	女性	7歳	99mg	ヒベンス酸チベジジン 塩酸アンプロキソール 塩酸シプロヘパタジン 塩酸ツロブテロール	異常行動	回復	インフルエンザB型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。服用開始2日目、解熱。就寝後に手をばたばたさせ、イヤダイヤダとさわく。服用3日目、夜、前夜と同様のエピソードが2時間置きの頻度で発現。服用4日目、服用中止。	異常以外-104	
113	B-07002996	男性	7歳	120mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザB型と診断されリン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用。 投与開始2日目、朝、2回目服用し、再び受診。本剤は継続。夜、3回目服用。その後熱が40℃まで上昇したので、アセトアミノフェン服用。その後、意味不明な言葉を発し、夜中、目の前がまぶしいと訴えまっつけを抜き始めた。 投与開始3日目、家族より連絡をうけ、本剤中止し、受診。熱は39.2度。まぶしい、暑い、えらいを繰り返した。その後、異常行動のため入院。輸液のみの処置で経過観察。血液、脳波にインフルエンザ脳炎脳症を疑う異常所見はなし。 投与中止1日	異常以外-105	
114	B-07007903	男性	7歳	76 mg		痙攣 譫妄	回復 不明	発熱出現し、近医受診。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方された。 昼と夜の2回服用。夜間入眠中に幻覚症状、異常言動発現。 服用2日目、朝、本剤服用より約1時間後、痙攣が約1分間出現した。全身性痙攣発現。当科外来受診来院時には、痙攣消失。意識障害遷延。ジアゼパム投与後、頭部CT施行。入院後、混合ビタミン剤等を投与し、骨髄検査、等施行。頭部MRIにて拡散強調画像で脳梁脚大部に高信号域を認めた。骨髄検査、CTは異常なく、MRI所見は可逆性の病変であった。異常言動、全身性痙攣回復したが譫妄発現。 本剤服用終了1日目、体温38～39℃持続したが、意識レベル清明。 本剤服用終了2日目、午前体温36℃台に解熱。 本剤服用終了5日目、解熱維持し、全身状態改善し退院。	異常以外-106	2008/4/1以降追加報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回の No	備考
115	B-07026573	男性	7歳	90 mg		異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日、服用開始6時間後、手もみをしたり、腕組みをくり返す。祖母の洋服を意味なくひっぱったり、祖母に汚い言葉投げかける。受診し入院。この間本人の記憶なし。入院後、異常行動はなし。	異常以外-107	
116	B-08002522	男性	7歳	48 mg	アセトアミノフェン 塩化デカリニウム ヒベンズ酸チペピジン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンブロキシール セネガ	異常行動	回復	学校で38.9℃と咳嗽。 迅速検査にてインフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。服用約1時間後、目を見開いて二本指で指す。髪の毛が逆立つ。体のおき所がない様子、「お母さんよ、わかる？」と聞くと、にやっと笑うといった異常行動発現。 服用2日目、朝、本剤服用。体温38.1度。指差す、自分の名前を言うといった異常行動発現。やきそばを2~3口食べる。入院し、抗生物質等を点滴静注。以後、本剤服用中止。その後、インフルエンザ軽快・回復と判断。		2008/4/1以降 新規報告
117	B-08002921	女性	7歳	72 mg	アセトアミノフェン メクロプラミド 塩酸トリメキノール カルボシステイン 酒石酸アリメマジン	異常行動	回復 回復	感染性胃腸炎発症した翌日、インフルエンザA型およびB型混合感染と確定診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、感染性胃腸炎治癒。 服用3日目、深夜睡眠中に、突然、四つん這いになって、左足は蹴りながら異様な(おなかの奥底から唸っている様な)唸り声でウオーウオーと叫び続ける。名前を呼びかけても体を押しても全く反応せず、吠え続けている様。最後に普通の泣き声になり(2~3分の短時間のみ)睡眠状態となる。 祖母より電話連絡あり、担当医に報告。本剤服用中止の指示を出す。 異常行動はその後認められないため、回復と判断。		2008/4/1以降 新規報告
118	B-08025787	女性	7歳	36 mg		幻覚	回復	リン酸オセルタミビルを服用しテレビを見た後、入眠する。 服用開始より約2時間後、舌をべろべろしながら大笑し足をばたばたさせているので祖母が足をおさえた。「今、大変なことが起きているよ」という幻覚発現。 その後入眠。その後「大変なことが起きるよ」「サンタのおじさんがトナカイに乗って来ているよ」という。眼球は一点を注視していたとのこと。翌日、起床後は異常行動なし。前日の記憶なし。		2008/4/1以降 新規報告
119	B-08029841	女性	7歳	75 mg	メトレキサート メトレキサート メトレキサート メトレキサート コハク酸ヒドロコルチゾンナトリウム コハク酸ヒドロコルチゾンナトリウム ホリナートカルシウム ホリナートカルシウム 塩酸グラニセトロン 塩酸グラニセトロン 塩酸セフォチアム タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム トブラマイシン アムホテリシンB 水酸化マグネシウム	舞蹈病アテ トーゼ 精神症状 無力症	回復 回復 回復	急性リンパ性白血病を合併しており、前治療あり。体温は38.2℃。抗生物質の投与を開始。 病棟内でインフルエンザA型発生。免疫抑制のリスクを考えリン酸オセルタミビル服用開始。 服用2、3、4日目、朝夕本剤服用。抗生物質の投与終了。 本剤投与終了から1日目、院内学級で興奮状態、歩行困難となり病室へ戻る。 多幸感や急に泣き出すなど感情失禁あり。 指示は理解するが、従命できず、全身性に脱力、アテトーゼ様運動あり。 ベッド上でもじっとしてられない。 鎮静剤等投与。入院。 急性ウイルス性脳症、メトレキサート脳症などを疑い髄液検査、頭部MRI、血液検査を行うも原因を示唆する異常所見なし。 覚醒。やや興奮状態は続くも、不随意運動は消失。 本剤投与終了から2日目、起床時には普段の状態に戻る。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
120	B-02006808	男性	8歳	150mg	イブプロフェン ドンペリドン アセトアミノフェン ヒベンス酸チベピジン カルボシステイン メキタジン	浮動性めまい	回復	発熱(38.9℃)、大腿部痛を訴え歩行困難。同日、体温39.2℃、嘔吐でリン酸オセルタミビル投与。 翌日、頭痛、嘔気、倦怠感を訴え元気がないため点滴(ソリタT1 500ml、20%グルコース40ml)施行。本剤を120mg/日に変更。 同日の夕刻、嘔気とめまいを訴え、ふらつき歩けなくなる。 2日後、本剤は中止となる。 めまい、ふらつきが改善しないため、他院転院。 転院2~3日後、回復退院となる。	異常以外-108	
121	B-02013074	女性	8歳	90mg		片頭痛	回復	インフルエンザ予防目的(家族がインフルエンザA発症のため)にて、リン酸オセルタミビル投与。本剤投与4回目の服用後、2~3時間後に強い右側頭部痛、嘔吐あり。カロナール坐薬を使用するも痛み軽快せず、イミグラン投与後軽快。片頭痛の既往歴有り。	異常以外-109	
122	B-03001781	男性	8歳	120mg	アセトアミノフェン レバミピド	幻視 異常行動	回復	発熱有り受診し、インフルエンザと診断される。リン酸オセルタミビル投与2日目、異常行動、痙攣発現。入院となるが、会話できる状態であったため、本剤内服継続し経過観察。脳波所見からインフルエンザ脳症と判断して、幻視、異常行動もインフルエンザ脳症と考え、本剤を投与継続。 本剤服用3日目、解熱し、本剤服用中止となる。	異常以外-110	
123	B-03003105	男性	8歳	105mg	アセトアミノフェン フマル酸クレマスチン ヒベンス酸チベピジン カルボシステイン	部分発作	軽快	体温40.0℃となり、アセトアミノフェン坐薬(200mg)使用。 翌日、体温38.7℃、鼻水、鼻づまり、咳からむ、咳時々にてリン酸オセルタミビル投与開始。 本剤2回目投与後、「こわい!」とわめく、視線合わなくなる。体温40℃となり、他院受診。「脳炎」ではないと言われる。 翌日、体温38.2℃。その後本剤は服用せず、ふつうとなる。	異常以外-111	
124	B-03011619	女性	8歳	180mg		精神障害 表出性言語障害 流涎過多 嚥下障害	未回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル180mg/日を処方。投与3日目に、えん下障害、精神障害、言語障害、唾液分泌促進が発現し、本剤投与中止。1ヶ月以上過ぎて、大量の唾液と、少し言語障害がある。	異常以外-112	
125	B-04026773		8歳	不明	なし	痙攣	不明	B型インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビルを1回服用。解熱後、一過性痙攣で嘔吐。本剤投与中止。その後、症状は消失。	異常以外-113	
126	B-05000045	女性	8歳	70mg	なし	失語症 意識変容状態	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル70mg/日を投与開始。投与開始2日目夕刻、自分の名前、年齢等が言えないことが観察されるため、入院。本剤の服用は、2日目の朝で中止。翌日、有害事象回復するも、有害事象発現時の状況に関する記憶なし。	異常以外-114	
127	B-05020337	男性	8歳	51mg	ヒベンス酸チベピジン 塩酸アンブロキシオール フマル酸クレマスチン アセトアミノフェン	譫妄(せん妄)	回復	A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを治療目的に投与。本剤服用4時間後、異常行動、せん妄が発現。その3時間後、異常行動改善。さらにその4時間後、異常行動発現。その後、せん妄回復し退院となる。	異常以外-115	
128	B-05020702	女性	8歳	105mg	ヒベンス酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン シャゼンソウエキス	意識変容状態 嚥下障害 構音障害	回復	発熱、上気道炎のため消炎剤等投薬、発熱等発症後4日経過してからインフルエンザと診断しリン酸オセルタミビル投与。その翌日嚥下障害、構音障害発生、3時間後意識レベル低下、入院治療。本剤投与中止。3日後解熱し、8日後に回復退院。	異常以外-116	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前記No	備考
129	B-05022003	男性	8歳	不明		譫妄 異常行動 落ち着きのなさ	軽快	既往歴として無菌性髄膜炎あり。 発熱(38.6℃)にて受診し、本剤処方される。本剤服用後、意味不明の言葉、意味不明の行動、不穏発現(5~10分間)。救急車にて来院、来院時は意識障害なし。点滴し、2時間経過観察するが、譫妄、異常行動、不穏軽快。帰宅	異常以外-117	
130	B-05026593	男性	8歳	50mg	カルボシステイン ヒベズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン	譫妄	不明	A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル服用を開始した。服用開始から約2時間半後にせん妄が見られ、約30分持続した。その後、リン酸オセルタミビルの服用は中止した。	異常以外-118	
131	B-06016148	男性	8歳	不明	セフトレキシム カルボシステイン	意識レベルの低下 痙攣 頭痛	回復 回復 未回復	詳細が不明。 インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルの服用を開始した。意識レベルの低下、痙攣、頭痛はリン酸オセルタミビル服用終了後7~8日後に発現した。	異常以外-119	
132	B-06026529	女性	8歳	75 mg		意識変容状態 大発作痙攣	回復 回復	リン酸オセルタミビル75mg内服10分後、嘔吐し、その後焦点合わず氷をいじったり、靴下をいじったりして呼びかけに答えなくなり、眼球上点、全身強直間代性けいれんとなった。けいれんが止まった後も、呼びかけに答えずに四肢を動かさず意識障害が持続し、当院搬送。3時間後には意識清明になった。	異常以外-120	
133	B-07000135	男性	8歳	102 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤2回目服用後、ベッドの上で跳び始めた。何かにおびえる様子。異常行動発現。38℃台。2日後、異常行動回復。	異常以外-121	
134	B-07000164	男性	8歳	130 mg	塩酸アンブロキシソール カルボシステイン	痙攣 意識レベルの低下	軽快 軽快	インフルエンザウイルス感染治療の為、リン酸オセルタミビルを投与開始。同日、けいれん、自動運動発現。同日軽快。	異常以外-122	
135	B-07000293	男性	8歳	99mg	フマル酸ケチフェン アセトアミノフェン	異常行動 落ち着きのなさ	回復 回復	発熱39℃、鼻症状あり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。翌日、解熱。食欲もあつたが良く寝ていた。本剤服用開始3日目、異常言動・行動、不穏状態発現。「現実か?夢か?」と言う。急に自分をつねる、急に泣く。本剤朝服用後投与中止。その後も不穏状態が続き受診。集中できず、突然泣き出す。その後泣いていたことは覚えているが、何故泣いていたのかは自分でもわからない状態。診察中、視線も合わない。入院して経過観察。血液検査、脳波、頭部MRIはいずれも異常なし。特に処置はせず。翌日、不穏状態軽快し、インフルエンザ罹患以前の意識状態に戻る。退院。	異常以外-123	
136	B-07001894	女性	8歳	52.5 mg	ヒベズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン	痙攣	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用3時間半後、けいれん(軽微)発現。インフルエンザによる発熱あり。けいれん軽快。	異常以外-124	
137	B-07002309	男性	8歳	75 mg	維持液(3) 酢酸リンゲル液(ブドウ糖加) チアミン・ニコチン酸アミド配合剤	異常行動 意識レベルの低下	回復 軽快	A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル服用。2日で解熱。約1ヵ月後、再度、A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。ふすまかじる、目の焦点が合っていないなどの症状が発現。入院となる。症状軽快。翌日、解熱、輸液投与。インフルエンザ症状軽快。通常どおり受け答え。	異常以外-125	
138	B-07002855	女性	8歳	不明		痙攣	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。夜、本剤内服後、痙攣にて夜間診療所に搬送。	異常以外-126	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
139	B-07010109	女性	8歳	84 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。2、3分寝そべてだだをこねるように(手をつけられないほど)暴れた。 服用5日目、異常行動回復。朝、服用後、本剤終了。	異常以外-127	
140	B-07023860	男性	8歳	51 mg	セフボドキシムプロキシセチル ヒベンズ酸チベジン カルボシステイン	譫妄	軽快	インフルエンザA型と診断し、リン酸オセルタミビル処方され、服用開始。 同日晩、5分ほどぶつぶつ言葉にならないわ言に家人が気付き、声を大きくかけてはっとした感じで目がさめた。 父と母で声をかけていつもとかわらない状態となった。	異常以外-128	
141	B-07025432	男性	8歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。異常行動発現。 服用2日目、異常行動回復。	異常以外-129	2008/4/1以降 追加報告
142	B-07025433	女性	8歳	投与量 不明		異常行動	回復	インフルエンザ罹患3日目の昼に受診。同日晩からリン酸オセルタミビルを服用。 服用2日目、朝・晩に服用。体温は37.8℃。 就寝して3時間後に、大声でアー、ギャーといった奇声を発し、尋常でない強さで足をバタつかせ、親を蹴ったりしていた。意識はなく、5分後に再度入眠した。	異常以外-130	2008/4/1以降 追加報告
143	B-07028438	男性	8歳	80 mg		異常行動	回復	インフルエンザウイルスA型治療のため、リン酸オセルタミビル服薬開始。 服薬2日目深夜、入眠直後に覚醒した如く発声あり、内容は「死にたい」「自分が死んでいるのが見える」「外に連れて行け」と話し続けた。約1時間後、突然覚醒した。異常行動回復。	異常以外-131	
144	B-08001748	女性	8歳	45 mg	クラリスロマイシン ヒベンズ酸チベジン 塩酸プロムヘキシ ン 塩酸シプロヘプタジ ン 耐性乳酸菌製剤(3)	幻覚 幻聴	回復 回復	インフルエンザA型発症。体温は40.0℃。 受診し、インフルエンザA型確定診断。インフルエンザA型に対し、リン酸オセルタミビル、 抗生物質等が処方され服用。 その後就寝。 服用約1時間後、起床時に、いないものが見える。いない人の声が聞こえるといった異常 行動が発現。発熱は持続。 当院受診、輸液にて改善。以後、同症状でない。以降、本剤投与中止。その後インフル エンザ回復。		2008/4/1以降 新規報告
145	B-08003761	男性	8歳	105 mg		浮動性めまい 嘔吐	回復 回復	高熱を出し受診。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。 患児は以前も本剤を処方されたことがあったため、薬の量が多いと感じた母親が診療 所の職員に確認したが、「先生の処方なので大丈夫」と返答された。帰宅後に服用。 夜、「目が回る」と訴えた。めまい感発現。 母親が急患診療所に電話で相談したが、ここでも担当者は保管していたカルテを確認し ながら、ミスに気づかず、処方通りの服用を指示した。 服用2日目、朝、本剤を服用すると、患児は再び「気分が悪い」と訴えて、吐いた。嘔吐発 現。別の医院を受診。初めてミスが分かった。 病院に入院し、薬剤の血中濃度を薄める点滴治療を受けた。 入院後、回復し退院。		2008/4/1以降 新規報告
146	B-02000727	女性	9歳	100mg	セフテラムピボキシル	幻覚	回復	インフルエンザ様疾患のためリン酸オセルタミビルを18時頃服用開始。20時45分幻覚様 症状発現。睡眠中突然目を開き一点凝視。名前を呼ぶも返答せず、何度かの呼びかけ で返答するようになる。5分後幻覚様症状回復、意識清明後の検温では37℃であった。 翌朝7時頃本剤2回目服用、服用2時間後より腹痛、嘔気あり。1時間程度で症状消失。 19時に本剤3回目服用後腹痛、気分不良。30分程度で症状消失。	異常以外-132	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
147	B-02001235	男性	9歳	75mg	カルボシステイン セフジニル マレイン酸クロルフェニラミン リン酸ジヒドロコデイン 塩酸メチルエフェドリン ロキソプロフェンナトリウム	痙攣	回復	インフルエンザB型と診断、リン酸オセルタミビル75mg/日を処方。本剤75mgを服用。翌朝、75mgを服用し解熱。同日夜、10分程度持続する全身の痙攣が発生し、自然軽快。後遺症なし。自己判断で本剤服用中止。2日後、受診時、咽頭痛のみでその他は無症状。	異常以外-133	
148	B-03007837	男性	9歳	112.5mg	なし	意識変容状態	回復	インフルエンザと確定診断後、リン酸オセルタミビル112.5mg/日を投与開始。投与1回目直後に嘔吐、10分後再服用時の30分後に意識不明の言動を認める。有害事象発現30分後に処置なしで回復、入院して継続投与するも、その後は有害事象を発現せず。	異常以外-134	
149	B-03009909	男性	9歳			痙攣	回復	リン酸オセルタミビルを投与後、痙攣が発現。その後回復した。	異常以外-135	
150	B-04024623	男性	9歳	不明		譫妄	回復	インフルエンザA型と診断、夕方、リン酸オセルタミビル(量は不明)を服用。翌朝、2回目を服用し、解熱したが、食欲・活気不良。同日夕方、異常な発言あり、倒れ込み受診、軽度意識障害が疑われた。同日夜、救急外来を受診、平熱で歩いて入室し、見当識は保たれていたが、意識清明とは言えずごく軽度の意識障害が疑われた。本剤は2回の服用で終了。事象発現から9日目に徐波消失、退院。退院から18日後、夜間に突然、強い不安と軽度の意識変容が見られ、入院。経過は前回と全く同様で、10日目に退院。	異常以外-136	
151	B-04025081	女性	9歳	不明	なし	幻覚 嘔吐	不明	インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビルを服用後、まもなく幻覚あり、嘔吐し、泣いた。	異常以外-137	
152	B-05022091	男性	9歳	84mg	セフジニル 酢酸維持液 ソリタT-1	異常行動	回復	発熱(38.6℃)にてインフルエンザ陰性であったが、本剤処方。投与後、嘔吐あり。2回目服用後、異常な発言を行い、救急車にて来院、入院となる。入院時、意識正常、異常言動なし。本剤は、中止とした。	異常以外-138	
153	B-06002230	男性	9歳	不明	プロピオン酸フルチカゾン	痙攣	回復	A型インフルエンザで発熱(39.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約1時間後に痙攣が発症し、約5分後に回復した。その後、リン酸オセルタミビルの服用は中止した。 痙攣の既往歴あり。	異常以外-139	
154	B-06026846	男性	9歳	80mg	臭化水素酸デキストロトルファン アセトアミノフェン	異常行動 痙攣	回復 軽快	インフルエンザA確定。服用30分後に奇声を発するも押さえつけ入眠。けいれん発現。入院目的に搬送時、意識クリアーになる。	異常以外-140	
155	B-06026849	女性	9歳	60 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザの診断なし。リン酸オセルタミビル60mg1回服用。40分就寝した後、布巾を激飛ばし「怖い」と叫び、視点が定まらず、母がつかまえていた。インフルエンザ迅速検査陰性、咽頭粘液、血液でのインフルエンザウイルス同定(PCR)陰性。	異常以外-141	
156	B-07000124	男性	9歳	不明		異常行動	回復	昨シーズン、リン酸オセルタミビル服用時に異常行動(不思議な言動)が発現。今シーズン、インフルエンザ感染症に対し、本剤処方。熱39.5℃~40.3℃。服用2時間後、異常行動発現。腹痛、吐き気。翌日、異常行動回復。インフルエンザ軽快。	異常以外-142	
157	B-07001281	不明	9歳	112.5mg		悪夢 睡眠驚愕	軽快 軽快	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用による幻覚がトラウマになり、悪夢、夜驚症が発現。インフルエンザ発症から約2ヵ月後、副作用の訴えからジアゼパム処方。悪夢、夜驚症軽快。	異常以外-143	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
158	B-07003013	女性	9歳	不明	セフトキシムフロキセテル アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。うわごとを言う、添い寝していた家族をける等の行動が発現。投与開始2日目、本剤服用中止。	異常以外-144	
159	B-07022879	男性	9歳	67.5mg	セラベプターゼ カルボシステイン アセトアミノフェン	錯乱状態	軽快	インフルエンザAと確定診断。リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤1回目服用。服用6時間後、笑ったり、叫んだり、動き回ろうとし、反応が乏しいため救急要請。CT、採血、異常なし。本剤服用継続の指示あり。服用2日目、朝、本剤2回目服用3時間後、上記と同様の症状が出現。	異常以外-145	
160	B-07024539	女性	9歳	54 mg		落ち着きのなさ	回復	A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方、1回目服用。服用2日目朝、本剤服用4時間後、突然暴れ出した。約5分後に正気に戻り、その後薬30分位号泣が続いた。	異常以外-146	
161	B-07026290	男性	9歳	52 mg	クラリスロマイシン クラリスロマイシン リン酸ジメホルファン カルボシステイン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断。朝、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間後、奇声を上げるなど異常行が入院。服用終了6日目、異常言動回復。	異常以外-147	2008/4/1以降 追加報告
162	B-07027258	男性	9歳	48 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘパタジン アセトアミノフェン セフテラムピボキシル	譫妄	回復	インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル処方。昼、本剤服用約2時間30分後、眠っていて足をバタバタさせて暴れる様な状態であった。目は閉じていて呼んでも目を覚まさなかった。この様な状態が5時間くらい続いた。その後落ち着いて夜は普通に睡眠した。せん妄(非重篤)発現。服用から2日目、午後受診した時は、異常は認められなかった。	異常以外-148	
163	B-07027838	男性	9歳	114 mg		譫妄	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル処方。服薬3日目、興奮状態出現。なかなか眠らず。服薬4日目、朝方、起きて興奮して暴れたが、同日せん妄状態回復。	異常以外-149	
164	B-08001746	女性	9歳	投与量 不明		意識消失	回復	前日にインフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを服用していた。意識消失し便失禁しているところを家人が発見し、当院救急搬送された。来院時には意識清明であったが、色が分からず全てが白黒にみえると訴えた。覚醒時脳派にて両側後頭葉の基礎波に徐波派を認めた。頭部CT・眼科的には異常所見なく、翌日には色覚は正常となり、脳波も基礎律動正常化した。		2008/4/1以降 新規報告
165	B-06003837		10歳代	不明		昏睡	不明	詳細不明(担当医の協力が得られなかった。)	異常以外-150	
166	B-04001019	男性	10歳	75mg		痙攣 意識変容状態	回復	39°Cの発熱で、インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル75mgを服用後1時間半で意識障害、30分のけいれんが出現。入院し点滴を受け5時間半後には意識清明となる。事象発現から2日後には意識障害、痙攣は回復し、後遺症なく退院した。	異常以外-151	
167	B-04027255	男性	10歳	150mg	ヒベンズ酸チベピジン	幻覚 幻聴	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル150mg/日及びヒベンズ酸チベピジンを投与開始。2回目の服用の2時間後、1回の幻聴出現。服用4時間後、4回の幻覚出現。幻覚出現の5時間後、両有害事象回復。	異常以外-152	
168	B-05026626	男性	10歳	120mg	鎮咳去たん配合剤(1)	痙攣	回復	A型インフルエンザで発熱(39°C)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始日の夜に痙攣が生じ、回復した。投与開始から5日目にインフルエンザが軽快、回復した。	異常以外-153	
169	B-06023780	男性	10歳	36mg	カルボシステイン ザナミビル水和物	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル内服後、30分後に異常発言あり。その30分後、異常発言回復。	異常以外-154	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
170	B-06024213	男性	10歳	150 mg	カルボシステイン 塩化リゾチーム 塩酸プロムヘキシン	異常行動 意識レベルの 低下	回復 回復	リン酸オセルタミビル2回目服用後、約2時間後に異常行動、意識混濁が発現。熱が高 そうな状態で、寝起きに意味不明なことを言う。その5分後には回復している。さらに1時 間後に息苦しさを感じ、外来受診するが異常なし。	異常以外-155	
171	B-06024320	男性	10歳	69mg	アセトアミノフェン 塩化チカリニウム	幻視	回復	4~5年前にリン酸オセルタミビルの服用歴があり、問題はなかった。39.3℃、咽頭痛、頭 痛、傾眠から臨床的にインフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル1回目服用後、2時 間後に異常な発言があり、母親の問いかけに「夢が現実かわからない」という。翌日早 朝、38.0℃。幻覚様症状継続。屋前には幻覚様症状なし。	異常以外-156	
172	B-06024664	女性	10歳	不明		幻覚	軽快	リン酸オセルタミビルを服用し寝ていると、急に起きて「黒いものが見えて怖い」と言い、 嘔吐し震えていた。以降服用は中止し、翌日軽快。	異常以外-157	
173	B-06025003	女性	10歳	60mg		幻覚 妄想	軽快 軽快	本剤投与開始後、悪夢(大きなクモがいる)出現。 その後悪夢軽快。	異常以外-158	
174	B-06025580	男性	10歳	100mg	アセトアミノフェン ソルデム1(点滴) ブドウ糖(点滴)	異常行動	回復	発熱(39.2℃)、倦怠感、嘔気にて、本剤投与。 その夜異常行動(弟が誰かに首を絞められていると必死に訴える行動、うつぶせになっ て手足をバタつかせる)あり、同日回復。 5日後、インフルエンザ軽快	異常以外-159	
175	B-06026131	男性	10歳	75 mg		異常行動	回復	前夜、40℃の高熱発現。インフルエンザB型の診断でリン酸オセルタミビル処方。朝、1回 目服用。夜、本剤を飲ませようとしたところ、少しぼおとして意味不明な言葉を叫ぶ 等、異常行動が5分くらいあり。救急車到着。表情うつろ。痙攣なし。意識レベル1。救急 外来到着時、胸部X-P、頭部CT異常なし。インフルエンザ脳症の可能性も否定しきれず 入院。翌朝、平熱。異常行動なし。	異常以外-160	
176	B-07000074	女性	10歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動発現。しゃべりまっ くっていた。	異常以外-161	
177	B-07000107	女性	10歳	130 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン イブプロフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。 異常行動、言動(家電をなぐった)発現。 服用3日後、異常行動、言動回復。	異常以外-162	
178	B-07001663	男性	10歳	120 mg	カルボシステイン アセトアミノフェン	譫妄	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル5日分投与開始。服用1日目、異常な 行動はなかったものの、「お父さんがお母さんを殺そうとしている」など、非現実的な事を 話していた。せん妄発現。 翌日、せん妄回復。 服用5日目に服用終了。	異常以外-163	
179	B-07003787	男性	10歳	150mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシソール d-マレイン酸クロルフェニラミン ドンペリドン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。本剤服用約2時間後、2回嘔吐 あり。 投与開始2日目、朝、39.5℃。本剤服用。服用約4時間後から食欲低下あり。恐れる、泣く といった異常行動発現。普段はめめめする性格ではないが、些細なことでもめめめして 泣く。 投与開始4日目、再受診。35.6℃。副作用と思われる精神症状が認められたため、夕方 の分より本剤投与中止。異常行動回復。	異常以外-164	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
180	B-02002181	男性	11歳	150→ 75mg	プラノプロフェン テブレノン ドンペリドン	虚妄 幻覚	軽快	臨床症状よりインフルエンザと診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与1日目夕刻、異常な発現を観察。翌朝まで何回かのうわ言が観察される。その後投与量を75mg/日に変更して本剤投与を継続するが、有害事象の発現はなし。	異常以外-165	
181	B-06000460	男性	11歳	140mg	アセトアミノフェン カルボシステイン 鎮咳配合剤(1)	幻覚	回復	A型インフルエンザで発熱(38.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始日の夜に幻覚が発現し、病院で血液検査と頭部CTで異常が見られなかった。幻覚は回復した。	異常以外-166	
182	B-06025414	女性	11歳	不明		聴覚過敏 錯覚 虚妄 計算力障害	軽快 未回復 軽快 軽快	本剤投与開始後、音に異常反応を示す、異常知覚、せん妄、計算障害発現。翌日、投与中止。現在、症状未回復。	異常以外-167	
183	B-07000100	男性	11歳	150 mg		幻覚 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザ治療の為、リン酸オセルタミビル服用開始。幻覚、行動の異常発現し、同日回復。	異常以外-168	
184	B-07000200	女性	11歳	150 mg		意識消失 痙攣	回復 回復	インフルエンザBの診断のため、リン酸オセルタミビル処方。翌朝、急に目が見えないと言い意識を失い、その後眼球が上転し四肢がこわばる様な痙攣を起こしたが、数分で回復。37.6℃。翌日、インフルエンザ軽快。	異常以外-169	
185	B-07000241	男性	11歳	135 mg	塩酸シプロヘプタジン 塩酸クロフェダノール 塩酸アンプロキシソール ロキソプロフェンナトリウム	恐怖	回復	インフルエンザ治療の為、リン酸オセルタミビル投与開始。夜、2回目投与後、「怖い、怖い」とうわ言を言った。異常行動・うわ言発現。4日後、異常行動・うわ言回復。	異常以外-170	
186	B-07001737	男性	11歳	不明	セフテラムピボキシル 臭化水素酸デキストロメトラン イブプロフェン	激越 激越	回復 回復	朝、38.5℃。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。昼より、本剤服用開始。本剤2回目服用2~3時間後(深夜)、興奮状態発現。眠っていたが、急に起き上がり「宿題がわからん」など叫び、寝言かと思っていたが、自分の頭をドンドンたたき始めた。髪をかきむしった(抜く程ではない)。1時間程の間に3回ほど、興奮状態は1時間で回復。服用2日目、夜、服用後3~4時間後(深夜)、興奮状態発現。前日とほぼ同様の症状であった。一度は立ち上がろうとした。興奮状態は約1時間で回復。	異常以外-171	
187	B-07015653	不明	4歳~11 歳	投与量 不明		脳症	不明	臨床症状あるいは迅速抗原検査で、インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル服用。その後、インフルエンザ脳症、異常言動・異常行動発現。	異常以外-401	2008/4/1以降 追加報告
188	B-02001392	女性	12歳	67.5mg	リン酸ジヒドロコデイン配合剤 ヒベンズ酸チベピジン	失神	回復	インフルエンザが疑われリン酸オセルタミビル0.9カプセル(67.5mg)を服用。服用2時間後、冷蔵庫の物を取ろうとしたときに、一瞬意識がなくなり倒れた。その時の記憶ははっきりしない。45分後に輸液を投与し、数時間後に一般状態まで回復。	異常以外-173	
189	B-02002041	女性	12歳	150mg	カルボシステイン リン酸ジメモルファン 塩酸シプロヘプタジン	虚妄	回復	腹痛あり、A型インフルエンザと診断。治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。本剤を朝服用開始し、当日夜寝る前興奮し、変な夢を見ているようだった。本剤投与中止。翌日朝、意識が清明に戻る。	異常以外-174	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	供用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No	備考
190	B-02003019	男性	12歳	150mg	アスピリン・VC配合剤 サリチルアミド/アセトアミノフェン/ 無水カフェイン/プロメタジンメチレ ンジサリチレート 臭化水素酸デキストロトルファン	意識消失	回復	インフルエンザのためのリン酸オセルタミビル服用開始。19時頃2回目服用後臥床。23時頃自力で立位を保てず意識を失った。そのとき失禁。すぐに下の布団に戻し、約5分後に症状回復。翌日インフルエンザ回復。	異常以外-175	
191	B-03001391	男性	12歳	37.5mg	アセトアミノフェン フマル酸クレマスチン 塩酸ツロプテロール カルボシステイン	意識レベルの低下	回復	1998年6月から成長ホルモン分泌が低下しはじめ現在も成長ホルモンを投与している。インフルエンザ治療のため夕方よりリン酸オセルタミビル服用開始(39℃)。服用2日目の18時頃解熱していたがつかれて横になっていた。嘔気出現し嘔吐後そのまま意識が悪くなった。意識低下は3分ほど持続。18時40分頃来院。顔色不良だが意識は清明。翌日点滴にて解熱傾向、嘔吐もなし。	異常以外-176	
192	B-03010918	女性	12歳	132mg	臭化水素酸デキストロトルファン 塩酸チアラミド	視野欠損	回復	リン酸オセルタミビル132mg/日他を処方。3日間服用し、4日目の起床時、右目の下半分が見えなくなったため、投薬中止。2~3時間後、回復。	異常以外-177	
193	B-04008523	男性	12歳	30mg	アジスロマイシン水和物 アセトアミノフェン	意識レベルの低下	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル60mg/日他を処方。帰宅後、本剤30mgを服用。1時間後、軽度意識混濁発現、かん高いうなり声、約40分間の多弁、目が丸くなった、多動、41.7℃の高熱が認められた。事象発現から1時間後には落ち着き、さらに1時間後に再度受診したが、意識清明、発熱38℃。翌日朝、調子が良くなり、36.8℃に解熱。	異常以外-178	
194	B-05024490	男性	12歳	150mg	クラリスロマイシン	幻覚 激越	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(39.0℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用開始。投与開始から3日目に幻覚及び興奮が出現した。リン酸オセルタミビルの服用を中止し、投与開始から5日目にインフルエンザが軽快し、幻覚及び興奮は発現から4日目に回復した。	異常以外-179	
195	B-05026111	男性	12歳	75mg	アセトアミノフェン	幻覚	回復	A型インフルエンザ治療のため昼食後にリン酸オセルタミビルとアセトアミノフェン服用(38.9℃)。20分後に嘔吐し幻覚発現。服用2時間後受診時、発熱(40℃)、全身倦怠感著明だが、意識清明で応答も普通であった。翌日解熱傾向(37℃台)となり意識障害、幻覚なし。	異常以外-180	
196	B-05026114	男性	12歳	130mg	ラクトミン	妄想	軽快	A型インフルエンザで発熱(39.0℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から2日目にインフルエンザが軽快(体温37.0℃)したものの、リン酸オセルタミビルの服用を5日間続けた。服用開始から3日目に妄想が発現し、約9日後に軽快した。	異常以外-181	
197	B-05026980	女性	12歳	150mg		痙攣 意識変容状態	軽快	A型インフルエンザで発熱(37.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始する。投与開始から2日目に解熱したが、リン酸オセルタミビルは4日間服用した。投与開始から5日目に意識レベルの低下と痙攣が発現し、5分程度持続した。その翌日、意識レベルの低下と痙攣が軽快した。 なお、頭蓋骨骨折と頭部外傷の既往があり、脳波異常は未回復のままであった。	異常以外-182	
198	B-07000202	男性	12歳	不明	バルプロ酸ナトリウム ゾニサミド	痙攣	回復	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル処方。服用1時間後、痙攣発現(2分間)。CT検査異常なし。服用開始2日後、回復。	異常以外-183	
199	B-07000227	女性	12歳	75 mg		意識消失	回復	発熱38.5℃、全身倦怠感あり、咳嗽軽度、咽頭痛軽度。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方。昼頃、自宅の本剤を服用。就寝。本剤服用約5時間後、腹痛を訴えるため、トイレに行きなさいと言ったところ、トイレと違う方向に行き倒れた。意識はもうろうとしてトイレに連れて行こうとしたが、再びトイレの前で倒れた。意識もうろう状態(非重篤)発現。強い呼びかけには応じる。点滴を受けた。その後は特変なく経過。意識もうろう状態回復。	異常以外-184	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
200	B-07000267	男性	12歳	138mg		譫妄	回復	体温37.8℃で来院。インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用開始2日目、夜から未明にかけて、うわごとが続く。服用開始3日目に中止。服用中止翌日、うわごと軽快。	異常以外-185	
201	B-07000289	女性	12歳	150 mg	メキタジン ロキソプロフェナトリウム	意識消失 てんかん 意識消失 てんかん	回復 回復 回復 回復	診察時38.4℃。インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル5日分処方。服用終了後、解熱。 服用終了2日目、意識喪失し、痙攣発現。その日のうちに受診。意識喪失、痙攣回復。服用終了3日目、再度、食事中意識喪失で2、3分倒れる。意識喪失回復。神経内科に検査のため入院(1週間)。検査では異常は認められなかった。	異常以外-186	
202	B-07002073	女性	12歳	150mg	クラリスロマイシン 臭化水素酸デキストロトルファン カルボシステイン 開始液(1)	大発作痙攣	不明	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用開始4日後、朝、本剤減量。外来受診時(38-39℃出現、咳も強い)胸部x-p撮影中にGTC(全身性强直間代けいれん発作)5秒。その後、1分後に意識もどした。胸部x-p上気管支影の増強はみられたが、明らかな肺炎徴候はなかった。	異常以外-187	
203	B-02000088	男性	13歳	150mg	メクロプラミド ラフチジン ロキソプロフェナトリウム	ジスキネジー	回復	インフルエンザの治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。投与開始3日目に解熱し本剤服用終了。投与終了1日後の18時頃、突然頭を後ろに引っ張られるような感じがあり、首を左へ回旋。眼球右共同偏視、唝り難い、目が閉じ難い等の顔面・上肢等の不随意運動発現。意識清明。22時頃急患受診、ジアゼパムにて鎮静、入院。投与終了2日後歩行など正常となり、不随意運動回復。	異常以外-188	
204	B-02003705	女性	13歳	不明		味覚異常	不明	インフルエンザにリン酸オセルタミビル投与。味覚異常発現。 転帰不明。	異常以外-189	
205	B-03008971	男性	13歳	150mg	ヒベンズ酸チベピジン	失神	軽快	臨床症状及び経過よりインフルエンザと診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与1回目後、腹痛発現、その3時間後に眼前暗黒感出現し転倒、下痢便失禁。転倒後約90分後に救急搬送、意識ほぼ清明も血圧低下及び心部と恥骨上部の軽度圧痛あり。乳酸加リンゲル及び酸素投与により、血圧及び脈拍回復、全身倦怠感軽快。	異常以外-190	
206	B-03012367	女性	13歳			意識変容状態	回復	リン酸オセルタミビル(量、期間不明)を服用後、意識障害が発現し、2日目に入院。入院3日目に意識障害は回復。	異常以外-191	
207	B-04008398	男性	13歳	150mg	ロキソプロフェナトリウム 塩酸ツロブテロール メキタジン	幻覚 痙攣 意識消失	回復	診断キットでは(-)だったが、症状改善のためリン酸オセルタミビル150mg/日他を処方され、同日夕方、2回目服用後、突然、意識消失、痙攣発作出現。本剤も嘔吐。意識回復後も幻覚症状あり、治療。事象発現から7日目に回復。	異常以外-182	
208	B-05024834	女性	13歳	75mg		痙攣	回復	A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを服用。服用から約3時間後に数秒の痙攣が発現し、自然に収まり、回復した。	異常以外-193	
209	B-06024412	男性	13歳	75mg		痙攣 異常行動	回復 回復	リン酸オセルタミビル服用後、約1時間後にうなり始め目はうつろ。突然目を睨開いて泡を吹き意識なし。1~2分後に反応して舌を出す。経過観察のため入院、3日後回復。	異常以外-194	
210	B-06026128	男性	13歳	75mg		幻覚 妄想 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザA治療の為、本剤の投与開始。幻覚、妄想、異常行動発現。	異常以外-195	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
211	B-06026622	女性	13歳	75 mg	ヒベンス酸チベジン カルボシステイン 塩酸プロメタジン トラネキサム酸	意識消失	回復	リン酸オセルタミビル服用10時間後、体に入らず脱力状態。母が階段の上から両腕をかかえ、家族が階段の下から両足を持って運んでいた。開眼していたが、昇る途中、呼名に反応しない意識消失状態が1分間あり、家族は1分ほど両足の硬直を感じた。その後硬直は消失し、呼名に開眼する状態となり救急車で当院来院した。本人は階段昇っている途中より、家に救急隊が到着するまでの間は覚えていない。	異常以外-196	
212	B-07000211	男性	13歳	150 mg		うつ病 無感情 自殺企図	未回復 未回復 回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用後、抑うつ、無気力、自殺企図発現。 服用開始4日後、服用中止。	異常以外-197	
213	B-07000256	女性	13歳	150 mg		意識変容状態	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。服用3日目、解熱したため、本剤服用を自己中断。服用開始から4日目、夕方、帰宅。ぼんやりして視線あわず、意識レベルの低下発現。服用開始5日目、学校では、一日ぼんやりしたり奇声をあげていた。帰宅時間になっても、自宅がわからないため友人につれられて帰宅する。視線が合わず友人、家族の名前、自分の名前が言えない。体温:36.8℃。救急外来受診後入院。失見当識、健忘あるが麻痺はなく、神経学的所見なし。服用開始6日目、脳波異常なし。視線あうが、レスポンスない、記憶あいまい。服用開始8日目、活発でふだんどおり、退院となる。	異常以外-198	
214	B-07002666	男性	13歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム 鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン	攻撃性	回復	インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用開始3日目、掃除機を振り廻し、食器類を破壊するといった異常行動 暴力行為が発現。直ちに本剤を中止。 中止翌日、解熱し、落ち着かない状態。インフルエンザは軽快。	異常以外-199	
215	B-02000597	男性	14歳	150mg	クラリスロマイシン リン酸ジメモルファン カルボシステイン アセトアミノフェン	離人症 無表情 無関心	回復	リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。投与4日目に無気力、無表情、離人感発現し、本剤投与中止。事象発現後、6日目に回復。	異常以外-200	
216	B-02001391	女性	14歳	75mg	リン酸ベンプロベリン アセトアミノフェン	失神	回復	インフルエンザが疑われリン酸オセルタミビル1カプセル(75mg)を服用。投与後1時間後、トイレに行き倒れる。症状としては、ボーッとしたり、強直が認められるもすぐに戻る。その間の記憶なし。服用2時間半後、意識清明。	異常以外-201	
217	B-03009369	男性	14歳	150mg	カルボシステイン 塩酸ブロムヘキシン 塩酸プロカテロール セフトレニボキシル	統合失調症	軽快	臨床診断からインフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。夜から内服開始。4日目まで服用し、インフルエンザ様症状は改善。服用終了後5日目頃から、身体がおかしいとの訴えがあり、経過観察のため入院。妄想様言動、全身を随意的に前後に揺さぶるような震え等が認められた。入院3日目に妄想様言動等が認められず退院となったが、翌日精神科に受診したところ統合失調症が考えられ、外来で経過観察となった。2週間後、症状はほとんど消失。	異常以外-202	
218	B-03009543	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン	意識変容状態 意識変容状態	回復	自宅にあったリン酸オセルタミビル150mg/日及びアセトアミノフェンを服用。同日夜、多汗、顔面蒼白になり後方に転倒、意識不明となる。病院では意識清明でインフルエンザA型と診断され帰宅するが、脱力転倒、関連性のない発語を繰り返し、呼びかけへの応答はない。翌朝は、意識清明で、本人は転倒した記憶もあり。入院し頭部CT、腰椎穿刺を行うが異常所見なし。以降、意識障害なし。	異常以外-203	
219	B-05026848	男性	14歳	150mg	塩化リゾチーム 塩化デカリニウム	意識レベルの 低下 痙攣	回復 回復	インフルエンザ確定診断で陰性だったが、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始から2日目に意識レベルの低下と痙攣が発現し、後ほど回復した。リン酸オセルタミビル服用開始から4日目に服用を中止した。	異常以外-204	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
220	B-06000039	男性	14歳	75mg	セフトラムピボキシル	痲疹	回復	A型インフルエンザで発熱(39.2℃)が見られ、リン酸オセルタミビル服用を開始した。投与開始日の夜に全身の痲疹が見られ、翌日の朝に回復した。リン酸オセルタミビルの投与は1回で中止した。	異常以外-205	
221	B-06022862	男性	14歳	150mg	なし	意識変容状態	回復	迅速キットにて陰性であったが、臨床症状に鑑み、予防目的でリン酸オセルタミビル75mgx2回/日投与開始。翌日、意識障害(意識レベルの低下)発現。6日後、意識障害回復、退院。	異常以外-206	
222	B-06025005	女性	14歳	150 mg		悪夢 幻覚	軽快 軽快	高熱(39℃)、インフルエンザB型治療の為、本剤投与開始。 本剤投与後、幻覚(小さな光がたくさん見える)、幻想(光に吸い込まれそうになる)、悪夢(爆弾が仕掛けられ爆発しそうな体験)出現。 投与中止後、悪夢、幻覚、幻想軽快	異常以外-207	
223	B-07000088	女性	14歳	150mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン 硫酸サルブタモール	異常行動	軽快	インフルエンザウイルス感染症治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、トイレに行き、トイレの中で意味不明なことを絶叫し、その場で倒れて意識不明の状態になった。30分後、救急車で運ばれて来たが、その際は意識は回復していた。異常行動軽快。	異常以外-208	
224	B-07000242	女性	14歳	投与量 不明		脳梗塞	不明	リン酸オセルタミビルの投与開始。脳梗塞発症。	異常以外-209	2008/4/1以降 追加報告
225	B-07000257	男性	14歳	75 mg	アセトアミノフェン	幻聴 幻覚 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル投与開始。翌日、本剤3回目を服用後様子がおかしくなり暴れた。幻聴、幻覚、異常行動発現。他院入院。翌々日、回復。	異常以外-210	
226	B-07015777	男性	14歳	投与量 不明	アセトアミノフェン	脳炎	不明	服用2日目、関節痛と手の震えがみられ、さらに上半身のびくつく発作が30分間出現したため、受診。受診時異常なく、経過観察。睡眠中に母親が起こすも覚醒せず。硬直していたが様子を見て、1時間後に無理やり起こして、水分を摂取させるも唸って飲まず、視線も合わず、呼びかけに反応しないため再診。 意識はなく四肢の不穏な動きがみられジアゼパム投与。この日の夜まで本剤服用し、以降は中止。 服用中止から1日目、一般採血、検尿に異常はなし。髄液細胞数の増加があるが、頭部CTで異常なし。ステロイドパルス療法等を施行。午前まで不穏状態がみられ、午後には簡単な受け答えが可能となるもボーッとすることが多く、記憶力低下も認められた。 服用中止から4日目、完全に回復した。家族4人全員が発熱していたが、インフルエンザ迅速診断を2回施行するも陰性で血清抗体価の上昇もみられなかった。 覚醒時、脳波で高振幅徐脈がみられ、脳血流シンチでは全体の血流低下、MRIは前頭部皮質を中心に拡散強調画像で高信号を認めた。 現在、神経学的に異常を認めないが、脳波では前頭部にてかんかん性異常を認めている。	異常以外-211	2008/4/1以降 追加報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
227	B-08006354	男性	14歳	150 mg		痙攣	回復	迅速検査にて、インフルエンザA型と診断された。体温39.0℃、他のインフルエンザ症状もあり。 リン酸オセルタミビル服用約1時間後、嘔吐あり。 リン酸オセルタミビル2回目服用約1時間後、頭痛発現。興奮するように「呼吸ができない」「わうわう」など意味不明のことを叫んだ。 意識消失発現。救急車が到着する頃には、患者は再び呼吸できるようになった。しかしとても弱かった。父は、また呼吸が停止するのではとても心配した。救急車の中では体温37.5℃だったが、病院到着後、体温は38.8℃まで上がった。アセトアミノフェン服用にて、一度は解熱。 服用7時間後、患者は再度興奮し、叫んだ。明らかに呼吸困難状態だった。 本剤服用終了から2日目、発熱なし。脳波検査の結果、脳炎/脳症などの異常なし。精神神経系疾患・呼吸器症状の再発なし。退院。発作、激越、チアノーゼ、意識消失 回復。経過中、アルコールは一度も検出されなかった。		2008/4/1以降新規報告
228	B-02002384	男性	15歳	150mg	リン酸ジメロファン 塩酸アンブロキシロール 硫酸サルブタモール γ-マレイン酸クロルフェニラミン アセトアミノフェン	認知不能症	回復	詳細不明	異常以外-212	
229	B-02003545	女性	15歳	75mg	リン酸ジヒドロコデイン アセトアミノフェン	浮動性めまい	回復	詳細不明	異常以外-213	
230	B-03000392	男性	15歳	150mg	セフジニル アセトアミノフェン ピペラシリンナトリウム スルピリン 塩酸ミノサイクリン	傾眠	回復	発熱のため受診。臨床的にインフルエンザと診断しリン酸オセルタミビルを5日間服用。服用一日後朝、嘔吐、発熱、歩行困難(フラフラ)、傾眠が主症状あり。投与中止後23日間、副作用継続。	異常以外-214	
231	B-04007755	女性	15歳	150mg	アセトアミノフェン 塩酸アンブロキシロール ヒベンズ酸チペピジン	てんかん	軽快	リン酸オセルタミビル150mg/日他を投与。投与開始3日で痙攣を発症、てんかんと診断。同日で服用終了。3ヶ月後、抗てんかん薬服用中。てんかんの症状はおさまっている。	異常以外-215	
232	B-05025715	女性	15歳	225mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン	意識変容状態	軽快	本剤を誤って75mg×3回/日で3日間服用後4日目1回服用し服用終了。服用開始2日目に解熱。服用開始3日目に意識障害(喋り方が緩慢になる)発現。服用終了1日後に軽度意識障害等あり入院。服用終了5日後意識障害軽快。	異常以外-216	
233	B-06020356	女性	15歳	150mg	イブプロフェン ファロベネムナトリウム	意識変容状態	軽快	インフルエンザテストでは陰性。発熱があり、リン酸オセルタミビル、イブプロフェン、ファロベネムナトリウムを投与開始。3日後、意識混濁、尿失禁などにより入院。意識障害、不穏状態、脳波にて高振幅の徐波が全般的に認められたことから脳炎脳症と診断。12時間後ぐらゐから意識回復。翌日元気になるが、脳波異常は残っている。	異常以外-217	
234	B-07000214	男性	15歳	75 mg	セフボドキシムプロキシセチル 鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン	異常行動	回復	38.9℃と発熱。インフルエンザB型と診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用後、異常言動発言。寝ていたのが起き出し、意味不明の発言あり、何かをさがす様な動きをくり返した。家族の声には全く答えず20分程で回復。その後着変なし、本人全く記憶なし。	異常以外-218	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	個別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
235	B-08031247	女性	15歳	投与量不明	メクロブラミド ドンペリドン	髄体外路障害	軽快	インフルエンザと診断。インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用。本剤服用終了から3日目、髄体外路障害発現。意識レベル低下、もうろう状態、腕がガクガクし、他院受診。症状改善しないため当院に搬送。検査施行したがインフルエンザ脳症には該当しない。鎮静剤投与。本剤服用終了から4日目、髄体外路障害の転帰は軽快。		2008/4/1以降新規報告
236	B-03008278	男性	16歳	75mg	リン酸ジメモルファン カルボシステイン ツロプテロール 塩酸シプロヘプタジン	痙攣 意識変容状態	回復	インフルエンザと確定診断後、リン酸オセルタミビル75mg/日を投与開始。投与1回目の3時間後に足重感、4時間後に意識消失及び数分の痙攣。有害事象発現5分後に処置なしで回復、入院して投与中止、その後は有害事象を発現せず。	異常以外-219	
237	B-03010648	男性	16歳	150mg	鎮咳配合剤(1) 塩酸アンブロキシール ノスカピン ベタメタゾン・d-マレイン酸クロル フェニラミン	意識変容状態	回復	インフルエンザA、B型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。夕食後75mgを服用。同日夜、3回続けて倒れ、意識喪失もあり。翌日昼、受診時は意識清明。	異常以外-220	
238	B-05021108	女性	16歳	150mg	マレイン酸フルフェナジン ロフラゼパ酸エチル 塩酸プロメタジン エチゾラム	幻覚(幻覚) 妄想(妄想)	軽快	3年前からうつ病発症。39℃の発熱により、リン酸オセルタミビル投与。翌日幻覚、妄想が発現したため入院。観念奔逸、幻覚妄想状態が5ヶ月続き軽快退院。以後3年間脳波測定に異常所見あり。現在もうつ状態で通院中。	異常以外-221	
239	B-07000113	男性	16歳	75mg		痙攣	回復	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル処方。自宅でうずくまっているのを起こしたときに痙攣があり、救急搬送される。熱はなく、意識もあり、身体レベルも異常なし。脳圧も正常。当日、痙攣軽快。	異常以外-222	
240	B-07002390	男性	16歳	75 mg	鎮咳配合剤(1)	異常行動 浮動性めまい 転倒	回復 回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1日目、転倒、頭部外傷、ふらつき発現。体温:38.4℃。服用2日目、異常行動発現。頭部外傷、4針結合。服用5日目、朝服用。その後は、本剤服用せず。	異常以外-223	
241	B-07014580	女性	16歳	150mg	鎮咳配合剤(1) テブレノン	自殺念慮	回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。服用4日目、朝まで本剤服用。服用終了1日後、朝より解熱。服用終了5日後、ボーっとした表情で「このまま死んだら楽かな」「お世話になりました」の様な発言。服用終了約16日後、自殺願望疑いは回復。	異常以外-224	
242	B-03009466	女性	17歳	75mg		ミオクローヌス	回復	発熱と頭痛から、自宅にあったリン酸オセルタミビル75mgを服用。4時間後、脱水予防のための点滴を受け、その30分後から不随意運動出現。熱が高くなったり緊張したりすると憎悪。インフルエンザA型と診断。事象発現3日目朝に不随意運動消失。	異常以外-225	
243	B-05023787	男性	17歳	75mg		意識変容状態 譫妄	回復	発熱(38.8℃)、頭痛、咳、咽喉痛にて確認判定後本剤処方。内服開始後、ふらつき自覚。翌日、服用しふらつきあり。深夜、体温37.8℃意識障害(海で自分が溺れている錯覚を感じる等)発現するが1時間程で消失。翌朝、本剤服用中止。	異常以外-226	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	副作用 No	備考
244	B-05025716	男性	17歳	150mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルフアン	意識変容状態	軽快	インフルエンザ治療(確定はしていない)のためリン酸オセルタミビル服用開始(39°C)。服用開始3日後解熱、夕方より意識障害(会話が通じずボーっとしていることが多い)発現。その後も意識障害継続。本剤5日間服用終了翌日に近医で意識障害指摘され入院。やや前頭葉に優位に広汎性の高振幅θ waveが頻発。炎症性脳炎、ウイルス性脳炎の可能性のためステロイド、アシクロビル投与開始。意識障害発現後13日後に軽快、脳波異常も消失。	異常以外-227	
245	B-07000068	男性	17歳	75 mg	アセトアミノフェン 鎮咳配合剤(1)	意識消失 痙攣	回復 回復	リン酸オセルタミビル75mg服用。 約4時間後、母親が心配でトイレに付き添った所、突然意識消失し、痙攣を起こした。声をかけたところ、5秒後に回復した。しかしその後の返答もおかしくトイレに行こうとしたのにも関わらず、ご飯を食べずにリビングに行こうとしたと、トンチンカンな事を言った。	異常以外-228	
246	B-07000217	男性	17歳	150 mg	一般用鼻炎薬	精神障害	回復	インフルエンザB型にて、リン酸オセルタミビル4日分処方。服用終了後、発汗量が減少し、本人が頭がボーとした自覚症状を訴えた。精神障害発現。翌日も同様。服用終了3日目、脳波で異常が認められ、服用終了4日目に入院。脳波では異常所見認めるが少しずつ改善。服用終了11日目に症状改善し、退院。	異常以外-229	
247	B-07000899	男性	17歳	75 mg	アセトアミノフェン 小膏薬湯	激越	回復	発熱39.2°C。インフルエンザB型診断にて、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤75mg服用した夜に興奮(興奮してあばれた)発現。患者の家族からTELがあり、その後は本剤は服用していない。	異常以外-230	
248	B-07002263	男性	17歳	150mg	アセトアミノフェン	統合失調症様 障害	不明	インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビル処方。 服用6日目、朝の服用にて、服用終了。そのころから、言動に総合性が無くなった。意識は清明、見当識ありだが、会話に混乱あり。服用終了2日後、急性混乱状態発現。神経学的には明らかな脱落症状なし、MRI、ルンバールを施行。脳炎、髄膜炎を示唆する所見なし。統合失調症を疑う。	異常以外-231	
249	B-07003580	男性	17歳	150 mg	非ピリン系感冒剤(4)	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。夜間、異常行動(あばれる)発現。押さえつけていないといけないう状態であった。 投与開始2日目、何でも出来てしまいそうな気持ちだったらしい。異常行動回復。 投与開始6日目にて本剤投与終了。	異常以外-232	
250	B-07000064	男性	18歳	75 mg	鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン 塩酸セファペンピボキシル	意識消失	回復	インフルエンザ治療のため、本剤服用。1時間後、意識レベル低下。両親の呼びかけに応じないため、救急車にて他院に搬送。その後、自然回復。	異常以外-233	
251	B-02013958	女性	19歳		バルプロ酸ナトリウム	痙攣	回復	全般性てんかんの治療中(開始日:2002/02/18)。インフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル(量不明)を5日間投与。投与終了後5日後に全身性けいれん、意識障害が発現。投薬により症状軽快。2日後には症状安定。	異常以外-234	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
252	B-04001616	男性	19歳	150mg	塩酸セフカペンピボキシル 塩酸メトホルミン グリメピリド	譫妄	回復	ブラダーウィリー症候群、糖尿病、中等度精神発達遅滞により治療中(開始日:不明)。発熱があり、インフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を4日間服用し(5日目の朝も服用したかもしれない)、症状は治まった。投与終了後3日目(2日目かもしれない)の夕食時より、興奮、意味不明の発言、言動まともなく意味不明の記号を書き続ける、手を洗い続ける等の事象が発見。翌日も言動まともならず、「誰かが来る」と怖がる。事象発現4日目、混乱がつづくため入院となる。他剤投薬により症状は軽減。事象発現から12日目に譫妄は回復し、退院した。	異常以外-235	
253	B-05017979	女性	19歳	150mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩化リゾチーム 含嗽吸入原液ミチノ 塩酸ジフェニルピラリン インドメタシン	意識変容状態	後遺症	高熱、感冒症状にて受診しインフルエンザと判断される。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤投与2日後、症状軽快にあるも微熱、感冒症状認めるため本剤服用。就寝し翌朝応答無く容体異常に気づき、救急搬送される。意識障害重篤。その約5ヶ月後意識が徐々に回復。現在、リハビリ入院中。意識ははっきりしており、記憶の一部に喪失あるも、応答可能であるが、下半身麻痺あり。	異常以外-236	
254	B-07000226	男性	20歳	75 mg	麻黄湯 塩化リゾチーム	うつ病	回復	インフルエンザ疑いにてリン酸オセルタミビル処方。内服して就寝。服用後、「死にたい」と訴えるなどの異常行動発現し、2回目服用中止。この時、39.1℃。翌朝、38.5℃の発熱、全身倦怠感あり。夕方、39.3℃。再び、「死にたい」と感じたが、前日より落ち着く。その後、解熱。当時の記憶はあまりなしとのこと。	異常以外-237	
255	B-07000060	女性	21歳	150mg	ブラプロフェン ジプロフィリン・ジヒドロコデイン配 合剤	大発作痙攣	回復	A型インフルエンザに対し、リン酸オセルタミビル服用開始。 3回目の服用4時間半後、痙攣が発現。翌日、回復。	異常以外-238	
256	B-08026124	女性	21歳	150 mg		構語障害 振戦	回復 回復	全身倦怠感、関節痛等のインフルエンザ症状出現。インフルエンザA型と診断されリン酸オセルタミビル処方。 服用2回目、呂律障害、振戦出現のため受診。脳MRI異常なし。本剤中止し補液による脱水管理のみとした。 本剤服用終了から1日目、症状消失のため退院。		2008/4/1以降 新規報告
257	B-07001419	男性	22歳	150 mg		うつ病 自殺念慮	回復 回復	風邪症状にて受診し、インフルエンザB型の診断を受け、リン酸オセルタミビル4日分処方。2回目服用開始後くらいより、気持ちが落ちて自殺したくなる感じなどのうつ状態発現。本剤服用終了4日後、気持ちも落ち着いた。本剤服用終了7日後、再び気持ちが落ち込んだ。うつ状態で自殺念慮もあるため、スルピリド処方。本剤服用終了9日後、頭部MRIは正常。本剤服用終了11日後、脳波は前頭部に徐波あり。	異常以外-239	
258	B-05000148	男性	23歳	150mg	アセトアミノフェン	意識消失	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与開始2日目朝の本剤服用前、意識消失発作(数分間)発現、救急受診時には意識回復したが、観察入院。夕刻、本剤を内服するが、有害事象発現せず。翌日退院。	異常以外-240	
259	B-07003777	男性	23歳	150 mg		痙攣	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。 翌朝、本剤服用後、意識障害、痙攣発現。一過性で10秒後に回復。	異常以外-241	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
260	B-01000445	女性	24歳	150mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩酸セフカペンピボキシル テプレノン リン酸ジメモルファン	味覚異常	回復	咽頭炎疑いにて、抗炎症剤・胃薬・抗菌剤処方。翌日インフルエンザ治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。本剤投与終了後の翌日に味覚障害発現。障害程度は、味覚減退／味覚鈍麻(味覚がよわい)。貧血・舌炎は無し。その約1週間目頃より、味覚障害に対する治療無しで回復。	異常以外-242	
261	B-06024996	女性	24歳	75mg		感情不安定 譫妄	回復	本剤投与開始後、呼吸があらくなり、入院し、せん妄状態、感情失禁発現。本剤、投与中止。投与中止後も約2時間毎にせん妄状態と覚醒状態を繰り返す。2日後、退院	異常以外-243	
262	B-07000089	男性	25歳	150 mg		意識消失	軽快	インフルエンザ様症状を発症。発症6日後、友人からもらったリン酸オセルタミビル服用開始。翌日、車の運転中意識がなくなり、壁にぶつかり、当院のICUに入院。意識レベルバイタルは正常だが、ハンドルの腹部にぶつけ、肝臓の損傷の疑いあり。アンギオ実施。同日、意識消失は回復。	異常以外-244	
263	B-05023106	女性	26歳	150mg	ドンペリドン アセトアミノフェン	脳炎	回復	嘔吐、発熱にて受診、インフルエンザ検査できないが、本剤他処方。翌朝、奇声等精神症状発現し、精神科入院。呼吸困難、意識混迷、脳炎として加療。半年後歩行可能となり、1年後後遺症なく退院。	異常以外-245	
264	B-07022877	男性	26歳	75 mg	アセトアミノフェン	意識変容状態	回復	発熱、頭痛、全身の関節痛あり。インフルエンザA型と診断し、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後、本剤75mg服用し、数時間就寝。夜、異常行動、言動が発現し、15分続く。救急要請。異常行動発現30分後、意識障害発現。救急が到着する頃には改善。経過観察のため入院。意識障害回復。	異常以外-246	
265	B-07024140	男性	26歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム テプレノン 塩酸セフカペンピボキシル セラベプターゼ レバミピド	顔面神経麻痺	回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル5日間服用。服用終了3日後、右顔面神経麻痺発現。服用終了5日後、右耳痛出現。服用開始から約2か月後、右顔面神経麻痺回復。	異常以外-247	
266	B-07025547	男性	26歳	150mg		意識消失	回復	インフルエンザ様症状治療のため(診断するもウイルス検出されず)、リン酸オセルタミビル処方。服用4日目、車を運転中、意識消失発作発現。道路の左壁に乗り上げ、1回転し、道路に落下し意識回復した。夕方、意識消失発作回復。本剤服用中止。	異常以外-248	
267	B-03001782	男性	27歳	150mg		味覚異常	軽快	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与。3日後、味覚異常発現。発現4日後、味覚異常軽快	異常以外-249	
268	B-05000768	男性	27歳	150mg	カルマバゼピン バルプロ酸ナトリウム ジスキネジー クロナゼパム	眼の脱臼(眼球上転) ジスキネジー (不随意運動(四肢))	回復	元来強剛性脳性麻痺がある患者。インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルの投与を開始。翌日眼球上転、不随意運動(四肢)が発現。本剤の投与を中止し、翌日に回復した。	異常以外-250	
269	B-03005261	女性	28歳	150mg	硫酸セフピロム	失神 心室性期外収縮	回復	インフルエンザと確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与3回目の2時間後に意識消失、入院。来院時、意識回復、血圧正常も、体温上昇及び心電図上期外収縮の頻発を認める。投与4回目においても、全身性脱力及びモニター上期外収縮を認める。3日目の服用中止、以後神経症状なし、その他の有害事象も回復。	異常以外-251	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	報告番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
270	B-04000134	女性	28歳	150mg	塩酸テルビナフィン アセトアミノフェン	意識変容状態 汎血球減少症	軽快	爪白癩の治療のため塩酸テルビナフィンを服用中。また、毎年の検診で白血球減少、貧血との由。40℃の高熱があり、診断キットでは(-)だったが、リン酸オセルタミビル150mg/日とコロナールを処方される。5日間服用後、翌朝から意識障害があり、受診したところ、汎血球減少があり、入院。搬入時は意識清明だったが、なぜ来たのかわからないとのこと。入院4日目、徐々に解熱、意識清明だが記憶、記憶力障害がのこる。脳波上徐波が目立つ。12日目、汎血球減少症、意識障害は軽快し、退院。言語リハビリへ通院。退院から1週間後のDLSTで、リン酸オセルタミビル及びアセトアミノフェン(-)、塩酸テルビナフィン(+/-)。	異常以外-252	
271	B-05000873	女性	28歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) 鎮咳配合剤(1) 塩酸アンブロキシロール	痙攣(痙攣) 失神(失神)	回復	インフルエンザB発症しリン酸オセルタミビル投与。本剤投与3日目の朝服用後1~2時間後腹痛、嘔吐、手足のしびれあり。意識消失、失神、痙攣発現。数分で軽快、特に処置せず。夜に本剤投与したが何事もなかった。翌日受診するが特別な所見は認めず。	異常以外-253	
272	B-06024913	男性	28歳	75 mg	アセトアミノフェン	感覚鈍麻 振戦 無力症	回復 回復 回復	4年前に本剤内服しているが問題なし。A型インフルエンザと診断、本剤投与2~3時間後、しびれ、手の振るえ、脱力感発現。翌日も回復しないため、他院入院し午後症状改善。	異常以外-254	
273	B-07000133	男性	28歳	75 mg	クラリスロマイシン ロキソプロフェンナトリウム テプレノン	譫妄	軽快	インフルエンザ疑いのため、リン酸オセルタミビル投与開始。翌日、意識もうろう、うわ言発現。本剤投与中止。投与中止8日後、意識もうろう、うわ言軽快。	異常以外-255	
274	B-07000150	男性	28歳	150 mg	アセトアミノフェン スルピリン	異常行動	軽快	40℃以上の高熱続き、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤服用後、就寝。死神が寝てくる、体がバラバラに裂かれる、殺される(色々な方法で)等の夢を見て、怖くて眠れない。眠ってもすぐ起きてしまう。服用2日目、朝、昨夜のことを家族に話す。また、暴力的な語気で家族にあたるなどする。異常言動発現。夕方、本剤服用。服用3日目、朝、解熱せず受診。受診時、怒っている様に思われた。患者の希望あり、入院。インフルエンザ脳症の疑いはなし。服用から6日目、異常言動軽快。本人は発熱している間のことはほとんど覚えていない。	異常以外-256	
275	B-07000151	男性	28歳	150 mg	塩酸セフカペンピボキシル フロセミド 炭酸水素ナトリウム コハク酸メチルプレドニゾンナ トリウム 乾燥スルホ化人免疫グロブリン	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。投与開始4日後、異常行動発現。翌日、異常行動回復。	異常以外-257	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
276	B-07003016	女性	28歳	75 mg		意識変容状態	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。意識がなくなり倒れていた。 投与開始2日目、症状回復。	異常以外-258	
277	B-08028527	男性	28歳	75 mg		頭痛	回復	発熱あり。インフルエンザA型の診断でリン酸オセルタミビル処方。 本剤服用後30分～1時間くらいしてから頭痛、嘔気、嘔吐発現。安静にしていた。 翌日症状改善しないため当院受診。安静のため入院。夕方点滴にて症状回復し食事摂取可能となり退院となった。本剤の服用中止。 本剤服用中止から3日目、インフルエンザの治療と副作用の回復を確認。		2008/4/1以降 新規報告
278	B-03010985	女性	29歳	150mg	ブロン錠12 カルボシステイン レバミピド アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。4日目深夜、ブロン錠を服用後、耳鳴り、眩暈、ふるえが出現。4時間後、全身性痙攣が発現。眩暈、振戦、心房細動を認める。治療により2時間ほどで回復。	異常以外-259	
279	B-07000105	女性	29歳	75 mg	アセトアミノフェン 塩酸エピナスチン	意識消失 異常行動	回復 軽快	夕食後、リン酸オセルタミビル服用開始。翌未明、トイレに行ったとき気を失う。顔を打つ。現在、顔の傷の治療のため退院中。	異常以外-260	
280	B-07002383	男性	29歳	150mg		痙攣	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。痙攣発現。	異常以外-261	
281	B-07001809	男性	30歳代	不明	アトルバスタチンカルシウム水和物	意識消失	不明	リン酸オセルタミビル服用。車の運転中に一瞬自分が何をしているのか分からないような状態に陥った。意識消失が発現。	異常以外-262	
282	B-07003701	男性	30歳代	不明		痙攣	不明	リン酸オセルタミビル服用後、意識消失、痙攣発現。	異常以外-263	
283	B-01000940	女性	30歳	150mg	不明	味覚異常	回復	B型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤投与3日目に味覚障害、嘔気、食欲不振発現し、本剤服用後3～4日間続き、対症療法の治療を行う。本症状発現3日後、味覚障害等の症状回復。	異常以外-264	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
284	B-05024101	男性	30歳	150mg		健忘	回復	インフルエンザの治療で余ったリン酸オセルタミビルについて、頭痛に対して服用し、約40分後に区間健忘発現。数日後に記憶が戻るが、その間の記憶が消失している。記憶が戻った後は特記すべき事象が見られなかった。	異常以外-265	
285	B-03001385	女性	31歳	150mg	レボフロキサシン 塩酸アンブロキシソール テブレノン ファモチジン	味覚異常	未回復	リン酸オセルタミビル150mg/日を5日間処方。本剤投与終了8日後に口腔内違和感、無味覚症発現し、未回復。	異常以外-266	
286	B-02002740	女性	32歳	150mg	ホスホマイシンナトリウム ロキソプロフェンナトリウム セフトキシムプロキセチル レバミピド	感覚鈍麻	不明	詳細不明	異常以外-267	
287	B-03010917	女性	32歳	150mg	メキタジン 塩酸チアラミド リン酸コデイン	視野欠損	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。4日目の夜、内服後に視野が狭くなり、気分不良となった。1~2時間後には回復。	異常以外-268	
288	B-03011309	女性	32歳	75mg	トラネキサム酸 塩酸アンブロキシソール 塩酸クロフェダノール アセトアミノフェン	浮動性めまい 悪心	未回復	インフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル75mg/日他を処方。夜から投与開始、翌朝の服薬までで投与中止。嘔気、ふらつきがあり動けない様子。1ヶ月弱がすぎても、浮動性めまい、嘔気は未回復。	異常以外-269	
289	B-04027258	女性	32歳	300mg	なし	顔面神経麻痺	不明	A型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル300mg/日を投与開始。投与2日目頃より、左口角下垂、唾液流出、左顔面神経麻痺(重篤でないが軽微でもない)が発現。4日目、左眼瞼下垂と違和感。7日目、左顔面神経麻痺疑いと判断、その後の転帰不明。	異常以外-270	
290	B-08025026	女性	32歳	150 mg	鎮咳配合剤(1) カルボシステイン	意識変容状態	回復	インフルエンザA型診断にて他院にてリン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、意識障害発現。突然倒れるように意識障害。家族によるとけいれんしていた。約1分間で回復。		2008/4/1以降 新規報告
291	B-08028877	男性	32歳	投与量 不明		意識消失	回復	当院受診。インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。その後、気分不良発現。意識消失発現。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公報 No.	備考
292	B-07000216	男性	33歳	75 mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。翌日、異常行動発現し、入院。	異常以外-271	
293	B-07027780	男性	33歳	150 mg	ファミチジン アセトアミノフェン レバミピド ポピドンヨード	意識レベルの低下	不明	発熱、痛み、鼻水等あり。インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。詳細は不明であるが、タミフルの脳内移行、中枢抑制作用が起きたと考えられ、中枢抑制作用発現。服用2日目、体温40-36度。量には体温34度まで下降。本剤服用終了から1日目、本人来局し、「今朝、変な夢を見た。断片的だが内容は覚えていない。家族にはしゃべっていた」と言われた。今朝は本剤を飲んでいない。睡眠時の悪夢、夜言、異常低体温発現。同日中に回復。	異常以外-272	2008/4/1以降追加報告
294	B-05000676	男性	34歳	75mg	塩酸エピナスチン ジクロフェナクナトリウム 鎮咳配合剤(1) 非ピリン系感冒剤(2) アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン 耐性乳酸菌製剤(2)	意識消失(意識消失発作)	回復	季節性アレルギーの既往歴。38.3℃の発熱、咽頭痛、咳、軟便の自覚症状あるため、確定診断陰性であったがリン酸オセルタミビルを投与。翌朝服用1時間後に突然意識消失発作発現、5秒程度で全く後遺症残さずに回復するが、本人はその間の記憶は全くない。本剤の服用を中止し、受診するが全身状態全く異常なし。	異常以外-273	
295	B-02013961	女性	35歳	75mg	塩酸ベタキソロール オキサトミド エバスチン ビタミンB1・B6・B12配合剤 リンゴ酸カルシウム マレイン酸フルボキサミン アトルバスタチンカルシウム フマル酸第一鉄 セフジニド ドンペリドン 総合感冒薬 テブレノン 塩酸チラアミド	大発作痙攣	回復	慢性腎不全により透析を継続中であった。てんかん、痙攣の既往歴無し。インフルエンザを疑い、リン酸オセルタミビル75mgを服用。服用約1日後、一過性の足しおしびれに続き、意識消失あり。約5時間後、てんかん大発作あり。1時間後、回復。服用10日後、脳波施行にてslow wave burst(徐波群発)1回あり。約2週間後にも同様の徐波群発を認める。	異常以外-274	
296	B-04026769	男性	35歳	150mg	アセトアミノフェン	意識消失	不明	インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを服用。投与終了後2日目、意識消失が発現。現在転帰不明。	異常以外-275	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前公表 No.	備考
297	B-01003997	男性	36歳	150mg	レボフロキサシン ピロミド酸 ヒベンズ酸チベジジン フロモキシセフナトリウム セラペブターゼ アズレンスルホン酸ナトリウム	感覚鈍麻	軽快	39.4℃発熱あり、インフルエンザと最近の混合感染疑いリン酸オセルタミビル投与開始(確定診断は行っていない)。投与2日目に両手のしびれ、全身に発赤、かゆみが出現。本剤及び併用薬の投与中止。抗ヒスタミン剤投与開始。手足のしびれ等発症3日後両手のしびれ軽快し手根管症候群と確定診断。発疹も消失。	異常以外-276	
298	B-05018239	女性	36歳	150mg	インドメタシン アザチオプリン ブレドニゾロン シクロスポリン ポビドンヨード ベンズブロマロン ファモチジン ラクタミン タンニン酸アルブミン メトクロプラミド イソプロビルウノプロストン リスベリドン メコバラミン メフェナム酸	精神症状(精神神経症状 (不穏、眼右の ちらつき、手足 のしびれ)) 急性腎不全 (急性腎不全) 下痢(下痢) 脱水(脱水)	軽快	腎不全の既往あり。発熱、寒気有りインフルエンザと診断され、治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤服用翌日に水様性下痢が出現。本剤服用2日後、急性腎不全、下痢、脱水、軽度の不安感が発現。本剤服用5日後、つじつまの合わないことを話しパニック障害様症状あり、本剤服用7日後、不安感消失。約4ヶ月後、急性腎不全、下痢、脱水、精神症状回復。さらに4ヶ月後、自覚的にほぼ完全に回復。	異常以外-277	
299	B-06026181	女性	36歳	不明	アセトアミノフェン	異常行動 幻覚 幻聴	軽快 軽快 軽快	インフルエンザB型のため、リン酸オセルタミビル150mg/日投与開始。39℃台発熱時、本剤内服後、幻覚、幻聴、異常行動発現。翌日、本剤中止、入院。	異常以外-278	
300	B-04008325	女性	37歳	150mg	セフトレキシム セフトリアキサム ロキソプロフェンナトリウム サリチル酸ナトリウム・カフェイン配合剤 リン酸クリンダマイシン アジスロマイシン水和物	精神障害 悪寒 悪寒 血中クレアチン ホスホキナーゼ増加	回復	リン酸オセルタミビル150mg/日及びセフトレキシム他を処方。4日目、39℃に熱が上がり、肺炎出現のため、セフトレキシムをアジスロマイシン水和物に変更受診。帰宅後アジスロマイシン水和物を内服後、40℃の高熱とパニックが出現。病院でも奇声を発したのうちは回っているため入院。翌日パニックはおさまったが、炎症、肝障害が認められたが、本人の希望で退院。	異常以外-279	
301	B-05007134	女性	37歳	150mg	アセトアミノフェン レバミピド ジプロフィリン・ジヒドロコドイン配合剤 塩化リゾチーム	頭痛(頭痛) 嘔吐(嘔吐) 悪心(嘔気)	回復	発熱有り受診し、インフルエンザと診断される。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。翌日は通常通り服用。その翌日、朝本剤投与した後、解熱するも、頭痛、嘔気、嘔吐認め入院となり、点滴施行。5日後、症状軽快。	異常以外-280	
302	B-06000102	女性	37歳	75mg	トラネキサム酸 カルボシステイン	痙攣 意識変容状態	軽快 軽快	A型インフルエンザで発熱(38.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始日の夜に全身痙攣及び意識障害が見られ、十数分で回復した。熱性痙攣、てんかん等の既往歴はない。	異常以外-281	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	初回公表 No	備考
303	B-07024019	女性	37歳	150 mg	アセトアミノフェン	幻聴 幻覚	回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、ヒーターのモーター音が人の歌声の様に聞こえる。幻聴発現。服用3日目、午後、寝ている時、誰かが部屋に入ってきている気配がして、一回開眼して周囲を見ると特に人影はなかった。眼を閉じているとベッド周囲に気配を感じ、左横に来て布団と敷布の間に手の様なものが侵入してきた。首付近に手が来て片手で首を絞める様に感じた。しばらく息を止めていたが、息が簡単にできたので目を開けてみると何もなかった。幻覚発現。	異常以外-282	
304	B-02011509	女性	38歳	75mg		痙攣	不明	インフルエンザ感染症を疑い、リン酸オセルタミビル75mg/日を処方。帰宅後、本剤75mgを服用したところ、痙攣が発現し、病院に搬送されたがその後の詳細不明。	異常以外-283	
305	B-04026632	女性	38歳	150mg	クラリスロマイシン 非ピリン系感冒剤(4) メフェナム酸 トラネキサム酸 カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン アセトアミノフェン	味覚異常	回復	発熱のため、リン酸オセルタミビル150mg/日、メフェナム酸及び非ピリン系感冒剤(4)を投与。投与開始後3日目、キットにてB型インフルエンザと確定診断、クラリスロマイシン他を追加処方(リン酸オセルタミビルは継続投与)。4日目、味覚障害(重篤でないが軽微でもない)が発現。5日目、頭痛、めまい及び発熱がみられたため、本剤投与中止。10日目にベタヒステチンメシル酸塩等による処置を行った結果、11日目に回復。	異常以外-284	
306	B-04026778	男性	38歳	150mg	塩酸エブラジソン	頭痛	回復	B型インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを投与。投与開始後3日目、頭痛がひどくなるとの訴えから本剤投与中止。痛みが強いため、入院。その後、回復。	異常以外-285	
307	B-07000204	女性	38歳	150 mg	非ピリン系感冒剤(4) トリアゾラム	自傷念慮	回復	本剤服用後、腕を切りたくなるといった自傷願望発現。その後回復。	異常以外-286	
308	B-07003014	女性	38歳	150 mg	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム プロポフォール パニペネム・ベタミプロン 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 塩酸ドバミン フェニトインナトリウム 濃グリセリン・果糖 塩酸ラニチジン ヘパリンナトリウム オメプラゾール	異常行動 意識変容状態	回復 回復	40℃の発熱で受診し、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。投与開始2日目、夜、熱は下がってきたものの、意味不明な発言、奇声を上げる。すぐ受診するが、尿失禁などあり。1時間後、精査困難のため、救命救急に搬送。この時、MRIによる異常所見はなし。インフルエンザ脳症を疑い、入院し、ステロイドパルス療法施行。投与開始3日目、異常行動、意識障害は回復傾向あり。投与開始4日目、異常行動、意識障害回復。投与開始5日目、本剤投与終了。	異常以外-287	
309	B-07001284	男性	39歳	150mg		意識変容状態 てんかん重積状態	死亡 死亡	インフルエンザ陰性であったが、リン酸オセルタミビル服用開始。服用4日目、具合が悪く、病院へかかろうとして車を運転し、その途中で交通事故となる。救急車が到着した時にけいれんを認めた。搬送時もインフルエンザ陰性であった。	異常以外-288 死亡-32	
310	B-07001357	女性	39歳	150 mg	トラネキサム酸 カルボシステイン 麻黄湯	幻聴	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。同日夜、首のかゆみ、幻聴(話し声、戸の開く音、スリッパの音)、殺されるようなこわい夢をずっとみていた。エチゾラム投与により回復。	異常以外-289	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
311	B-08031015	女性	39歳	150 mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン ロキソプロフェンナトリウム アズレンスルホン酸ナトリウム・L- -グルタミン	激越 譫妄	回復 回復	38.8℃の発熱あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル、感冒剤等処方。 子がインフルエンザA型にて本剤を処方されていた。 服用2日目、夕方全身の痛み。その後、異常興奮、せん妄発現。興奮し、両手のしびれがでたため、来院、入院。入院後、半日程で軽快。 本剤服用終了から2日目、退院。		2008/4/1以降 新規報告
312	B-08001134	男性	40歳代	不明		失神	不明	詳細不明(担当医の協力が得られなかった。)	異常以外-290	
313	B-04025544	女性	40歳	150mg	アセトアミノフェン テブレノン	眼振	未回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与2回目の翌日に眼振発現、良性発作性頭位眩暈症と診断。その後継続加療中。	異常以外-291	
314	B-05021110	女性	40歳	150mg	ゾニサミド カルバマゼピン フェニトイン アセトアミノフェン	自殺念慮(精神 症状(幻覚、 希死念慮)) 幻覚(精神症 状(幻覚、希死 念慮))	軽快	てんかんの既往ありのためゾニサミドを継続投与。今回発熱、てんかん発作で入院し、翌日インフルエンザA診断確定、リン酸オセルタミビル投与開始。その2日後、精神症状(幻覚、希死念慮)発現。症状最終発現日は不明だが、発現2日後には希死念慮の訴えは消失していたと考えている。その後2ヶ月間精神症状の再燃はない。	異常以外-292	
315	B-07000092	男性	40歳	75 mg	ベラプロストナトリウム 塩酸セベラマー メチルドパ ベシル酸アムロジピン バルサルタン アルファカルシドール ポリスチレンスルホン酸カルシウ ム 沈降炭酸カルシウム クロナゼパム メコバラミン センノシド	異常行動	軽快	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。 透析患者のため、本剤75mgを1回のみ投与する予定が、誤って1日1回を5日間投与して しまった。5日間服用後、夜間透析を受けており、睡眠中だったが、急に起きて透析の針 を自分で抜いてまた刺したという異常行動(自己抜刺)をおこした。同日症状回復。	異常以外-293	
316	B-07000136	女性	40歳	75 mg	アセトアミノフェン	意識変容状態	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。意識障害(記憶)発現。	異常以外-294	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	副作用表 No	備考
317	B-07006772	女性	40歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム	痙攣	死亡	風邪気味にて受診。インフルエンザと言われ、リン酸オセルタミビル処方。2日間服用。服用3日目、朝、急に激しい頭痛あり。その後、就寝したが、その後本人は立って、全身の筋肉痛を訴えた。頭痛、体熱感あり、歩行困難。痛み強く、疎通性も悪いため救急要請。来院時、体温は37°C(昨夜38°C)、頭痛(4~5日前から)、爪の付け根あたりにぶつけたような痛みあり、レベル低下あり。次第に意識障害がはつきりしてきて、完全に疎通性がなくなる。昼、薬物中毒による脳障害の疑いにて、入院。開眼するも、すぐ閉眼。顔色不良。体動、拒否反応強い。夕方、いびき様呼吸あり。夜、濃グリセリン投与。いびき様の呼吸あり。体交する下肢の硬直あり。口唇色不良あり。翌朝、早朝から激しいてんかん様けいれん。日中、30数回のけいれん発作あり。夜に入っても発作続くが、次第に15分後とにあった発作なくなる。瞳孔散大、呼吸停止あり。その後、心停止。死亡確認。	異常以外-295	
318	B-07024910	女性	40歳	75 mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム	意識消失	回復	インフルエンザAと診断し、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン等を処方。服用5時間後、眼がさめて、トイレに行こうとしたが、気分不良著しく、階段途中にて、動くこともできない状態となり、意識消失し気がついたら、階段の下に転落していた。救急車にて、夜間病院受診。意識消失10分後には回復していた。	異常以外-296	
319	B-02004174	男性	41歳	150mg	塩酸ツブテロール カルボシステイン トラネキサム酸 ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシール	視野欠損	未回復	インフルエンザの疑いにてリン酸オセルタミビルを投与(投与日数不明)。投与開始10日後、視野狭窄発現。発現後、1ヶ月以上経過後も未回復。	異常以外-297	
320	B-07004165	男性	41歳	150 mg	アセトアミノフェン リン酸コデイン(1%以下)	意識消失	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸セルタミビル、アセトアミノフェンを服用。夕方、電車の中にて意識消失発現。目撃者の話「白眼をむいて意識なし。数分で完全回復」。救急車にて搬送。到着時回復。CT正常化。翌日、意識消失回復。	異常以外-298	
321	B-08028294	男性	41歳	75 mg	リン酸コデイン 塩酸アンブロキシール d-マレイン酸クロルフェニラミン アセトアミノフェン	痙攣	回復	前日朝より発熱あり。全身倦怠感強く病院受診できず。朝、解熱し前医受診。インフルエンザ確定診断実施にてインフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル、鎮咳薬等の投与を受ける。帰宅後本剤、鎮咳薬等を服用。その後ねていた。服用約4時間後、けいれん発現。トイレに行くため階下に行くもふらつきつよくあり。本人はその後の記憶なし。妻の話では、ぼーと立ちつくし、しゃがみこんで背中から倒れた。両上肢けいれん、眼球上転、1分程度の強直けいれん。しばらくののち、ぼーとしていたものの呼びかけに返答あり。当院救急搬送され入院し補液投与。以後、状態安定。本剤服用終了から2日目、インフルエンザ軽快し退院。		2008/4/1以降 新規報告
322	B-04024731	男性	42歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) セフジニル 塩酸プロムヘキシン 塩化テカリニウム 葛根湯	痙攣 意識消失	回復	B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。てんかん発作の既往あり、また、インフルエンザ罹患なしの状態、原因不明の意識消失の経験あり。最終投与(4日目)の翌日にけいれん発作及び意識消失の発現。搬送先での診断は、(側頭葉)てんかん疑い。バルプロ酸ナトリウム投与等の処置により、有害事象発現4日後回復。	異常以外-299	
323	B-05023594	男性	42歳	150mg	塩酸/パロキセチン水和物	感覚鈍麻 振戦	軽快	インフルエンザため、本剤投与開始。5日後、腕のしびれ感、ふるえ発現。脳梗塞の疑いから検査を行うが所見なし。投与中止。3日後、軽快	異常以外-300	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回の公表 No	備考
324	B-05023888	男性	42歳	75mg	維持液(ブドウ糖加)(2) 生理食塩水 開始液(1) 塩化ナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン 濃グリセリン・果糖	落ち着きのなさ	回復	不眠、嘔吐、こむらがえり、全身倦怠感で入院。 著しい低Na血症(110mEq/l)で点滴にて補正試みる。 約1ヶ月後、発熱(39℃)、全身倦怠感でインフルエンザA型確定診断後、本剤投与開始。当日は著変なし。 翌日、心電図モニターを自己ではせず、採血をさせないといった行動あり。 その1時間後から不穏発現。(無表情、発話なし、食事を食べない) その翌日、不穏回復(発話等に問題ない状態となる) 入院から約3週間後、退院	異常以外-301	
325	B-05024836	女性	42歳	75mg	維持液(5) チアミンジスルフィド・B6・B12配合剤 ゾピクロン エテゾラム	易興奮性	回復	A型インフルエンザで発熱(38℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを服用した。服用開始から約30分後に興奮状態になる。その後、興奮状態が軽快した。	異常以外-302	
326	B-05025592	女性	42歳	150mg		うつ病	回復	流感としてリン酸オセルタミビル処方(確定診断は行っていない)。前日の10時38.1℃。服用開始2日後に解熱。3日目より抑うつ状態発現。投与開始後6日目に本剤投与中止。投与中止1日後インフルエンザ軽快、うつ状態持続。中止4日後うつ状態消失。	異常以外-303	
327	B-07001892	女性	42歳	150mg	アセトアミノフェン	味覚異常	不明	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用開始3日目、夕方、味覚障害発現。服用開始4日目、嗅覚障害発現。水様下痢もあり。	異常以外-304	
328	B-04027500	女性	44歳	75mg	なし	意識消失	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。1回目の服用30分後、意識消失発現、転倒し、前頭部を床にぶつける。5分後、意識回復。本剤服用中止。その後は有害事象発現せず。	異常以外-305	
329	B-05022245	男性	44歳	150mg	非ピリン系感冒剤 イブプロフェン	うつ病	回復	咳、発熱のため受診し、PL顆粒投与。確認診断後、本剤投与開始。服用終了1日後、自信のない感じ、不安感、不眠などのうつ状態発現。仕事内容、信号等が理解できなくなる。意欲減退。他院受診、入院となり抗うつ剤、睡眠導入剤を処方。2日間、うつ病よりも意識レベル低下か幻覚の状況であり、診断途中、異常な発言あり。その後うつ状態は回復し、退院となる。	異常以外-306	
330	B-05002258	男性	45歳	150mg		意識消失(意識消失)	回復	インフルエンザ治療目的にリン酸オセルタミビル投与。投与開始日、意識消失発現(30秒程度)。同日回復。4日後、本剤投与終了。	異常以外-307	
331	B-05024830	女性	45歳	150mg	塩酸アンブロキシソール 臭化水素酸デキストロメトルファン 塩酸エピナステン	意識消失	回復	A型インフルエンザで発熱(37.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始。投与開始初日の夜に一過性の意識消失が見られた。意識消失は当日中に回復し、その後もリン酸オセルタミビルの服用を継続し、投与開始から4日目にリン酸オセルタミビルの服用を中止した。その後も特記すべき所見は認められなかった。	異常以外-308	
332	B-07000245	男性	45歳	150mg		自殺既遂	死亡	一年以上前、インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。次の日、自殺。	異常以外-309 死亡-35	
333	B-06026807	女性	47歳	75mg	クラリスロマイシン d-メレイン酸クロルフェニラミン 鎮咳配合剤(1) カルボシステイン アセトアミノフェン	痙攣	回復	38.7℃の発熱あり、インフルエンザ陰性であったが、症状よりインフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル処方。直ちに服用し、帰宅。夕方、洗濯物を取り込んでいた時に、意識消失して床で倒れた。顔面に数ヶ所、擦過傷を自傷し、鼻出血も認めた。家人が発見したとき、意識消失に加えて、軽度のけいれんを顔面から両手指に認めた。その後、約5分間くらい安静にしたところ、覚醒した。 意識消失、けいれん回復。本剤服用中止。	異常以外-310	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
334	B-07004341	女性	47歳	75 mg	クエン酸フェンタニル 塩酸ロピバカイン水和物 ベンタゾシン 塩酸ヒドロキシジン スルバクタムナトリウム・セフォペ ラゾンナトリウム	異常行動 てんかん	回復 回復	手術を予定していたが、同居の子供がインフルエンザに感染。手術日を延期できなかったため、リン酸オセルタミビルを予防的に服用。 服用2日目、全身麻酔と硬膜外麻酔を行い、術後、覚醒ののち病室にて「てんかん様不随意運動(胸を掻き巻く)」、「意識は呼びかけに応じるが目を開けない」等の症状が発現。 服用3日目、回復。	異常以外-311	
335	B-08028292	女性	47歳	75 mg	ブランカスト水和物 塩酸オロパタジン	痙攣	回復	病棟での患者発生をうけ、職員にインフルエンザ予防のためリン酸オセルタミビル服用開始。 本剤服用終了から1日目、夜全身けいれん発現。TV(鉄腕ダッシュ)をみている最中に突然全身けいれん、意識消失。抗けいれん薬服用。 本剤服用終了から10日目、全身けいれんは回復。抗けいれん薬の服用は継続。		2008/4/1以降 新規報告
336	B-05024259	男性	48歳	75mg	塩酸セフカペンピボキシル 維持液(3) アセトアミノフェン レバミピド	異常行動 痙攣 失神	回復 回復 回復	A型インフルエンザで発熱(39.3℃)が見られ、リン酸オセルタミビル75mgを夕方服用。当日の午後7時頃、失神を起こし、検査にて重度の不整脈が確認された。その後、症状は回復している。	異常以外-312	
337	B-07003778	女性	48歳	75 mg		異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。 投与開始2日目、朝、自宅トイレにすわりこみ、床に顔を何度打ちつけているが、自分で止めることが出来ない。それが2回続いた。その後、意識(記憶)なし。家族の呼びかけで意識を取り戻す。	異常以外-313	
338	B-07023856	男性	48歳	75 mg	アセトアミノフェン	譫妄	回復	夕方、インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間後、せん妄状態となり、大人二人がかりでやっと押さえつけるほど暴れたため、救急外来受診。受診時は症状なし。本剤中止。服用中止13日後、せん妄回復。	異常以外-314	
339	B-05000394	女性	49歳	150mg		意識変容状態 落ち着きのなさ	回復	39℃の発熱があり受診、インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを投与。4日間自宅で療養。4日目の夜、意識障害、不穏状態発現。投与を中止し翌日インフルエンザ確定診断実施するがウイルス検出されず。意識レベルが低かったため入院、ステロイドパルス療法により症状軽快、症状発現3日後にほぼもとの状態に回復し、7日後に回復退院。	異常以外-315	
340	B-07000129	女性	49歳	75 mg	酒石酸ソルピデム ロキソプロフェンナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) フルバスタチンナトリウム ピコスルファートナトリウム テブレノン	異常行動 異常行動	不明 不明	患者がインフルエンザの検査を拒否したが、リン酸オセルタミビル処方。翌日、通勤する際、車で自損事故を3回繰り返した。来院し、インフルエンザの検査を実施したところ陰性。	異常以外-316	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
341	B-05025356	女性	50歳代	不明		痙攣	未回復	リン酸オセルタミビル5日間処方され服用開始。眼の周りが痛い、痙攣発現。本剤2日分服用にて中止。痛みが出てから1週間以上経過するも改善せず。副作用の発現時期等詳細不明。	異常以外-317	
342	B-07001423	女性	50歳	150 mg		頭痛	回復	インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル処方。体温:38.5℃。本剤4日間服用し、解熱し体調良好となる。 インフルエンザの転帰:軽快・回復。 本剤服用終了5日後、突然に左側頭～左後頭部にシビれる様な頭痛発現。以前にあった片頭痛とは異なる頭痛であった。鎮痛剤服用するも頭痛強く、入院。頭部CT所見なし。その後、処置にて軽快。	異常以外-318	
343	B-05005032	女性	51歳	不明		精神症状(精神症状)	回復	頭痛・発熱有り受診。インフルエンザと判断され、治療目的にリン酸オセルタミビル投与。5時間後、突然興奮、過換気状態となり救急搬送される。翌日、不穏状態改善。10日後、全身状態良好となり退院。	異常以外-319	
344	B-07000160	女性	51歳	150mg	臭化水素酸デキストロメトラン 塩酸プロカテロール ラミブジン シクロスポリン	意識消失	軽快	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを投与開始(5日間)。意識消失発作が発現。投与終了後、3日目、意識消失発作にて自宅で倒れているところを家族が発見した。その後、意識はすぐに回復した(生体肝移植後で病院に通院中であり、同病院の医師に相談し、本剤はそのまま内服を続行したが、その後、意識障害はなかった)。	異常以外-320	
345	B-07000229	女性	51歳	150 mg	クラリスロマイシン リン酸ジメメルファン セラペプターゼ	幻覚 幻視	軽快 軽快	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2時間後、気分不良、嘔気が出現。ふらつきがあり、足が倍程に太くなる等の幻覚が発現。翌々日の朝、MRI施行するも異常なし。幻覚、幻視は軽快。	異常以外-321	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
346	B-01002845	男性	52歳	150mg	ジクロフェナクナトリウム 塩酸ホミノペン	糖尿病性昏睡 高浸透圧性昏睡	回復	交通事故によるL1、2脊椎損傷(下肢不全麻痺)、肥満。 発熱(37.1°C)、悪寒、咽頭痛で、急性喉咽頭炎の診断でファロム投与開始。 翌日、口渇、多尿あり。 2日後、発熱(39°C)、全身・怠感出現、インフルエンザ疑いにてリン酸オセルタミビル投与開始。 その4日後、本剤投与中止。 投与中止1日後、多飲、多尿、全身・怠感持続。午後より悪心、嘔吐発現。 投与中止2日後、異常高血糖(高浸透性非ケトン性昏睡)、急性腎不全発現(呼吸困難、意識昏迷状態、コーヒー残渣物嘔吐など)。同日、意識状態悪化、呼吸状態悪化、心電図異常(急性腎不全による)発現。 その2日後、心電図正常化。 その4日後、異常高血糖(高浸透性非ケトン性昏睡)、急性腎不全回復。 DMコントロール、下肢不全麻痺のリハビリの為、転院	異常以外-322	
347	B-04027266	男性	52歳	150mg	ファロペネムナトリウム ロキソプロフェンナトリウム 非ピリジン系感胃剤(4) アズレンスルホン酸ナトリウム・レ グルタミン	浮動性めまい 冷汗 嘔吐 下痢 血圧上昇 心電図QRS群 延長	回復	B型インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを投与。 投与開始3日日夜間より、冷汗、眩暈、悪心発現。3日目、完全右脚ブロック(QRSの延長)を確認。冷感、体動時眩暈、嘔気、嘔吐あり、入院。4日目、眩暈あるも嘔気、下痢回復。5日目眩暈続くも退院、以後転帰不明。	異常以外-323	
348	B-05000322	男性	52歳	75mg	フルオキシメステロン プレドニゾン テブレノン ニコチン酸トコフェロール 塩化カリウム ジピリダモール 塩酸アンブロキシール 臭化水素酸デキストロメトर्फアン 塩酸セフカペンピボキシル 非ピリジン系感胃剤(4) レノグラステム(遺伝子組換え) ロキソプロフェンナトリウム	痙攣(全身性 痙攣)	軽快	発作性夜間血色素尿症、再生不良性貧血、慢性腎不全の既往あり。38°Cを超える発熱出現感胃薬等投与するが、2日後になっても発熱、倦怠感持続のため受診。迅速検査でインフルエンザBと診断、リン酸オセルタミビルを投与。2回投与後全身性の硬直性痙攣が出現し、数分間持続。その後通常状態に戻るも、痙攣の前半部の記憶は定かでない。腎機能増悪のため治療。	異常以外-324	
349	B-08000750	男性	52歳	150 mg	イブプロフェン トラネキサム酸 メキタジン アセトアミノフェン	パニック発作	回復	職場にてインフルエンザが多数発生と、本人も風邪気味にて市販の風邪薬を1日服用したが、良くならず、38.1°Cまで体温上昇。 当院受診し、リン酸オセルタミビル処方。昼、夜に本剤服用。 しばらくしてから入眠。出張でホテルに滞在中であった。 服用2日目、深夜、ホテルでもたつてもいられない感覚、不安にかられて追い詰められた気持ちになり(自分が死んでしまうような感覚にとらわれ寝ていることができず、起きていた)、怖かったとのこと。部屋の中の片付けをしていて、しばらくしておさまった。その後本剤服用継続。同様の症状はみられなかった。 服用4日目、本剤服用終了。		2008/4/1以降 新規報告
350	B-07000155	女性	53歳	75 mg	アセトアミノフェン	意識変容状態	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方される。服用後、就寝。翌朝、服用後、腹痛のためトイレに入る。冷汗が出て気付いたら意識喪失で倒れているところを夫が発見。歯3本折る、顔の外傷、頭部血腫。自律神経系異常、意識消失発現。他院でCTをとったが異常なく、現在治療中。発見時、大きないびきをかいていた。	異常以外-325	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
351	B-07000231	女性	53歳	150 mg		意識変容状態	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用4時間後、トイレで倒れ意識消失1分位あり。救急車で来院。応答できるがぼんやりした感じ。上肢の脱力と嘔気がある。翌朝、症状改善し、退院。倒れたときの記憶はなく、意識消失は確かにあったものと考えられる。	異常以外-326	
352	B-07004232	女性	54歳	75 mg	塩酸フェキソフェナジン 臭化水素酸デキストロトルファン テブレノン	血圧低下 意識変容状態	回復 回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。夕、本剤服用後、咳がひどく痛くなった。体温は39℃台から36℃台に速やかに低下。夜、突然意識を失って転倒。家族が呼んでも反応なし。救急隊到着時、血圧低下、意識障害あり。外来到着時、血圧が低下していたが、徐々に上昇。まもなく覚醒したが、見当識障害が強くベッドからこぼれ落ちそうになるほど。明らかに異常行動の危険があると判断されたため、入院・経過観察とした。その後、3～4時間で全く普段通りに戻った。 服用から2日目、血圧低下、意識障害回復。インフルエンザ軽快。	異常以外-327	
353	B-07026000	男性	54歳	投与量 不明		痙攣	不明	インフルエンザA型の診断で、リン酸オセルタミビル等を処方。服用6時間後、体温40.5℃。麻疹疹と掻痒感あり。翌朝、体温37.6℃。おにぎりなどを食べた後、意識消失発作(家族は痙攣を伴ったというが、硬直などではないかと思う)。意識消失、痙攣発現。嘔吐があったため、詰まるといけないので家族が背中を叩いたところ意識が戻った。	異常以外-328	2008/4/1以降 追加報告
354	B-02012658	女性	55歳	150mg	五虎湯 血圧降下剤	意識レベルの 低下	回復	近医にて耐糖能異常と診断されたが投薬なし。低血糖発作既往、TIAの既往なし。インフルエンザ治療のため午前中より、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始2日目に食事の後本剤服用10分後に気分不良、冷汗、意識もうろう、全身発汗発現、トイレにて倒れる。動悸著明。約1時間半後、処置せず症状回復。	異常以外-329	
355	B-03012141	女性	55歳	150mg		痙攣	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。夕方75mgを服用。3時間後に上肢が痙攣したが、1時間ほどで改善。	異常以外-330	
356	B-04026213	男性	55歳	75mg	なし	意識変容状態	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル75mg/日を投与開始。投与1回目の2時間後に嘔気自覚、引き続き意識消失及び嘔吐の有害事象発現。5分後には回復。翌日外来受診するが、有害事象は認められず。	異常以外-331	
357	B-04026885	女性	55歳	150mg	なし	浮動性めまい	不明	メニエール病の既往あり。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与。投与開始後2日目、めまいがひどいと訴えあり。4日目、本剤投与中止。体調不良の際にはめまいが発現するとの訴えは報告時にも継続。	異常以外-332	
358	B-05001027	男性	55歳	150mg		味覚消失(味 覚喪失) 無嗅覚(嗅覚 喪失)	未回復	インフルエンザB治療のためリン酸オセルタミビルを投与開始。本剤投与2日目から味覚障害・嗅覚障害発現。本剤投与4日目で中止し、耳鼻科受診するが、味・嗅覚喪失改善されず、以後耳鼻科にて投薬を受けている。	異常以外-333	
359	B-07000149	男性	55歳	150 mg	アセトアミノフェン	意識消失	回復	インフルエンザA型と診断されリン酸オセルタミビル内服開始。投与2日目、食事が摂取できず、補液。39℃前後あるにもかかわらず、自家用車を運転し、意識消失(ボーとした)。道路横の標識ポールに衝突。体表には外傷認めず、四肢には異常なし。	異常以外-334	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	訂正No	備考
360	B-04027249	女性	56歳	150mg	塩酸オロバタジン	意識消失 発疹 顔面浮腫	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。2回目の服用後、胸部背部に発疹が出現するが、未処置のまま就寝。翌朝、発疹はやや軽減するが、顔面浮腫の自覚あり、さらに排尿時にごく短時間の意識消失発現。再度リン酸オセルタミビルを服用したところ、気分不良及び発疹増悪、入院。点滴加療等により、翌日回復、退院。	異常以外-335	
361	B-06025199	女性	56歳	150mg	ロサルタンカリウム ベシル酸アムロジピン	胆汁うっ滞 幻覚 腎障害	回復 回復 回復	高熱のため、インフルエンザ検査施行したところ、A型は陰性であったが、リン酸オセルタミビル処方。服用3日目、本人、家人申告によると、目をつぶると幻覚(非現実的内容)が見え、恐くて目をつぶれなかった。半日くらい続いたとのこと。服用4日目、幻覚回復。服用5日目、熱発、食思不振、脱水症状にて補液処置。服用終了4日後、全身倦怠感著明。検査上、肝・腎機能障害あり。入院加療にて回復。	異常以外-336	
362	B-07000104	男性	57歳	75 mg	アセトアミノフェン ベシル酸アムロジピン カンデサルタンシレキセチル メシル酸ドキサゾシン 球形吸着炭 炭酸水素ナトリウム アロプリノール ファモチジン 沈降炭酸カルシウム シロスタゾール タゾバクタムナトリウム・ピペラシ ンナトリウム パニペナム・ベタミプロン ポリエチレングリコール処理人免 疫グロブリン	痙攣	死亡	発熱(39.4℃)、湿性咳嗽あり、インフルエンザA治療のため、リン酸オセルタミビル服用。5時間後の翌未明、けいれん発症。	異常以外-337 死亡-43	
363	B-07000287	女性	57歳	75 mg		落ち着きのなさ	回復	インフルエンザA陽性であり、症状の訴え強いため、リン酸オセルタミビル75mg服用後、透析開始。服用20分後、息苦しさ出現。SpO2 90%、O22リットル開始後、98%に改善するが、その後起座呼吸。不穏状態となる。胸部レントゲン上(透析1時間後)うっ血を認める。服用1時間後、心不全、不穏の為、入院。	異常以外-338	
364	B-08028881	男性	58歳	150 mg	クラリスロマイシン トラネキサム酸 鎮咳配合剤(1) 塩酸チザニジン エチゾラム テルミサルタン オメプラゾール ロスバスタチンカルシウム レバミピド クエン酸モサブリド	頭蓋骨陥没骨折	後遺症	他院受診。インフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル、抗生物質、鎮咳薬等投与。服用2日目、朝、本剤服用。眩暈症、失神発現。立ちくらみ。頭蓋骨骨折発現。転倒し頭蓋骨陥没骨折。左側脳内打撲。開頭手術、頭蓋骨をブリッジにて固定。眩暈症、失神から10日目、改善骨形成術施行。本剤服用終了から約20日目、退院。		2008/4/1以降 新規報告
365	B-05001265	女性	59歳	150mg	セフジトレニボキシル セラペプターゼ リン酸ジメモルファン メトクロプラミド ジサイクロミン・水酸化アルミニウ ム配合剤 酸化マグネシウム	悪夢(悪夢)	回復	インフルエンザA治療のためリン酸オセルタミビル投与。投与開始日の夜、悪夢発現。発熱中夜睡眠時に悪夢発現。本剤投与開始3日後平熱化し、自覚症状改善したため、当日夜の服用を中止したところ、悪夢を見なくなった。回復。	異常以外-339	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	製剤番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
366	B-05001338	男性	59歳	150mg	セフトレキシム セラペブターゼ リン酸ジメモルファン メクロプラミド ジサイクロミン・水酸化アルミニウム配合剤 アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	悪夢(悪夢)	回復	前日から38℃発熱、インフルエンザB治療のためリン酸オセルタミビル投与。その夜悪夢出現。飲み続けた2日間、悪夢継続。本剤投与中止により悪夢の自覚症状改善。	異常以外-340	
367	B-05024962	女性	59歳	150mg	アセトアミノフェン	嘔吐 悪心 頭痛 頭部不快感	回復 回復 回復 回復	A型インフルエンザで発熱(36.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始から2日目に悪心、嘔吐、頭痛、頭部不快感が発現し、リン酸オセルタミビルの服用は投与開始から3日目の投与終了までで中止した。その後、悪心、嘔吐、頭痛、頭部不快感の発現から約20日後に症状が回復した。	異常以外-341	
368	B-07000276	女性	59歳	75 mg	ハロペリドール ゾレピドン 塩酸ピペリデン ユピデカレノン フマル酸クエチアピン 塩酸プロメタジン センソシド フルニトラゼパム	痙攣 息詰まり	不明 後遺症	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。一回服用後、痙攣、意識レベルの低下発現。本剤投与中止。 翌朝、普段と変わらない状態を確認後、食事。その後、食事をのどに詰め倒れているところを発見。	異常以外-342	
369	B-05001125	男性	61歳	75mg	カルボシステイン ステアリン酸エリスロマイシン	意識変容状態	回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル投与。食後カルボシステイン、ステアリン酸エリスロマイシンと同時に服用したところ5分以内に意識がなくなる。救急車到着後まもなく意識が戻ったため、自宅静養。回復する。その数日後、再度受診し本剤DLSTの検査を行ったところ、S.I値217%であった。	異常以外-343	
370	B-05000880	女性	62歳	150mg		味覚異常(味覚障害) 嗅覚錯乱(嗅覚障害)	回復	インフルエンザB治療のためリン酸オセルタミビルを投与。投与開始4日後に味覚障害、嗅覚障害発現。その後も投与を続け、開始5日後に投与終了。投与終了後8日で軽快。	異常以外-344	
371	B-06025517	男性	82歳	150 mg	アセトアミノフェン	意識消失	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤投与翌早朝、意識不明(トイレに目覚めたが、トイレと逆方向に行き転倒。気付いたときは頭部に4cm程度の切り傷あり)発現。	異常以外-345	
372	B-05001513	女性	63歳	150mg	テオフィリン 非ピリン系感冒剤(2) セフボドキシムプロキセチル アセトアミノフェン アスピリン アルファカルシドール バルプロ酸ナトリウム トロキシビド トラピジル 沈降炭酸カルシウム プロチゾラム クエン酸モサプリド 塩酸チアラミド 鎮咳配合剤(1)	痙攣(けいれん 重積発作)	回復	脳梗塞、慢性腎不全、血液透析の既往あり。咳、発熱(38.5℃)嘔声出現し、塩酸チアラミド及び鎮咳配合剤4日間投与。その後も発熱、嘔吐が続くため、確定検査によりインフルエンザB確定診断しリン酸オセルタミビル投与。3日後解熱するが嘔吐改善なく、感冒薬投与。翌日全身痙攣をきたし、救急搬送。けいれん重積発作が3時間続いた。その後回復。	異常以外-346	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
373	B-05002114	女性	63歳	150mg	アジスロマイシン水和物 非ピリン系感胃剤(4) テブレノン エカベトナトリウム	味覚異常(味 覚障害)	軽快	発熱有り受診し、B型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビルを投与。本剤投与後3日後、食欲不振、味覚障害発現(重篤でないし軽微でもない)。その翌日平熱となり本剤投与中止。本剤投与中止20日後、味覚障害軽快となる。	異常以外-347	
374	B-05000160	女性	64歳	150mg	アセトアミノフェン	筋痛(両上肢 脱力を伴う筋 肉痛) 感覚障害(上 半身皮膚知覚 異常)	未回復	発熱、関節痛のためインフルエンザ確定診断を実施せずリン酸オセルタミビルを投与開始。翌日両上肢脱力を伴う筋肉痛、上半身皮膚知覚異常発現。その後の処置、転帰等については不明。	異常以外-348	
375	B-05017977	女性	64歳	75mg		意識消失(意 識消失)	回復	B型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル投与。1cap服用後、意識消失発現。救急搬送される。翌日退院となる。回復時期は不明。	異常以外-349	
376	B-04027668	男性	65歳	150mg	メフェナム酸 非ピリン系感胃剤(4)	味覚異常	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与開始2日目、味覚障害を発現。合計5日間本剤服用した後、投与中止。翌日、味覚障害回復。その後9日目、調子が悪くなり(だるい)、悪寒、味がおかしくなるとの訴えあり。味覚障害については、報告時未回復。	異常以外-350	
377	B-08001548	女性	65歳	150 mg	ロフラゼブ酸エテル	異常行動	回復	インフルエンザ発症。発熱あり。 インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。 服用3日目、5回服用後、怒りがこみ上げる。物を投げるといった症状が発現。体温36.5℃。本剤服用中止。同日回復。		2008/4/1以降 新規報告
378	B-03003859	女性	66歳	150mg	カルベシロール レボチロキシナトリウム グリベンクラミド アカルボース	脳血栓 血圧低下	未回復	発熱(38.6℃)にてリン酸オセルタミビル服用開始。 2日後、血圧低下。 その2日後、本剤服用中止。 服用中止21日後、右半身麻痺発症。 2日後、入院し脳血栓症の診断。 退院後も右半身麻痺症状は消失せず。	異常以外-351	
379	B-03009966	男性	66歳	75mg	テオフィリン برانلカスト水和物 テブレノン プロピオン酸フルチカゾン	痙攣 意識消失	回復	喘息のため、テオフィリン、برانلカスト水和物、テブレノン(以上開始日: 2001/07/14)、プロピオン酸フルチカゾン(開始日:2002/05/28)を投与中。インフルエン ザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日処方。同日夜、75mgを服用。その7時間 後、意識消失発作あり転倒したが、1分程度で意識が戻る。その2時間半後、眼球上転、 全身痙攣出現、便失禁あり。1分程度で痙攣消失し意識清明となる。入院したが、意識清 明。本剤内服は中止。7日間入院したが、その間意識消失、痙攣なし。	異常以外-352	
380	B-05001653	女性	66歳	150mg	アズレンスルホン酸ナトリウム インドメタシン 乳酸リンゲル液 メクロプラミド	意識変容状態	回復	発熱・全身倦怠感を訴え外来受診。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル投 与。翌日午前中嘔吐し、再度外来受診。乳酸リンゲル液+メクロプラミド静注。手のし びれを訴えたがそのまま帰宅。翌日早朝、意識障害に気づき、救急病院に搬送され、本 剤投与中止となる。翌日、家族から意識回復の電話連絡あり。	異常以外-353	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
381	B-07001731	女性	66歳	75 mg	臭化水素酸デキストロメトルファン ロラゼパム クロキサゾラム	意識変容状態 痙攣	回復 回復	インフルンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。食事中、腹痛、気分不快になり意識消失(5分間程)。尿失禁あり。その後回復。	異常以外-354	
382	B-07002262	女性	66歳	150mg	アセトアミノフェン ツロプテロール 塩酸プロカテロール クラリスロマイシン 酒石酸ゾルピデム 臭化オキシロピウム 臭化水素酸デキストロメトルファン セラベプターゼ 塩酸アンプロキソール カルボシステイン テオフィリン	うつ病	回復	インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。本剤を服用するとうつ状態となり、死にたいという気持ちが強くなり、手首を切ろうかと思いつめた。3回目までの服用したが、あまりに症状がきついで、本剤服用中止。中止後、症状軽快するも、中止1ヵ月後、うつの症状が抜けきらず、夜も眠れないとのこと。	異常以外-355	
383	B-05001646	女性	67歳	75mg	非ピリン系感冒剤(4) セラベプターゼ 塩化デカリウム アセトアミノフェン 維持液(3)	意識消失(意 識消失(失 神))	回復	前日から38℃発熱、咽頭痛、頭痛有り、受診しインフルエンザBと診断。治療のためリン酸オセルタミビル投与。その夜、意識消失(トイレで倒れ骨折)。失神は5分以内に回復。本剤投与は継続し本剤投与4日後にインフルエンザ回復。	異常以外-356	
384	B-06026127	女性	67歳	150 mg	クラリスロマイシン 塩酸チアラミド リン酸コデイン(1%以下) 塩酸プロカテロール 塩酸セフェピム	意識消失	回復	夜、本剤服用後、病院から帰る途中、車にて事故を起こした。意識消失発現。来院し、体温36.2℃。事故について、意識がなかったことを聞く。CT異常なし。意識消失回復。	異常以外-357	
385	B-07027779	女性	67歳	75 mg	ソニサミド センノシド 塩酸エブラジノン メシル酸プロモクリプテン レボドパ・カルビドパ(1) 塩酸オキシブチニン 塩酸セレギリン アスコルビン酸・パントテン酸カル シウム(1) カベルゴリン フェルピナク ケトプロフェン テオフィリン モンテルカストナトリウム キシナホ酸サルメテロール・プロピ オン酸フ アセトアミノフェン 鎮咳配合剤(1)	異常行動	不明	A型インフルエンザと判定されリン酸オセルタミビルを処方。服用2日目、体を横にゴロゴロするような不穏な動きを度々していた。足の不随運動が強くなり立つ事が困難であった。トイレにうづくまってつらそうだった。服用3日目、体を横に動かさず動きがあった。A院受診。服薬中止の指示あり。服用中止1日後、体調が急変し、心肺停止にて搬送。	異常以外-358	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	副作用公表 No	備考
386	B-04024816	女性	68歳	150mg	テガフル・ギメラシル・オテラシ ルカリウム アセトアミノフェン 塩酸エホニジピン メクロプラミド	意識変容状態 痙攣	回復	B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。最終投与(4 回目)後当日中に、言語、行動異常出現。バルプロ酸ナトリウム投与等の処置により、有 害事象発現16日後回復。	異常以外-359	
387	B-07000205	女性	69歳	75 mg	リン酸ジメメルファン カルボシステイン アズレンスルホン酸ナトリウム・L -グルタミン アセトアミノフェン	意識消失	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。 翌日、意識消失発現。廊下でまへのめりに転倒、顔を床にうつ。本剤服用中止。	異常以外-360	
388	B-07001524	男性	69歳	150 mg		認知症	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用3日目、幻覚、認知症の悪化発現。幻覚の内容は「周りに女の人がいて集団見合い をしている」といったもの。 本剤服用終了から2日目、幻覚軽快。本剤服用後しばらくは認知症の程度が強くなった。 本剤服用終了から5日目、発熱前の状態に戻っていた。認知症の悪化も回復。	異常以外-361	2008/4/1以降 追加報告
389	B-07025093	男性	70歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) テブレノン 塩化デカリニウム アセトアミノフェン	自殺念慮	回復	リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン等処方。 服用2日目、近くの川に飛び込みたい、酒をたらふく飲みたいとの発言あり。	異常以外-362	2008/4/1以降 追加報告
390	B-02002488	男性	71歳	150mg	アジスロマイシン水和物 非ピリン系感冒剤 セラベプターゼ	糖尿病性昏睡	未回復	悪寒、発熱(38.5℃)のためリン酸オセルタミビル投与開始。 3日後嘔吐、倦怠のため投与中止。 中止2日後、糖尿病性昏睡発現。インスリン処方。 2ヶ月後、糖尿病性昏睡軽快	異常以外-363	
391	B-03010065	女性	71歳		PL リン酸ジメメルファン 塩酸セフカペンピボキシル ベンフォチアミン・B6・B12配合剤 (1) 塩酸ジルチアゼム バファリン81mg トリアゾラム	妄想 幻覚	回復	インフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル(量不明)を服用(併用薬の服用状況は不 明)。翌日、解熱したが、夜間より、幻覚、妄想出現。2日後入院、本剤中止。事象発現か ら6日目に幻覚消失。	異常以外-364	
392	B-02001386	女性	72歳	150mg	アンピシリンナトリウム ボラブレジンク スリンダク テブレノン 塩酸エペリゾン ジアゼパム 臭化ジスチグミン フロセミド ヒトインスリン(遺伝子組換え) プロチゾラム	嗜眠	軽快	細菌性髄膜炎、敗血症発症し入院。血小板減少を認めさらに一過性の意識障害を認め た。その後、A型インフルエンザと診断され、治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。投 与3回目内服後、しばらくして傾眠状態に陥る。その後、痰つまり、血圧低下等有り。同日 本剤等併用薬のほとんどを中止とし、インフルエンザ回復と判断。その後意識低下等 のための処置を行い、意識消失後6日目に経口摂取可能となり、全ての副作用軽快と判 断。その後も意識レベル変動あり。	異常以外-365	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
393	B-07000290	男性	72歳	150 mg	クラリスロマイシン 鎮咳配合剤(1) アセトアミノフェン グリクラジド 塩酸メトホルミン	妄想	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。翌日、精神異常(妄想)発現。常に後ろから誰かに邪魔されている、邪魔されている人から逃げる。逃げ切った後に急にその人が前に現れるといった症状が、本剤服用後に確認された。本剤服用中止。症状回復。	異常以外-366	
394	B-02001093	女性	74歳	150mg	塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン 臭素水素酸デキストロトルファン 塩酸ジフェンヒドラミン 桜皮エキス セネガ セラベプターゼ 塩酸プロモヘキシシ	譫妄 不穏	回復	詳細不明。認知症あり。	異常以外-367	
395	B-04000835	男性	74歳	150mg	麻黄湯 アスピリン シメチジン	認知症	回復	アスピリン、シメチジンを投与されていた(開始日:不明)。38°Cの発熱があり、インフルエンザA型と診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日及び麻黄湯を5日分処方されたが、4日目に認知症が激しくなり、家の間取りも忘れる。リン酸オセルタミビルを4日分で中止後、記憶力は次第にもどり、事象発現から7日目には認知症症状も良くなった。	異常以外-368	
396	B-05001823	男性	74歳	75mg	クラリスロマイシン クエン酸モサプリド センノシド 経腸成分栄養剤(2) イトラコナゾール	意識レベルの低下(意識レベルの低下)	回復	肺結核、肺炎菌症の既往あり。以前より起立性低血圧の既往有ったが、意識レベルの低下は認められていない。38°C程度の発熱が続き、インフルエンザ確定診断テスト実施した結果、B型インフルエンザと診断され、治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。翌早期ベッド前に倒れ、その際に左側頭部打撲、側頭部内出血。当日朝方に意識レベル改善し、夕食後より本剤投与中止となる。翌日インフルエンザ治癒。	異常以外-369	
397	B-07027778	男性	74歳	75 mg	ベシル酸アムロジピン	異常行動	回復	インフルエンザ発症し、発熱、倦怠感、咽頭痛を認める。咽頭サンプルより、インフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用3日目、本剤4回服用後、解熱していたが、自動車運転中に中央分離帯にぶつかりそうになる行動が7~8回あり。同乗していた妻が、ハンドル操作を補助して、一旦停止するよう促した。本人は自分の行動を認めようとしませんが、患者の妻から「あの薬は何かあるのか?」と電話にて問い合わせを受けたため「異常行動の可能性あり」と説明した。本剤服用終了から2日目、インフルエンザA型軽快。異常行動回復と判断。	異常以外-370	2008/4/1以降追加報告
398	B-02000229	男性	76歳	150mg	エリスロマイシン 葛根湯 ピペラシリンナトリウム	幻覚	回復	詳細不明	異常以外-371	
399	B-02001630	女性	76歳	150mg	塩酸ラニテジン ニセルゴリン プラバスタチンナトリウム カンデサルタンシレキセチル トリクロルメチアジド シルニジピン	痙攣	回復	基礎疾患として、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、高脂血症、高血圧、多発性脳梗塞を持ち、治療中(開始日:2001年頃)。臨床経過より、インフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。投与を開始した翌日の昼に痙攣、意識障害が発現。同日、入院し、本剤の投与中止。翌日、軽い眩暈があるが、意識清明。さらに翌日、意識清明、眩暈消失、痙攣回復。	異常以外-372	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
400	B-02009730	女性	76歳	150mg	プラバスタチンナトリウム クエン酸モサプリド フドステイン セフジニル トラネキサム酸 臭化水素酸デキストロトルファン カルボシステイン オキサトミド ジフェンヒドラミン フルオシノニド ベタメタゾン/α-マレイン酸クロロ フェニラミン 塩酸フェキソフェナジン スクラルファート	反射減弱 末梢性ニュー ロパシー	不明	A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを治療目的に投与。本剤服用終了約1月後に四肢末梢のしびれ(末梢神経障害)発現。その後、全身脱毛、腫反反射減弱、神経因性膀胱、食欲不振等発現。原因精査治療目的のため入院し、処置を行い末梢神経障害や食欲不振も徐々に回復。転帰は不明。	異常以外-373	
401	B-05001017	女性	76歳	150mg	塩酸ドネペジル 塩酸ラニチジン スクラルファート	意識変容状態	回復	老年痴呆の既往あり。インフルエンザA/B治療のためリン酸オセルタミビルの投与を開始。6日間投与を2クール実施後4日後に意識障害が発現。終日眠っており覚醒しない。補液のみで翌日から回復に向かい、意識障害発現後5日後に意識障害は回復した。	異常以外-374	
402	B-05026500	男性	76歳	150mg		幻覚	回復	A型インフルエンザで発熱(38.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から3日目に不穏等が発現し、その後幻覚も見られた。服用開始から4日後に服用を中止し、幻覚は発現から5日目に回復した。	異常以外-375	
403	B-01000663	女性	78歳	150mg	グリベンクラミド ボグリボース アズレンスルホン酸ナトリウム/ L-グルタミン 酒石酸イフェンプロジル 硫酸鉄 アモキシシリン/クラブラン酸カリ ウム	低血糖昏睡	回復	糖尿病の既往有り。発熱・全身倦怠感有り病院受診し、迅速診断にてA型インフルエンザと診断。翌日、朝より少し食欲無く昼食の量は少なめ。その日17時頃就寝呼びかけに対する返答無し、その後見に行ったところ昏睡のため救急搬送となる。病院到着時、血糖値38mg/dLであり、ブドウ糖静注すると完全に回復となる。担当医によると、低血糖となったのは、今回初めて。	異常以外-376	
404	B-03010786	女性	79歳	150mg	アルファカルシドール ニフェジピン	幻覚 妄想	回復	高血圧、骨粗鬆症で投薬中(開始日:2001/10)。インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日5日分を処方。2日間服用後の夜中、起床し、異常な発言を行い、そわそわして寝ない。翌日朝、服用後、本剤の投与中止。同日午前中に受診し、会話正常。翌日午前中まで昼夜の区別がなかったが、午後になり通常の状態に戻る。	異常以外-377	
405	B-07002949	女性	79歳	150mg	セフミノクスナトリウム ニフェジピン マレイン酸エナラプリル トリクロルメチアジド スピロラクトン アスピリン・ダイアルミネート シンバスタチン ジクロフェナクナトリウム	幻覚 譫妄	回復 回復	高熱、咽頭痛、歩行困難あり、入院。インフルエンザ疑いのため、リン酸オセルタミビル投与開始。翌日、朝より解熱。投与開始5日目、深夜幻覚、譫妄発現。私服に着替え、夫の病室を訪問。「退院しよう」と誘うも、説得され帰室。本剤投与終了。翌日深夜も独りで夫の部屋を訪れ、「退院しよう」といい、説得されて、他の病室へ入室。その後、病室を出て、約1km離れた自宅に帰り、娘宅に電話する。夫がいないことを不審に思った由。その3日後、幻覚、譫妄回復。	異常以外-378	
406	B-05000870	女性	80歳	150mg		味覚異常(味 覚障害)	回復	インフルエンザB発症しリン酸オセルタミビル5日間投与。投与終了2日後インフルエンザ軽快したが、味覚障害・嗅覚障害発現。味覚障害等発現6日後回復。	異常以外-379	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前日公報 No.	備考
407	B-05003030	男性	80歳	150mg	アスピリン・ダイアルミネート メシル酸ベタヒスチン 酸化マグネシウム	譫妄(譫妄)	回復	インフルエンザと診断され、治療目的にリン酸オセルタミビル投与。昼に本剤服用後、まだらボケがあったが、夜も服用すると妄想、せん妄が発現(軽微)。翌朝も症状続いたため自己中止。その後症状緩和。その日夕方本剤再度服用するも、再び記憶があいまいとなる。翌日、本剤中止。その後、症状なくなる。妄想、せん妄回復。	異常以外-380	
408	B-07001906	不明	80歳代	150mg		認知症	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。うなったり暴れたりということが見られ、その後、訳のわからないことをいうなど痴呆症のような状態となる。精神神経異常発現。本剤投与中止。インフルエンザ発症前(本剤服用前)は、痴呆症なし。投与中止翌日、精神神経異常回復。	異常以外-381	
409	B-01012004	男性	81歳	150mg	塩酸ミノサイクリン シメトド・無水カフェイン フロベナムナトリウム ロキソプロフェンナトリウム	幻覚	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル他処方され、経口投与開始。5日後とも、熱がおさまってから幻覚(天井に赤い花が見えるなど)、幻視発現。本剤他投与中止。幻覚発現3日後、幻覚、幻視回復。	異常以外-382	
410	B-07003242	男性	81歳	75 mg	アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム・L- ーグルタミン 塩酸イトプリド	発疹 頭痛 嘔吐	回復 回復 回復	服用1日目、インフルエンザ抗原迅速検査陰性であったが、症状よりインフルエンザ疑いにて、リン酸オセルタミビル処方。午後、本剤服用。夜、嘔吐2回あり。38.4℃、頭痛も持続。服用2日目、服用中止日。午前、38.7℃の発熱、前胸部に発疹散在、頭痛、悪心・嘔吐続く。血液検査で肝障害、腎障害、白血球増加あり。髄膜炎疑い、入院。服用中止1日後、40℃を超える発熱、皮疹悪化あり。	異常以外-383	
411	B-07000126	女性	82歳	75 mg	ピコスルファートナトリウム 塩酸マジピン	幻覚	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。体温37.1℃。本剤服用し、就寝するも眠れず、近所の人の話では訳の分からないこと(入院中でいないはずの息子が手足がとれて家にいるので医師のところ連れて行かなければ、娘がバラバラになって雪にうもれているので助けなければならない等)とを話していったこと。服用から2日目、受診。意味不明な事(孫が体中切れていてこわかった等)を話す。インフルエンザ脳症を疑い入院。入院後も、「私のまわりに虫がいつぱいつぱいいる。窓から外を見て実際は見えないのだが電車の人が手を振っている。自分の足元に川が流れている」などと話す。服用から3日目、朝、大分落ち着き普通に帰った。服用から4日目、インフルエンザ軽快	異常以外-384	
412	B-07003017	女性	82歳	150 mg	アゾセミド イブジラスト クエン酸タンダスピロン ファモチジン 非ピリン系感胃剤(4) 葛根湯 アセトアミノフェン	妄想 幻聴	回復 回復	インフルエンザAに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。投与開始2日目、妄想、幻聴発現。本剤投与中止。投与中止2日後、妄想、幻聴回復。	異常以外-385	
413	B-04027318	女性	84歳	150mg	バルプロ酸ナトリウム	うつ病	回復	てんかんの既往あり、バルプロ酸ナトリウム長期投与中。B型インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを投与。投与開始後7日目、異常な発言と共に意欲の低下著名、うつ症状発現。有害事象発現後7日目、回復。	異常以外-386	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	事例No	備考
414	B-06017777	女性	84歳	150mg	ゾピクロン アセトアミノフェン 塩酸アンブロキシール キョウニン水 ベシル酸アムロジピン テルミサルタン 塩酸ジフェニドール スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	譫妄	回復	脳梗塞、脳腫瘍手術、不眠症の既往歴あり。インフルエンザ確定診断後、肺炎疑いで入院。翌日よりリン酸オセルタミビル投与開始。2日後夜間、つじつまの合わない会話あり、せん妄発現。4日後以降症状なし、4日後投与終了。	異常以外-387	
415	B-02002182	女性	87歳	150mg	酸化マグネシウム マレイン酸フルボキサミン クエン酸モサプリド ブラバスタチンナトリウム ファモチジン ポラボレジンク アセトアミノフェン	幻覚	軽快	幻覚の発現状況は不明。原疾患：痴呆(高脂血症、胃潰瘍を合併)で、約3年前(1999年6月)よりアセトアミノフェン以外の併用薬剤を継続使用。	異常以外-388	
416	B-03013201	女性	87歳	150mg	塩酸プロプラノロール ジアゼパム ベンフォチアミン・B6・B12配合剤 リシノプリル ブラバスタチンナトリウム	譫妄	回復	30歳台から年1回程度心身症のため受診していたほか、高血圧、高脂血症のため治療中(開始日：不明)。インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。投与開始3日後に、幻視を訴えたほか、洋服を何枚もむやみに重ねて着るなどの異常行動があった。翌日、受診時には落ち着いていた。1週間後、再診時には幻覚などの症状はなくなり、再燃はなかった。	異常以外-389	
417	B-05026235	男性	88歳	75mg	グリクラジド アスピリン・ダイアルミネート メコバラミン 非ピリン系感冒剤(4) ゲファルナート ジクロフェナクナトリウム	失神	回復	インフルエンザ発症で入院し、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から2日目の朝に失神が発現し、約2~3分で意識が回復した。同日の夜にはインフルエンザも軽快した。	異常以外-390	
418	B-07019990	女性	88歳	75mg	ニフェジピン 酒石酸メプロロール アルファカルシドール マレイン酸トリメプテン ゲファルナート ファモチジン クラリスロマイシン アセトアミノフェン フェンジソ酸クロベラスチン	肺障害 ラクナ梗塞	未回復 未回復	老人性痴呆あり。意識レベルは清明。意思疎通が可能な程度の難聴あり。インフルエンザ迅速診断キットにて、インフルエンザウイルス陰性。リン酸オセルタミビル等を処方。服用2日目、本日分の本剤を服用しておらず、1回分を服用させて介護スタッフが帰る。服用3日目、家人より5日分の薬が1回分しか残っていないとの連絡。本剤600mgを大量服用した疑いあり。食事は少し食べるが、トイレにも歩行できなくなり、意識障害もあり。夜、救急車にて搬送。脱水、インフルエンザA型陽性、肺炎にて入院。意識レベル不明瞭。入院後、前医で処方された薬剤は投与中止。	異常以外-391	
419	B-04006355	女性	89歳	150mg	塩酸ドネペジル	落ち着きのなさ	回復	老年痴呆、骨粗鬆症、背部痛、骨関節炎で塩酸ドネペジルを投与されていた。インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日が投与され、翌日にはほぼ解熱。投与3日目の夜、家が火事になった等の幻覚が発現。不穏状態が発現し持続するため、本剤の投与を中止。翌日には次第に不穏状態が軽快し、投与中止5日後には全く以前のとおりとなった。	異常以外-392	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表 No.	備考
420	B-04026971	男性	92歳	150→ 225mg	塩酸テアラミド トロキシビド ニフェジピン アプロピノール アスピリン フロセミド ニコランジル 一硝酸イソソルビド 酒石酸メプロロール ファモチジン レバミピド ニトログリセリン 耐性乳酸菌配合剤(1)	ミオクローヌス	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与2日目夕刻、コンプライアンス上の問題あり(2~3カプセルを服用と推測)。同日深夜、不規則な振戦様の不随意運動出現。翌日も脱水著明、顔・体幹・四肢の不随意運動改善せず。リン酸オセルタミビルの服用中止。更にその翌日も、不随意運動改善せず、全身のミオクローヌス様不随意運動と診断、入院。有害事象発現後6日目回復、退院。	異常以外-393	
421	B-01012005	女性	95歳	150mg	テオフィリン ランソプラゾール メクロプラミド ソビクロン カルボシステイン センノシド セラベブターゼ レボフロキサシン	幻覚	回復	発熱(39°C)、腰痛発現。(CRP4+)のため、クラビット処方。 翌日、インフルエンザ疑いのため、リン酸オセルタミビル処方。 処方5日後、幻覚(幻視:木が倒れてくる。幻聴:ハチの発ぶ音)発現。本剤投与中止。 翌日、幻覚軽快。 投与中止3日後、幻覚完全回復	異常以外-394	
422	B-06000632	女性	成人	不明		痙攣	不明	詳細不明	異常以外-395	
423	B-07006907	不明	成人	不明		嗅覚錯乱	未回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用後、嗅覚障害発現。	異常以外-396	
424	B-08001238	女性	8月	30 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン 塩酸アンブロキシオール 桜皮エキス ツロブテロール テオフィリン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。 体温37.0°C。頭を母親の胸に打ちつける。無意味な動き発現。約5分後、症状治まる。無意味な動き回復。 ツロブテロール服用。当院にて、診療するも神経学的に異常なし。		2008/4/1以降 新規報告
425	B-07001708	男性	不明	不明		パーキンソン 病	未回復	大腸ポリープの手術を行った後、インフルエンザに罹り、リン酸オセルタミビル処方。服用翌日、パーキンソン病発現。現在も治療中。	異常以外-397	
426	B-07003019	女性	不明	36 mg	ヒベンズ酸チベピジン フマル酸クレマスチン カルボシステイン アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザにて、リン酸オセルタミビル服用開始。朝、夜本剤服用。体温:39°C。 投与開始2日目、朝、夜、本剤服用。寝ている時、痙攣の様にビクビクする。 投与開始3日目、熱が下がったので本剤を自己中止する。その後、痙攣は出ていない。	異常以外-398	
427	B-01002841	男性	不明	不明	ジクロフェナクナトリウム 塩酸ホミノベン	振戦	不明	インフルエンザに対してリン酸オセルタミビル投与を開始。投与後1~2日後、冷感、ふるえ、高熱のため他院に移送。転帰不明	異常以外-399	
428	B-07002665	男性	不明	78 mg	ヒベンズ酸チベピジン フマル酸クレマスチン カルボシステイン アセトアミノフェン	譫妄	回復	インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夜半、意識が朦朧となる。呼びかけてもはつきりせず家族が「異常行動か?」と考え、本剤服薬中止させたところ、意識回復。	異常以外-400	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	個別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中○、 就寝中じゃない×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復ま での時間	一服し て完全回 復	体温	患者の記 憶	呼吸器等 の既往	呼吸器等 の既往	先に對す る反応	他に上 述の異常 行動の 副作用	異常な行 動に際し て既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (尚、幻覚については具体的に何が見えたか？本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたよと云っているのか？)	旧資料No	
1	B07002190	1	年	女性	①煩燥 ②嘔吐 ③過量投与	2007/3/12	18:00	-	-	-	12時間	No	発熱持続	-	No	No	No	No	-	3月12日(18:00)嘔吐発現。量が多い。内服後、嘔吐が出現したことを内服させた 祖母が不審に思い薬局に問い合わせたところ、量の間違えが確認された。 (20:00)嘔吐発現。	4	
2	B07027256	1	年	男性	異常行動	2008/2/2 2008/2/3 2008/2/3 2008/2/4 2008/2/4 2008/2/5 2008/2/5	2008/2/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/02/02(11:30)インフルエンザA型治療のため、本剤(18mg×2日)処方。処方 方箋を受け取り、帰宅後すぐ服用。1回目の服用後に症状(暴れる)が発現。暴 れて手がつけられなかった(異常行動)発現。同日2回目の服用中止。 2008/02/05 本剤服用終了。 不明 暴れて手がつけられなかった(異常行動)回復。		
3	B07001353	2	年	女性	①異常行動 ②筋力低下	2007/4/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4月1日(午前)本剤服用。(昼食後)両下肢脱力、大声で叫ぶ症状が発現。本剤服 用後、程なくして、立って歩こうとするがフラフラしてすぐに転ぶ。大声で叫ぶの2 つの症状が出現。母親は、娘の通常と違う異常に驚くも、特に何もせず経過観 察した。異常行動は、覚醒時に起こった様子。	5	
4	B08000404	2	年	女性	落ち着きのなさ	2008/1/30~	1日2回	2008/1/31	0:30	○	Yes	-	30分	Yes	解熱過程	No	No	No	No	008/01/30 (午後)インフルエンザA型治療のため、本剤21mg×2日投与開始。 2008/01/31 (0:30)激しく泣いて覚醒し暴れた。不穏状態(非重篤)発現。 30分位で落ち着いて入眠。不穏状態 回復。		
5	B07027920	2	年	男性	異常行動 悪夢	2008/01/18 2008/01/19 2008/01/19 2008/01/20 2008/01/20	2008/1/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/01/18 A型インフルエンザに対して、本剤60mg×2回/日処方。午後より 服用開始。(夜)異常行動発現(非重篤)。寝ていると思ったらびくびくして突然飛び 上がったり、怖がったり震えたりした。 2008/01/19 38℃まで解熱。その後、本剤服用続けたが(〜1/20)そのような症 状は出現せず。 2008/02/01 再診にて回復を確認。	No	
6	B08000403	2	年	女性	①検案 ②異常行動 ③激越	2008/3/1~ 2008/3/4	1日2回	2008/3/2 2008/3/3	18:30 午後	×	No	-	-	No	発熱持続	No	No	No	-	2008/03/01 (19:40)本剤内服。 2008/03/02 (7:40)本剤内服後、部屋の隅でじっと座って話かけても返事をしない。その後煩 燥。 (18:30)本剤内服後、母を叩く、物を投げる。空中を指差し、「取って、取って」と 叫んだ。熱悪。 2008/03/03 腹痛、軟便あり。 (午前)本剤内服。 部屋の隅でじっとしていた。煩燥。 (午後)本剤内服後、母を叩く(空中の物を払う様な動作)。熱悪。 2008/03/04 (午前)本剤内服。 部屋の隅に座っていた(ふさぎ込んだ様子) もう一つ元気がない。 本剤中止し、その後神経症状は悪化しなくなった。 2008/03/10 体温39.6度。インフルエンザウイルスAB混合(サンプル採取箇所:不明)。 本剤23mg×2錠口投与開始(2008/3/10AM)は服用なし、PMに服用。 (17:30)本剤服用後、1時間睡眠。ぐっすり眠る。1時間後、目覚めて、布団を丸 めて起きて玩具を投げる(人が変わったように)。異常行動(1)(非重篤)発現。 2008/03/11 (AM)本剤23mg服用。(PM)本剤投与せず。その後本剤中止。 2008/03/13 (1:30)急に泣いて起き上がり、車やテレビを指さす。5分後位に再び眠る。異 常行動(2)(非重篤)発現。 2008/03/14 異常行動回復と判断。	熱性症発	
7	B08002519	2	年	女性	異常行動	2008/3/10 2008/3/11	PM AM	2008/3/10	17:30	○	Yes	-	-	-	解熱過程	No	No	No	No	2008/03/10 体温39.6度。インフルエンザウイルスAB混合(サンプル採取箇所:不明)。 本剤23mg×2錠口投与開始(2008/3/10AM)は服用なし、PMに服用。 (17:30)本剤服用後、1時間睡眠。ぐっすり眠る。1時間後、目覚めて、布団を丸 めて起きて玩具を投げる(人が変わったように)。異常行動(1)(非重篤)発現。 2008/03/11 (AM)本剤23mg服用。(PM)本剤投与せず。その後本剤中止。 2008/03/13 (1:30)急に泣いて起き上がり、車やテレビを指さす。5分後位に再び眠る。異 常行動(2)(非重篤)発現。 2008/03/14 異常行動回復と判断。	-	
8	B08026623	3	年	男性	幻覚	2007/3/1	11:00	2007/3/1	14:00	×	No	0.5	10分~20 分	Yes	発熱持続	Yes	No	No	No	2007/3/1 遠くを見つめ、おぼけが出る等の症状を訴えた。	6	
9	B07023545	3	年	男性	異常行動 構音障害	2008/1/24	10:30	2008/1/24 2008/1/24	11:40 11:40	×	-	-	不明	Yes	発熱持続中	No	No	No	-	2008/01/23夜 熱が出始める。 2008/01/24 39.8℃のため、施設にて本剤処方。(10:30)タミフル服用。(11: 30)熱性痙攣を起こし当施設に搬送。経過観察のため入院。(11:40)痙攣収 束後に意識の反応は認められ、手足を興奮した様子で動かし、目線は何かを透 視する様に動き、口をモグモグ動かし、発熱を全く認めなかった。行動異常 (非重篤)・発熱障害(非重篤)発現。抗痙攣薬ジアゼパム坐薬服用し入眠。(自 然覚醒後)異常な行動は無く、発熱も認めず通常状態となった。行動異常・発熱障 害 回復。 2008/01/25 処方施設にて本剤処方量(36mg×2回/日)を確認。	熱性症発 (2008年)	
10	B07025436	3	年	男性	腹痛 異常行動 虚驚	2008/2/7	12:00	2008/2/7 2008/2/7 2008/2/7	12:20	○	-	20分	-	Yes	発熱持続 中	No	No	No	-	2008/02/07 (12:00)A型インフルエンザ診断にて、本剤30mg内服。(5分後)腹痛 (非重篤)あり。臥床していた。(20分後)足をつっぱり、白顔になり虚驚の様な(暴 れ出した)感じが2~3分続き、その後死んだように動かなくなった。異常行動・ 虚驚症状 発現。発熱40.2℃。来院時、症状消失し、意識もはっきりしていた。腹痛・ 異常行動・虚驚症状 回復。	-	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	個別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	観察中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない:X)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復まで の時間	一服し て完全回 復	体温	患者の 記憶	悪化 覚醒時 等の既往	悪化 覚醒時 等の家族 歴	光に対 する反応	他剤に よる「異常 な行動」の 副作用歴	異常な行 動に關する 既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたよと云ったのか?)	旧資料No		
11	B07000152	4	年	女性	痲痺	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	口から泡を吹いているような状態。顔は真っ青。唇はチアノーゼが出ていた。目は開いているがぼんやりしており、両親の問いかけにも反応がなかった。	10		
12	B06026808	4	年	女性	異常行動	2007/3/4	12:00	2007/3/4	17:00頃	X	Yes	5	No	発熱持続	-	No	No	-	No	無	つじつまの合わないことを感じたり、意味不明の言動があった。この時発熱あり。	7	
13	B07000101	4	年	男性	①痲痺 ②幻覚 ③頭痛 ④痲痺 ⑤異常行動 ⑥視覚障害 ⑦浮動性めまい ⑧意識レベルの低下	2007/3/2 2007/3/2 2007/3/3 2007/3/4	午前 18:00- 19:00 7:00- 8:00 7:00- 8:00	2007/3/7	7:30	-	Yes	-	Yes	発熱持続	-	No	-	-	No	無	3月3日けいれん。意識レベル低下(非重篤)発現。 3月4日熱がさがる。 3月6日ふらつき、頭痛あり。(12:30)「目の前が真っ暗、見えなし」という。診察時 には視力あり。幻覚、視覚異常、ふらつき、痲痺を発現。 3月7日(7:30)「痛い痛い、(部屋の隅を指示して)あそこにかがいているから痛い」と 言う。入眠し、起きた時には訴えなし。	9	
14	B07000067	4	年	女性	痲痺	2007/2/28	12:00	2007/2/28	13:00	X	Yes	1	30分	Yes	発熱持続	No	No	No	No	無	痲痺	8	
15	B07000285	4	年	女性	痲痺	2007/3/13 2007/3/13	12:30 13:15 13:15 15:00 20:00	2007/3/13 2007/3/13	13:15:00 20:00	-	-	-	7時間 発熱性痲 痺が起き てから7時 間後に回 復	Yes	-	No	No	-	No	No	無	2007/03/13 (12:30)インフルエンザ予防のため、本剤36mg内服。 (13:15)嘔吐、けいれん重積発現(非重篤)。25分間、両上下肢を伸展痲痺させる 熱性けいれんが持続。救急車要請。 自然痲痺、意識不詳明、呼吸反応なし。 当院紹介、JCS3-10程度。 (15:00)ジアップ坐薬6mg投与、ルートキープ。 7時間後に再投与と経過をすることができるようになった。 (23:00)ジアップ坐薬投与。 2007/03/14 けいれん重積回復。 2007/03/19 退院。	13
16	B07000201	4	年	女性	①痲痺 ②間代性痲痺 ③嘔吐 ④意識レベルの低下	2007/3/17 2007/3/17 2007/3/18 2007/3/18	朝 夕 朝 夕	2007/3/18 2007/3/18	9:00 内服後	○	Yes	-	30分	Yes	発熱持続	-	No	No	-	No	無	内服後、うわ言、痲痺、嘔吐。夕方、回復、嘔吐したためもう一度タミフルを服用 させる。朝と同じ症状(うわ言、痲痺、嘔吐)⇒その後も再び痲痺。	11
17	B07001807	4	年	女性	痲痺	2007/3/20 2007/3/21 2007/3/22	-	-	-	-	-	30分	Yes	解熱後	-	No	No	No	No	無	3月23日(2:30)30分くらいの「発作」。引付なのか悪夢をみたのか、よく分からない と母。(3:00)ひきつけ回復。その後は少しうなり声を上げながら眠ってしまった。	16	
18	B07001668	4	年	女性	①幻覚 ②痲痺	2007/2/28 2007/2/28	11:00 21:30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2月28日(22:00)全身痲痺5分間。意識あり、やや軽い痲痺。(23:00)39.5℃。全身 痲痺5分間。意識あり、やや軽い痲痺。(24:00)痲痺5分間。 3月1日(1:00)痲痺4分間。意識あり。痲痺強。幻覚あり(ママの目が真っ赤でこわ いという)(4:00)痲痺2分間。幻覚あり(ママの目が赤い、パジャマに丸いシオ がついていると指差して言う)。	14	
19	B07001747	4	年	女性	①幻覚 ②痲痺 ③意識喪失状態	2007/3/29 2007/3/30	16:00 6:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	3月29日(16:00)意識障害、幻覚発現。体温39.6℃。「明日おっぱいを飲みに行く」 等、意味不明なことを言い出した。(18:00)痲痺発現。(18:50)救急車にて他院へ。 到着時は意識ははっきりしていた。帰宅後も。頭痛、痲痺、嘔吐あり。「目をとっ てくれ」と訴えていた。本剤1回目投与から、朝まで記憶がなかった。	15	
20	B07000243	4	年	男性	①異常行動 ②痲痺	2007/3/31 2007/3/31 2007/3/31 2007/4/1	13:00 20:00 7:30	2007/3/31 2007/3/31	14:00 20:30	-	-	-	Yes	発熱持続	-	-	-	-	-	(低血糖)	①突然笑い出す。 ②両眼球が左上向き。口をバクバクする。呼びかけに反応しない。唇の色が悪く なった。	12	
21	B07027782	4	年	男性	異常行動	2008/2/28 2008/2/28	午前 午後	2008/2/28 2008/2/28 2008/2/29 2008/3/1	不明 夜 夜中	○	-	-	-	-	解熱後	-	No	No	No	No	無	2008/02/28 インフルエンザA型治療のための本剤処方。(午前)本剤服用。昼寝 でいてギャンと泣いた。異常行動(非重篤)発現。(午後)本剤服用。夕方解熱剤 を服用。夜もギャンと泣いた。 2008/02/29 熱は下がった。夜ギャンギャン泣いた。顔をぶつけてくる感じが あった。 2008/03/01 夜中急に泣くいやだと言った。ほったらかしで寝た。ほったらかしでも 起こすが本人は泣いたことを覚えていない。その後本剤中止。 2008/03/02 特に何事もなし。異常行動 回復。 2008/04/14 父親より、服用中止してから全く異常なく、健康とのこと。	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない: ×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復ま での時 間	一服し て完全回 復	体温	患者の記 憶	睡眠覚 醒等の既 往	睡眠覚 醒等の家 族歴	光に対 する反応	他剤に よる「異常 な行動」の 副作用歴	異常な行 動に關する 既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたかどうか?)	旧資料No		
22	B08003759	4	年	女性	異常行動	2007/3/17~ 2007/3/19	1日2回	2007/3/17	15:00	○	-	-	-	Yes	発熱持続	No	No	-	-	-	2007/03/17 インフルエンザA型と診断。 (12:00)本剤服用。 (15:00)開始し、意味不明の言動あり。異常行動-異常言動発現と判断。 (17:00)突然起きだし、シクシク泣く。一点凝視し、震える。おびえた様子。「こわい 夢を見た」と言う。 (17:15)当院へ車よりTELあり。「子供のそばを離れないように。椅子がおかしい 時はだっこするように。本剤服用が心配なら中止してもよい。」(医師不在のため ナース対応) (18:00)部屋の角を指差し泣きだす。 その後本剤服用続けるが、異常行動は見られず。回復と判断。		
23	B08027286	4	年	女性	異常行動	2008/12/23 2008/12/24	1日2回	2008/12/24	22:00	×	-	-	-	No	解熱過程	No	No	-	No	-	2008/12/23 A型インフルエンザ治療のため本剤75mg投与開始(~2008/12/24)。 2008/12/24 (22:00頃)異常行動発現。急に家しがあったり、急に泣き出すとと、やっけない の「おり紙」をおるまねをし始めた(ひるにやっていたのを思い出した様子)。当 科救急外来を受診した際も、ボーとしており意識もやや悪かったため、そのま ま入院とした。入院後検査(ノリタ1、T3)及びリレンザ(12/25~3日間服用)を 開始した。 2008/12/25 朝、症状は消失しており、経過良好。2008/12/26 退院となった。 異常行動の転帰:回復		
24	B07000148	5	年	男性	①痲痺 ②意識レベルの低 下	2007/3/11 2007/3/11 2007/3/12 2007/3/13 2007/3/13 2007/3/14 2007/3/15	-	-	-	-	-	-	Yes	解熱後	No	-	Yes	No	No	無	幼穉期で約10秒程度、真っ青になりボーとしていて痲痺を起こしていた。顔色 の悪い状態は、約1時間半続いた。(幼稚園保育士から母親が聞いた話)	20	
25	B07000090	5	年	女性	異常行動	2007/2/25	-	2007/2/25	-	×	No	-	-	No	発熱持続 経過過程	-	No	No	-	No	無	「何者かに盗われている」との発言。	18
26	B07000110	5	年	男性	痲痺	2007/3/19	19:20	2007/3/19	20:00	-	-	-	-	-	-	-	No	-	No	-	無	痲痺(白目をむく発作)	19
27	B07000282	5	年	男性	①痲痺 ②幻覚	-	-	-	①11:00 ②14:00	-	Yes	-	14時間	No	発熱持続	No	No	-	Yes	No	無	①口を噛むようなしぐさを繰り返す。 ②多弁、幻覚、物を取るようなしぐさを発現。	21
28	B07002264	5	年	男性	異常行動	2007/4/3 2007/4/4 2007/4/4	(夕) (朝) (夕)	-	-	-	Yes	-	1時間以 内	Yes	発熱持続	No	No	-	No	No	No	4月4日(21:00頃)就寝していたところ急に足をバタバタさせ、その後「おしっこに行 きたい」と騒ぎ出し、排尿をすませた後走って戻り、何か鼻口で吸い(家人に 内容は分からなかったとのこと)再度就寝。異常行動の疑い(非重篤)発現。 (22:00)その行動があまりに平素の様子と違ったため、異常行動ではないかと当 院救急受診。受診時意識清明、更だ経過良好、神経学的異常所見なかったが、 家人の心配が強いため、入院の上経過観察とした。	23
29	B07001738	5	年	男性	異常行動	2007/4/6	19:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(19:30)気分高揚発現。語ったり飛んだりしたが、そのまま様子を見ていた。	22	
30	B07024540	5	年	男性	異常行動 幻覚	2008/1/12 2008/1/12	-	2008/1/12 2008/1/12	18:00 21:50	○	-	1時間	10分	Yes	発熱持続中	No Yes	Yes	No	No	-	脱性痲痺	2008/01/11 (午後)38.7℃で受診。患者の保育園でインフルエンザが流行。キッ ト陰性。咳があり、気管支炎より診断。もともと喘息あり、ジスロマックとダイア ブ薬を処方。翌日も熱があれば通院するよう指導。 2008/01/12 40℃の熱で受診。キットにて微かにA型陽性のため、タミフル45mg ×2回、メブチン、ムコダイン、アスピリン処方。昨日処方された薬も服用した とみられる。(17:00頃)タミフル内服。(18:00~18:10)両眼が異常なまばたきを始め た。特に左眼なし。(21:50)全身のふるえが起り、泣き叫んで部屋の真中に目玉 がたくさんあると言いつけた。(22:00)10分くらいで症状はおさまった。家人が心 配し、喘息でかかっている他院を受診。経過観察等で入院となった。 2008/01/14 (朝)退院。 2008/01/15 解熱。 2008/01/18 再び熱がため、当院受診。異常行動は1/12のみとのこと。	
31	B07024355	5	年	男性	痲痺 大発作痲痺	2008/3/9	16:00	2008/3/9	13:30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2007/03/08(21:00) 38℃の発熱。薬を使用。 2007/03/09 近医でインフルエンザAと判明し、本剤を処方され、10時に内服。 13時半に、「ちがう、ちがう」等うわごとを言う。15時、嘔吐、軟便あり。18時、ス ポーツドリンクを 200 ml 飲んで、2-3分後、急に起き上がり、嘔吐した。全身強 直性間代性けいれん、約2-3分、救急車で搬送。		
32	B07028058	5	年	女性	異常行動	2008/2/8	17:00	2008/2/8	18:00	×	-	-	8時間	Yes	発熱持続中	-	No	-	-	No	-	2008/02/08 (17:00)本剤36mg内服。(18:00)異常行動発現(非重篤)。大声を出 す。ふすまを壊すなどした。(24:00)異常行動回復。家族の判断で本剤内服中 止。	
33	B07000002	6	月	男性	痲痺	2007/2/11	15:00	2007/2/13	18:00	×	No	-	7時間	No	発熱持続	No	No	No	No	No	無	痲痺が起きたため入院。	1
34	B07002053	6	年	女性	強直性痲痺	2007/2/28 2007/2/28 2007/2/27	-	-	-	-	-	-	5分	-	発熱中	-	-	-	-	-	-	2月26日痲痺(非重篤)、声を発する(非重篤)発現。	27

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	腫瘍番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じやない: x)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復まで の時間	一服し て完全回 復	体温	患者の 記憶	呼吸器 症等の 既往	睡眠器 症等の 家歴	光に 対する 反応	他剤に よる 「異常な 行動」の 副作用	異常な 行動に 関する 既往歴	(例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたよと言っているのか?)	旧資料No		
35	B07001808	8	年	男性	異常行動	2007/3/17 2007/3/18 2007/3/18 2007/3/19	夜 朝 夕 朝	-	-	-	Yes	No	発熱持続	No	No	No	-	No	-	3月17日(本剤内服1-2時間後)異常行動発現。寝たままで最初手足をピクピクさせ、ワーと大声で泣き叫び、全身の筋肉を硬直させ、眼は大きく見開いて一点を凝視していた。このような異常反応が2-3分続き、この反応中は意識不明で、母親がいくら呼んでも反応しなかった。5分位更に母親が子供の名前を呼び続けると、やっと気づいて意識を回復した。その後、ぐずったり、泣いたりして熟睡する様子ではなかった。 3月18日(本剤内服1-2時間後)寝たまま、まず手足をピクピクさせワーと大声をあげて泣き叫び、全身の筋肉を硬直させ、眼は大きく見開いて一点を凝視していた。このような異常行動が2-3分続き、この間は、意識障害のため、母親がいくら呼んでも正常には答えなかった。約5分後に、やっと母親の叫び声に気づいた。(夕方41℃の高熱があったため、本剤8.1mgを内服させたところ、同じ様な	25		
36	B07002054	8	年	男性	異常行動	2007/3/19	夕	-	-	-	-	Yes	解熱過程	-	No	No	Yes	No	-	3月19日本剤内服後、おかしな発言を繰り返す(こわいこわいといっている)。睡眠中、夜には一度熱が下がり、症状は落ち着く。 3月20日朝から再び発熱、本剤は内服しなかったが、気分高揚し、娘と遊んでいる途中にはさみで妹の指を傷つけた(ほとんど寝ていない時に発言、悪いはずなのに寝なかった)。	28		
37	B07000278	6	年	男性	異常行動	2007/3/20 2007/3/20	午前 夕	2007/3/21	10:00	-	-	2-3分以内 長くても 10分以内	-	解熱過程	-	No	No	No	No	2007/3/19 (夜)発熱あり。咳嗽なし。 2007/3/20 (午前)インフルエンザA陽性。本剤、コカール処方(経過中コカールは服用せず)。午前と夕に本剤服用。(44mg×2/日) 2007/3/21 (朝)解熱していた。(16:00)朝期の本剤を服用する前にたんに登り窓を開けようとして凝っていた。父親が発見し、抱きかかえ「どうしたのか?」と開いたところ「窓開けなかった」と言った。意識して開けようとしたかは不明。異常行動(非重篤)発現。(11:43)再度受診(この時点ですでに異常行動は回復している)。2日間は患児から目を離さないように指導して、本剤を継続することにした。(11:50)異常行動回復。	24		
38	B07022878	8	年	-	激越	2008/1/12	-	2008/1/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/01/12 インフルエンザ治療のため、本剤(49mg×2/日)投与開始。興奮症状(非重篤)が発現。 2008/01/16 本剤の投与状況不明。興奮症状の転帰不明。	-		
39	B07023193	8	年	女性	異常行動	2008/01/13 2008/01/13 2008/01/14 2008/01/14	昼 夕 朝 夕	2008/1/14	23:00	○	Yes	1時間30分	不明	Yes	不明	No	No	No	-	No	2008/01/13(未明)インフルエンザ発症。(午前)体温:39.3℃。解熱剤を2回使用。(11:00)救急センター受診。(13:00)インフルエンザA型治療のため、本剤40mg×1/回の投与開始。すぐ解熱。(19:30)本剤40mg×1/回投与。 2008/01/14 (9:00)本剤40mg×1/回投与。(20:00)本剤40mg×1/回投与。(21:30)就寝。この時点で寝姿を認めず。(23:00)異常行動(睡眠時遊行症)発現。「お母さん、お母さん」と言葉を言い出す。その後閉眼したまま、手で目をこすり求める様子動作→手足をバタバタさせる動作が約1時間持続。父が振り起こすと覚醒しその後は異常は認めず。体温未測定。 2008/01/15(午前)外来受診時にも異常は認めなかった為無処置。異常行動(睡眠時遊行症)回復。体温:38.4℃。インフルエンザの転帰:軽快/回復	-	
40	B07000157	7	年	男性	不安	-	-	-	-	x	Yes	3時間	Yes	発熱持続	No	-	-	-	No	-	目を覚まし、お母さんには何も見えないところを指差し「見える」と言って興奮しながら泣いていた。視線は宙を見ている様子だった。母親が向かい合わせて抱っこをして捕まえていた。放せば逃げ出したであろうと思われるので、一晩中そのままにしていた。ずっと同じではないが、時々指を差しては怯えてもぐもぐ感じだった。	31	
41	B07000075	7	年	女性	幻覚	2007/3/12 2007/3/13 2007/3/13 2007/3/14 2007/3/14 2007/3/15 2007/3/15 2007/3/16 2007/3/16 2007/3/17 2007/3/17	17:00 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝	2007/3/12	19:00	○	Yes	-	10分	Yes	-	Yes	No	No	No	No	寝ていて急に笑い出し、その後泣き出した。 -「お父さんとお母さんが自分の体の上をジャンプしている」と言う。	30	
42	B07001360	7	年	男性	激越	2007/3/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本剤服用1時間後、30分間泣いたり、父親に殴りかかった(叩いた)という異常行動発現。その後、異常行動は治まり、以後、本剤2回服用したが異常行動はなかった。	33		
43	B07001812	7	年	女性	異常行動	2007/3/19 2007/3/20 2007/3/21 2007/3/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月20日就寝後に手をばたばたさせて、イヤダイヤダと騒ぐ 3月21日前夜と同様のエピソードが2時間おきの頻度で発現。	35	
44	B07000277	7	年	男性	不安	2007/3/26 2007/3/27 2007/3/27 2007/3/28 2007/3/28 2007/3/29 2007/3/29 2007/3/30 2007/3/30 2007/3/31	19:00 8:00 19:00 8:00 19:00 8:00 19:00 8:00 19:00 8:00 19:00 昼頃	-	昼	○	Yes	-	12時間	No	解熱過程	No	No	-	Yes	No	-	3月31日 12時ごろ起床し、本剤服用。1時間後、不安発現。20時ごろ病院に来院し22時就寝。翌日回復。	32

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻		異常な行動 発現時刻		就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない: ×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	起床ま での時間	一服りし て完全回 復	体温	発熱の記 録	睡眠覚醒 症等の既 往	睡眠覚醒 症等の家 族歴	光に対す る反応	他剤によ る「異常な 行動」の 副作用歴	異常な行 動に關す る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見たか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたかどうかと書いているのか?)	旧資料No	
45	B07001811	7	年	男性	意識障害状態	2007/3/31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本剤2回目服用1時間後、意識障害発現。意味不明な発言、突然笑い出すなどの症状。	26	
46	B07001665	7	年	女性	①幻覚 ②異常行動	2007/2/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2月20日異常行動、幻覚発現。	34	
47	B07026573	7	年	男性	異常行動	2008/01/31 2008/01/31	11:30 21:00	2008/1/31	17:30	×	-	-	不明	Yes	発熱持続中	No	No	Yes	-	No	No	2008/01/31 (11:30)本剤1回目内服。(17:30)手もみをした。胸絶みくり返す。祖母の洋服を意味なくひっぱたり、祖母に汚い言葉を投げかける。近医再診。当院紹介受診し入院。この間本人の記憶なし。入院後、異常行動はなし。(21:00)本剤2回目内服。体温:38.6℃ 2008/02/01 解熱。 2008/02/02 退院。		
48	B08002921	7	年	女性	異常行動	2008/3/8~ 2008/3/10	1日2回	2008/3/11	1:00 4:00	○	Yes	2時間30分	30分	①No ②Yes	解熱後	No	No	No	No	No	No	No	2008/03/08 本剤1.2g×2/日(オセルタミビル36mg×2/日)経口投与開始 2008/03/11 (1:00 ADR1回目)持続時間:30分 睡眠中に、突然、四つん這いになって、左足は蹴りながら異様な唸り声(おなかの奥底から唸っている様な)でウオーウオーと叫び続ける。名前を呼びかけても体を押しても全く反応せず、吠え続けている様。最後に普通の泣き声になり(2~3分の短時間のみ)睡眠状態となる。 その2~3分で力も弱まり、声も弱くなった。 祖母はこの状態で起き上がり、暴れられたら自分では制止できないのではと、とても不安になるぐらい力が入っていたとの事。 (4:00 ADR2回目)持続時間10分間 起き上がる事はなかったが、両足で布団を蹴り、ダブルベッドの祖母が休んでいる反対側に[隣に横になっている祖母を通り越して]布団を落としてしまった。その間、ずっと「ダメよ!イヤよ!」という言葉繰り返していた。その後、すーっと睡眠となる。 (9:00)起床。普段と変わらない様子で「おはよう」と起きてきた。 (9:30)祖母より電話連絡あり。担当医に報告。本剤服薬中止の指示を出す。異常行動はその後認められないため、回復と判断。	
49	B08002921	7	年	女性	異常行動	2008/3/8~ 2008/3/10	1日2回	2008/3/11	1:00 4:00	○	-	-	-	No	解熱後	NO	No	Yes	No	-	-	No	2008/03/11 (1:00 ADR1回目)持続時間:30分 睡眠中に、突然、四つん這いになって、左足は蹴りながら異様な唸り声(おなかの奥底から唸っている様な)でウオーウオーと叫び続ける。名前を呼びかけても体を押しても全く反応せず、吠え続けている様。最後に普通の泣き声になり(2~3分の短時間のみ)睡眠状態となる。 その2~3分で力も弱まり、声も弱くなった。 祖母はこの状態で起き上がり、暴れられたら自分では制止できないのではと、とても不安になるぐらい力が入っていたとの事。 (4:00 ADR2回目)持続時間10分間 起き上がる事はなかったが、両足で布団を蹴り、ダブルベッドの祖母が休んでいる反対側に[隣に横になっている祖母を通り越して]布団を落としてしまった。その間、ずっと「ダメよ!イヤよ!」という言葉繰り返していた。その後、すーっと睡眠となる。 (9:00)起床。普段と変わらない様子で「おはよう」と起きてきた。 異常行動はその後認められないため、回復と判断。	
50	B08029841	7	年	女性	①舞踏病アテーゼ ②精神症状 ③無力症	2008/12/12~ 2008/12/18	1日2回	2008/12/18 2008/12/19	夕 11:30	×	-	-	-	-	解熱後	-	-	-	-	-	-	-	2008/12/13(朝)本剤37.5mg投与。 2008/12/16 解熱し元気になった。この頃から周囲が困惑するような不自然な過剰行動がみられていた。 2008/12/19(11:30) 院内学級で興奮状態、歩行困難となり病室へ戻る。 多幸感や急に泣き出すなど感情失禁あり。 指示は理解するが、従命できず、全身性に脱力、アテーゼ様運動あり。 ベッドでもじっとしていられない。 (12:20) アタラクソP、ドルミカムなど投与し、鎮静。入院する。 急性ウイルス性脳症、MTX脳症などを疑い髄液検査、頭部MRI、血液検査を行うも原因を示唆する異常所見なし。 (15:00) 覚醒。やや興奮状態は続くも、不随意運動は消失。 2008/12/20(7:30) 起床時には普段の状態に戻る。	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻		異常な行動 発現時刻		就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じやな い:×)	覚醒直 後に発現	就寝中 の場合、就 寝時刻から 発現まで の時間	回復まで の時間	一服りし て完全回 復	体温	患者の記 憶	嘔吐・驚 愕等の既 往	痙攣・痙 攣等の家 族歴	光に対す る反応	他剤によ る「異常な 行動」の 副作用歴	異常な行 動に關す る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が起きたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたかどうかと言っているのか?)	旧資料No
51	B08025787	7	年	女性	幻覚	2008/12/20	-	2008/12/20	18:40	○	Yes	1時間	-	-	-	No	-	-	-	-	-	2008/12/20 (15:10)本剤服用しテレビを見ていた。 (16:40)入眠する。幻覚発現。 (17:40)大声で笑っている。舌をべりべりしながら大笑し足をばたばたさせている ので祖母が足をおさえた。「今、大変なことが起きているよ」という。 (17:55)大笑いがおさまりに入眠する。 (20:55)「大変なことが起きるよ」「サンタのおじさんがトナカイに乗って来ている よ」という。眼球は一点を注視していたとのこと。 2008/12/21 起床後は異常行動なし。前日の記憶なし。 幻覚の転帰:回復	
52	B07000154	8	年	男性	①痙攣 ②ジスキネジー ③意識レベルの低下	-	午前中	-	服薬から 30分	×	Yes	-	Yes 5分	Yes	発熱持続	-	No	No	-	No	-	当院から帰宅後、「ポケモン」を見ていたが、母親からの問いかけに返事無し。 服薬から30分後に産後発現。その5分後、痙攣は落ち着くものの、意識レベルの 低下のまま、救急車にて搬送。再来院時、自動運動(口をモグモグさせる、目を パチパチさせる)をしていた。入院し観察。その後、夕方タミフルを再度服用す るものの発熱無し。	38
53	B06028529	8	年	女性	①意識レベルの低下 ②大発作痙攣	2007/3/3	-	2007/3/3	服用10分 後	×	No	-	数十分	Yes	発熱持続	No	-	-	No	No	-	嘔吐し、その後痙攣を伴わず永をいじったり、就下をいじったり呼びかけに答 えなくなり、眼球上転、全身強直間代性痙攣となった。痙攣が止まった後も、呼 びかけに応えずに四肢を動かさず意識障害が持続。	38
54	B07000135	8	年	男性	異常行動	2007/3/13 2007/3/16	-	-	服用後	×	No	-	1時間弱	-	発熱持続 38.8℃	No	-	-	-	No	-	インフルエンザ治療のため、本剤投与開始。(51mg×2/日) 3/18(23:00)本剤2回目服用後、ベッドの上で遊び始めた。何かに怯える様子。 38℃台。他院小児科へ入院。(病院に行くまでに症状は軽くなっていった) 3/18異常行動回復。退院。	37
55	B07001894	8	年	女性	痙攣	2007/3/13	12:30	-	-	-	Yes	-	10分	-	発熱持続	-	No	-	-	No	-	3月13日(12:30)本剤内服後入眠。(14:00)痙攣発現。痙攣は開いているが、応答な し。10分で軽快。その後、痙攣なし。	41
56	B07000293	8	年	男性	①異常行動 ②落ち着きのなさ	2007/3/18か 19	-	-	-	-	-	-	-	No	解熱過程	Yes	-	-	-	No	-	突然泣き出す。痙攣が夢からないと発する。	40
57	B07002309	8	年	男性	①異常行動 ②意識レベルの低下	2007/4/12	-	-	-	-	-	-	No	Yes	発熱持続	No	-	-	-	No	-	4月12日(9:50)A型インフルエンザ治療のため、本剤投与開始(投与量不明)。内服 後2階に上がり就寝。(13:50)異常行動(ふすまをかじる)発現。2階でバタンという 音が聞こえたため、母が行ってみると息児がふすまをかじっていた。呼んでも、 目の焦点があわなかった。救急車を要請し、当院受診。受診時、ややポーンとし た印象で受け答えも断片的にできなかった。当院入院時CT上には明らかな異常 を認めなかったため、入院後補液のみで経過観察 4月13日(10:40)異常行動回復。発熱は続いていたものの、受け答えははっきり し、母もいつとも変わらな。	42
58	B07028438	8	年	男性	異常行動	2008/1/26	11:00 23:30	2008/1/27	0:00	○	No	直後	1時間	Yes	不明	No	No	-	-	No	-	2008/01/25(17:00頃) インフルエンザ発症。発熱38℃。 2008/01/28(11:00) A型インフルエンザウイルス感染治療のため、40mg×1回投 与開始。38℃。(23:30)本剤40mg×1回投与。38℃。 2008/01/27 (0:00)異常行動発現。入眠直後に覚醒した如く発声あり。内容は「死にたい」「自 分が見ているのが見える」「外に連れて行け」等と続いた。 (1:00)突然、覚醒した。異常行動回復。 2008/01/28 インフルエンザの転帰:軽快	
59	B07025433	8	年	女性	異常行動	-	晩 朝晩	-	服用2日 目 23:30	○	-	3時間	5分	-	-	-	-	-	-	-	-	(不明日)インフルエンザ罹患3日目の昼に診察。晩から本剤を服用。体温は 38.5℃。 (不明日)服薬2日目、朝・晩に服用。体温は37.8℃。20:30に就寝。就寝3時間後 に、大声で奇声を発し(アー、キヤーといったもの)、尋常でない強さで足をバタ つかせ、眼を睨んだりしていた。意識はなくなり、5分後に再度入眠した。今までイン フルエンザでこういった異常行動を認めたことがなく、今回本剤を服用したことで 異常行動が起ったため、本剤投与再開とした。	
60	B07025432	8	年	男性	異常行動	2008/1/29	10:00	2008/1/29	11:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/02/10 異常行動が発現。 2008/02/11 異常行動は回復。	
61	B08001238	8	月	女性	異常行動	2006/2/9~ 2006/2/9	1日2回	2006/2/9	13:00	×	-	-	5分	-	-	-	-	-	-	-	-	2006/02/09 A型インフルエンザ治療のため、本剤(15mg×2/日)投与開始。 (13:00)痙攣を母親の胸に打ちつける。無意味な動き(非重篤)発現。体温37.0℃。 (13:05)上記症状治まる。無意味な動き回復。 (14:00)オオドル内服。 (15:30)当院再受診。診察するも神経学的に異常なし。	
62	B06026849	9	年	女性	異常行動	2006/3/16	21:00	2006/3/16	22:00	○	Yes	40分くらい	5分	Yes	解熱過程	No	No	No	No	No	-	布団を蹴飛ばし「怖い」と不機嫌になり、視点は定まらず、飛び出そうとし、母が捕 まっていた。約5分で鎮まる。	44

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	種別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻		異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない: ×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	起床まで の時間	一服りし て完全回 復	体温	患者の認 知	悪化等の 既往	悪化等の 既往	悪化等の 既往	光に反 対する反 応	他剤によ る「異常な 行動」の 副作用歴	異常な行 動に關す る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、観が幻 覚を見ていたかどうかと言っているのか?)	旧資料No
79	B07001737	11	年	男性	①激越 ②興奮	2007/3/18 2007/3/18 2007/3/19 2007/3/19	13:00 23:30 昼 22:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月19日(3:00)眠っていたが、急に起き上がり「音響が分かんない」と叫び、後 退かと思っていたが、自分の頭をドンと叩き始めた。紙をかきむしった(抜く ほどではない)。1時間以内に3回ほど、(4:00)興奮状態回復。 3月20日(2:00)興奮状態発現。前日とほぼ同様の症状であった。(4:00)興奮状態 回復。	56
80	B07001805	11	月	男性	虚驚	2007/4/1 2007/4/2 2007/4/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4月1日けいれんを2回程度発症。インフルエンザのため本剤処方。本剤服用後 も虚驚を認める。 4月2日入院。本剤2回服用。 4月3日(22:00)発熱は続き、数秒〜10数秒の虚驚が頻発。	3
81	B07000267	12	年	男性	捕食	2006/3/16午 後〜3/18午前	-	38792	夜	No	-	-	-	発熱持続	Yes	No	No	No	No	-	-	うわごと(非重篤)、テレビが追ってくる夢、道路で寝ている夢、眠りながら手を上 げていた。	59
82	B07002073	12	年	女性	大発作虚驚	2007/3/19 2007/3/20 2007/3/21	-	-	-	No	-	2〜3秒	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	-	-	3月22日(11:00)外来受診時(38〜39℃、咳も強い)。胸部x-P撮影中にGTC5秒。そ の後、1分後に意識もどした。点滴確保し、精密目的のため、他院へ紹介受診と なる。胸部x-P上気管支影の増強は見られたが、明らかな肺炎像はなかった。	61
83	B07000227	12	年	女性	意識消失	-	17:00〜 18:00	-	-	○	Yes	-	-	Yes	-	No	No	No	No	-	-	服用後、就寝。夜中に急にトイレと違う方向へ歩き出し倒れた。その後、トイレへ 向かって歩いていたがトイレの前でもう一度倒れる。両親が近くの内科へ連れて 行きタミフル服用を中止。点滴を受けて回復した。発現4日後当院再受診。	58
84	B07000202	12	年	男性	虚驚	2007/3/20	-	2007/3/20	16:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月20日(16:00)虚驚発現。 3月22日虚驚回復。	57
85	B07000269	12	年	女性	①意識消失 ②てんかん	-	-	①2007/2/15 ②2007/2/16	①21:00 ②19:20	-	No	2か3分	Yes	解熱後2 日〜3日	No	No	No	No	-	No	-	①意識喪失、痙攣発現。 ②発熱中に意識喪失、2〜3分倒れる。 椅子に座って歩けなくなり、立った瞬間にフラフラしたため、母に介抱されながら階段 を降りた。体が力が入らず脱力状態。母が階段の上から両手をかかえ、指 指が階段の下から両足を押って運んでいた。閉鎖していたが、昇る途中、呼 びに反応しない意識消失状態が1分間あり、息子は1分ほど両足の硬直を感じ た。その後硬直は消失し、呼名に反応する状態となり救急車で当院来院。本人 は階段昇っている途中で、急に救急車が到着するまでの間は覚えていない。 (19:40)救急車で来院時は意識清明だが、すぐに入院するような状態、呼名には すぐ反応し、応答も運動も正常、麻痺なし。	60
86	B06026622	13	年	女性	意識消失	2007/2/28	9:30	2007/2/28	19:20	×	No	1分	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	-	-	2007/02/21 インフルエンザA治療の為、本剤の投与開始。 幻覚、妄想、異常行動発現。 時期不明 幻覚、妄想、異常行動回復。	64
87	B06026128	13	年	男性	①妄想 ②幻覚 ③異常行動	①②③ 2007/02/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12月1日抑うつ、無気力、自殺企図発現。マスコミの報道により3月28日に患者 様より薬局に電話連絡あり、「タミフル服用後(2003年12月1日ごろ)から最近ま ですつと上記の副作用が出ている。長期継続こともあるのか?との問合せ内 容により、中外DICIにTEL。12月1日に発現との報告であるが、正確にこの日が 発現日であったかどうか不明とのこと。	63
88	B07000211	13	年	男性	①うつ病 ②無感情 ③自殺企図	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2月13日 ぼんやりして視線合わず(学校より帰宅後)、3月14日 登校、学校 では一日ぼんやりしたり、奇声を上げていた。帰宅時間になっても、自宅が分 らないため、友人に連れられて帰宅。視線合わず、友人、家族の名前、自分の 名前が覚えられない。→救急外来受診後、入院となる。3月15日 視線合うがリス トスは悪い、記憶曖昧。3月16日 視線合い活発となる。記憶変化なし。3月17日 活発で音感通り。退院となる。3月20日 退院後診察。記憶は戻っており、回復を 確認。	65
89	B07000256	13	年	女性	意識レベルの低下	2007/3/10 2007/3/11 2007/3/12 2007/3/12	夕方 朝 夕方 夕方	-	-	-	No	No	No	解熱過程	Yes	-	-	-	No	No	-	3月8日(2:00)トイレに行き、トイレの中で意味不明なことを絶叫し、その場で倒れ て意識不明の状態になった。(2:30)救急車で運ばれてきたが、その際は意識は 回復していた。	66
90	B07000088	14	年	女性	異常行動	2007/3/7	11:00	2007/3/8	2:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2007/3/14)本剤3回目を服用後様子がおかしくなり暴れます。幻聴、幻覚、異 常行動発現。 (2007/3/16)幻聴、幻覚、異常行動回復。	68
91	B07000257	14	年	男性	①幻覚 ②幻聴 ③異常行動	-	-	服用後	○	Yes	-	30分	No	解熱過程	No	No	No	No	No	-	-	時期不明 本剤の投与開始。 時期不明 脳梗塞発症。	71
92	B07000242	14	年	女性	脳梗塞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2007/1/8 来院時、体温:39.2℃。(18:00)A型インフルエンザ治療の為、本剤 75mg×1回内服。(18:30)異常行動発現。もうろうとして意識がクリア。「梅を殺す 気か?」と言った。(20:00)2Fから降りてきて、再び意識もうろう状態。熱39.0℃。 「死ぬと言うのか?」という言葉に母の呼びかけ「どうしたの?」により意識が戻 った。その後は普通。ご飯食べた。(22:00)2F看護で就寝。(24:00)意識もうろうが何 で、何?と言いついた。ベッドに戻して、うつ伏せにしたら意識が戻った。「お 母さんがなんているの?」と言った。熱37℃。 2007/1/9 (8:00)熱が下がって普通。異常行動回復。インフルエンザの回復。翌	70
93	B07000123	14	年	男性	異常行動	2007/1/8	18:00	2007/1/8	18:30	-	No	Yes	No	発熱持続 中	-	No	No	No	-	-	-		69

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻から 発現までの 時間	回復まで の時間	一眠りし て完全回 復	体温	患者の記 憶	悪化等の概 況	悪化等の家 族歴	光に 対する反 応	他剤によ る「異常な 行動」の 副作用歴	異常な行 動に 関する既往	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻 覚を見ていたよと云っているのか?)	旧資料No	
94	B07000214	15	年	男性	異常行動	-	-	○	Yes	-	20~30分	Yes	解熱過程	No	No	No	No	No	無	寝ていたのが起き出し、しなごわさがす等意味不明の発言あり、何かを探す様な動きを繰り返した。家族の声には全く答えず20分程度で回復。その後著重なし、本人全く記憶なし。	72	
95	B07014580	16	年	女性	自殺念慮	2007/2/14 2007/2/15 2007/2/16 2007/2/16 2007/2/17	夕 朝 夕 朝 夕 朝	2007/2/22	×	No	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2007/02/14夜 インフルエンザと診断、本剤処方。 2007/02/18 朝より解熱。 2007/02/22夜 ポートとした表情で「このまま死んだら楽かな」「お世話になりました」の様な発言があるとの電話があり、自殺願望かもしれないから、そのような発言が再びあれば病院搬送を指示する。 2007/02/26 自殺願望的な発言は消失したが、念のため、他院精神神経科に紹介する。 2007/03/01頃 自殺願望疑いは回復。	-	
96	B07000113	16	年	男性	痙攣	2007/3/2	午前中	2007/3/2	18:50	×	-	3-4分	-	解熱過程	-	No	No	-	-	痙攣	73	
97	B07002390	16	年	男性	①転倒 ②異常行動 ③浮動性めまい	2007/1/22 2007/1/23 2007/1/23 2007/1/24 2007/1/24 2007/1/25 2007/1/25 2007/1/26	(夕) (朝) (夕) (朝) (夕) (朝) (夕) (朝)	-	-	-	-	-	Yes	解熱過程	No	No	No	-	No	-	2007/01/22 (夕)インフルエンザA型治療の為、本剤75mg×1/日投与開始。体温38.4℃。 服用後就寝。 (夜)ふらつき、異常行動、転倒(非重傷)発現。 ふらつきが起き上がり異常行動をして転倒。転倒の結果、頭部外傷。 2007/01/23 頭部外傷、4針縫合。 転倒、頭部外傷、ふらつき、異常行動回復。 2007/01/26 (朝)本剤75mg投与。以後、服用せず。	-
98	B07000068	17	年	男性	①嘔吐 ②痙攣 ③意識消失	2007/3/14	17:00	2007/3/14	21:00	×	Yes	5秒	Yes	発熱持続	Yes	No	-	No	No	無	・母親がトイレに付き添った所、突然意識消失痙攣を起こした。声をかけると5秒後に回復。 ・その後、返事がおかしく、トイレに行こうとしたにもかかわらず、ご飯を食べずにリビングに行こうとしたと、トチンカンなことを言った。	75
99	B07000899	17	年	男性	躁越	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本剤1cap服用した夜に、興奮(興奮して暴れた)発現。	77	
100	B07000217	17	年	男性	精神障害	-	-	-	-	-	-	5日間	Yes	解熱過程	Yes	No	No	No	No	無	発汗量が減少し、本人が頭がボーとするといった自覚症状を訴えた。落ち着かなくなる。脳波で異常が認められる。SPECTでは、両側頭葉〜後頭葉の血流低下あり。インフルエンザ脳症又はタミフルに副作用として入院。	76
101	B07002263	17	年	男性	統合失調症様障害	2003/1/11 2003/1/12 2003/1/13 2003/1/14 2003/1/15 2003/1/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1月18日急性混乱状態発現(非重傷)。1/18頃より行動に整合性が無くなった。意識は清明、見当識ありだが、全頭性混乱。神経学的には明らかな脱髄病変なし。MRI、ルンバルを施行。脳炎、髄膜炎を示唆する所見なし。統合失調症を疑い他院紹介。	78	
102	B07000064	18	年	男性	意識消失	2007/3	21:00	2007/3	22:00頃	×	No	1分	Yes	解熱過程	No	-	-	No	No	無	意識レベル低下。 両親の呼びかけに応じない。	79
103	B07000226	20	年	男性	①高熱 ②うつ病 ③倦怠感	-	朝	-	-	-	-	-	No	発熱持続	Yes	No	No	No	No	無	死にたいと訴える。	80
104	B07000080	21	年	女性	大発作痙攣	2007/3/27	11:00	2007/3/27	15:30	×	No	2分	Yes	解熱過程	No	No	No	No	No	無	痙攣発現後、ジアゼパム注で30分ほど鎮静。	81
105	B07001419	22	年	男性	①うつ病 ②自殺念慮	2007/3/12 2007/3/12 2007/3/13 2007/3/13 2007/3/14 2007/3/14 2007/3/15 2007/3/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月12日内服開始2回くらいで、気持ちが落ちて自殺したくなる感じ、うつ状態発現。 3月19日 1-2日たって気持ちも落ち着いた。 3月22日再び気持ちが落ち込んだ。	82	
106	B07000089	25	年	男性	意識消失	2007/3/22 2007/3/22	朝 夕	2007/3/24	-	×	No	Yes 事故により回	Yes	-	-	-	-	-	-	無	車の運転中意識がなくなり、壁にぶつかり入院。	84
107	B07022877	26	年	男性	意識喪失状態	2007/12/28	午前	2007/12/28	19:00	×	-	30分	Yes	発熱持続中	-	-	-	-	No	No	2007/12/27(朝)発熱、頭痛、全身の関節痛あり。 2007/12/28(9:00)当院受診。インフルエンザAと診断し、本剤処方。帰宅後本剤75mg内服し、数時間就寝。 (19:00)異常行動、意識が喪失し、15分続く。救急要請。(首をクネクネさせたり、腕をしきりに組んだりする。手足がない、ここはどこかなど、X19:30)意識障害発現。救急が到着する頃には改善。(20:00)経過観察のため入院。意識障害回復。 2007/12/29(8:30)退院。	-

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない: ×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復ま での時間	一 眠りし て完全回 復	体温	患者の記 憶	睡眠覚 醒等の既 往	睡眠覚 醒等の家 族歴	光に対 する反 応	他剤に よる「異 常な行 動」の 副作用歴	異常な行 動に因 る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見たのか?本人が幻覚を見たのか、観が幻 覚を見ていたかどうか?)	旧資料No
108	B07025547	28	年	男性	意識消失	2008/1/21 2008/1/22 2008/1/23 2008/1/23	午後 午前 午後 午前 午後	×	-	-	?	Yes	不明	No	No	-	No	No	No	2008/01/21 インフルエンザ様症状治療のため、本剤75mg×2回/日投与開始 (1/21は午前のみ服用)。 2008/01/24(9:50)車を運転中、意識消失発作(非重篤)発現。道路の左側に乗り 上げ、1回転し、道路に落下し意識回復した。(17:00)意識消失発作 回復。本剤 投与中止。	
109	B07000133	28	年	男性	①意識レベルの低 下 ②錯覚	2007/2/17 2007/2/18	-	-	-	-	-	No	発熱持続	No	-	-	-	-	-	意識もうろう、うわ言発現(非重篤)。	85
110	B07000150	28	年	男性	異常行動	-	夜頃	-	No	-	No	No	発熱持続	No	No	No	Yes	No	-	「死神が見える」と訴える。	86
111	B07000151	28	年	男性	異常行動	2007/3/7 2007/3/7 2007/3/8 2007/3/8 2007/3/9 2007/3/9	8:00 18:00 8:00 18:00 8:00 18:00	○	Yes	-	Yes	No	発熱持続	No	No	No	No	No	無	3月10日 1:00(パジャマ、オムツを脱いで「あっちへ行く」と起きあがる。14:00「電 話が鳴っている」「テレビを見ていたがテレビがない」「この部屋どこ」と異常行動 を発現。入院中で、寝たり起きたりを繰り返していた。症状は寝起きの一瞬だけ であった。	87
112	B07000105	29	年	女性	①意識消失 ②異常行動	夕食後	-	○	Yes	-	-	-	-	No	No	No	-	-	-	トイレに行ったとき気を失う。顔を打つ。	89
113	B07002383	29	年	男性	虚脱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	時期不明 虚脱発現(非重篤)。 時期不明 虚脱回復。	90
114	B07001809	30	歳代	男性	意識消失	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	運転中に一瞬自分が何をしているのかわからないような状態に陥った。	17
115	B07000216	33	年	男性	異常行動	-	-	-	Yes	-	10~15分	No	-	No	No	No	-	No	-	異常行動発現。	91
116	B06026181	38	年	女性	①幻覚 ②異常行動 ③幻聴	①2007/2/25 2007/2/25 ②2006	①-	×	No	-	No	No	-	No	-	-	No	-	精神発達 遅滞	トイレの柱に突っ立っている。ベッドが飛んでいる等の発現。テレビの音が聞こ える。監視されている、変な声が聞こえると発言する。	93
117	B07000204	38	年	女性	自傷念慮	-	-	-	No	-	-	-	解熱途中	Yes	-	-	-	-	-	喉を切りたくなった。	94
118	B07001357	39	年	女性	①幻聴 ②発疹 ③不安	2007/3/1 2007/3/2	-	-	Yes	-	No	Yes	解熱過程	No	-	-	-	No	-	3月2日(朝)顔部、肩胛部の高熱に気づく。チクチク、ヒリヒリした感じ。(午後) 解熱。(夜)寝てから幻聴(2階に寝ていて、玄関の錠を開ける音、玄関の閉 く音、スリッパの音)あり。 3月3日(5:00)寝付いてから起きるような怖い夢をずっと見ていて辛くなりデバ ス1錠内服。その後解熱した。	95
119	B07000092	40	年	男性	異常行動	2007/3/3 2007/3/4 2007/3/5 2007/3/6 2007/3/7	- - - - -	○	No	-	-	Yes	解熱過程	Yes	-	-	No	No	-	急に起きて透析の針を自分で抜いてまた刺したという異常行動(事故抜刺)を起 こした。	96
120	B07000138	40	年	女性	意識レベルの低下	-	朝	-	-	-	-	-	-	No	-	-	No	No	-	2007/03/12 本剤75mg投与。 (夕方)主人が帰宅してみると本朝より病院に行ったこと、昨日の事も全く記憶 にない。現在のことは分かる。意識障害(記憶)発現。 熱は38℃台に下がりつつある。意識障害(記憶)発現。 脳症を疑って循環器科入院となる。 時期不明 意識障害(記憶)回復。	97
121	B07024810	40	年	女性	意識消失	2007/12/10	18:00	×	Yes	18:00- 23:00	10分	Yes	発熱持続 中	Yes	No	-	-	No	No	2007/12/10(夕方)高熱(38.3℃)、鼻水、咳、咽頭痛の症状で来院。インフルエン ザAと診断。(18:00)処方された、PL1g×2/日、本剤75mg×1/日、コカール400mg ×1/日内服し寝てしまった。(23:00)寝がさめて、トイレに行こうとしたが、気分 不良著しく、階段途中にて、動くこともできない状態となり、意識消失(非重篤)発 現。気がついたら、階段の下に転落していた。救急車で、夜間病院受診。産科に 対して産科処方を受けた。(23:10)意識消失回復。 2007/12/11(12:00)硬膜下血腫心配し、脳外科にて脳CT検査を受けたが、異常なし。 2007/12/12インフルエンザの転帰:経快	
122	B07001892	42	年	女性	①下痢 ②味覚異常 ③嗅覚錯乱	2007/3/27 2007/3/28 2007/3/29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月29日(夕方)味覚障害(味が全く感じない、しょっぱい味しかない)、嗅覚障害 (においがわからない)発現。	98
123	B07000245	45	年	男性	自殺既遂	2006/4以前	夕刻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	自殺(死亡)	99
124	B06026807	47	年	女性	①虚脱 ②意識消失	2007/2/21	-	×	No	-	Yes	Yes	発熱持続	-	No	No	-	-	-	意識障害で倒れ、顔を打ったが、30分くらいで治った。	101

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	症別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない:X)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復ま での時間	一服し て完全回 復	体温	患者の記 憶	既往症等 の既往	聴覚覚 醒等の家 族歴	光に対 する反応	他剤によ る「異常な 行動」の 既往歴	異常な行 動に關す る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、観が幻 覚を見ていたかどうか?)	旧資料No	
125	B07023856	48	年	男性	譫妄	2008/1/22	17:00	2008/1/22	18:00	X	-	-	不明	Yes	発熱持続中	No	No	No	-	No	2008/01/22 (17:00)インフルエンザAに対して、本剤75mg内服開始。(18:00頃)せん妄状態となり、大人二人がかりでやっと押さえるほど暴れたため、救急外来受診。発熱時は症状なし。入院。 2008/02/05 せん妄回復。	
126	B07000129	49	年	女性	異常行動	2007/3/28 2007/3/27	19:00 7:00	2007/3/27	8:30 15:00	X	No	-	-	-	-	No	-	-	-	No	活動する際、車で自損事故を3回繰り返した。	102
127	B07001423	50	年	女性	頭痛	2007/3/18 2007/3/18 2007/3/19 2007/3/19 2007/3/20 2007/3/20 2007/3/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月26日突然左側頭部～左後頭部にシビれる様な頭痛発現。以前にあった片頭痛とは異なる頭痛と言われた。	103
128	B07000229	51	年	女性	①幻覚 ②幻視 ③異常感 ④悪心	2007/2/26 2007/2/26	10:30 22:00	-	-	O	Yes	-	-	-	No	-	-	-	No	無	気分不良、嘔気が出、トイレから出て12歩でふらつきがあり、足が指様に太くなる幻覚が出現した。又この足が前方に向かい動いているように見えたとの事である。本人の弁ではこの時は意識があった。 その後テーブルの上のものをひっくり返したが、覚えが無い。 夜、本剤服用後入院。	106
129	B07000160	51	年	女性	意識消失	-	-	-	-	-	-	数分	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	肝硬変	2007/02/26 本剤75mg/2回/日を投与開始。(～3/2) 意識消失発作が発現。 意識消失発作にて自宅で倒れているところを家族が発見した。その後、意識はすぐに回復した。生体肝移植後で大学病院に入院中であり、再入院の医師に相談し、本剤はそのまま内服を継続したが、その後、意識障害はなかった。 2007/03/05 意識消失発作回復。	105
130	B07000155	53	年	女性	意識レベルの低下	-	朝	-	-	X	No	-	数分	-	解熱過程	No	No	No	No	無	冷汗がでて意識喪失で倒れている 意識消失が数分継続。	104
131	B07000231	53	年	女性	意識障害状態	2007/3/2 2007/3/2	17:00 20:00	2007/3/3 2007/3/3	0:00 0:28	-	-	-	数時間	Yes	解熱過程	No	No	-	No	無	トイレで倒れ、意識消失1分。倒れたときの記憶は無い。全剤を使用後、回復したものと思われるが、未確認のため不明。	107
132	B07000287	57	年	女性	落ち着きのなさ	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2007/03/01 (9:30)インフルエンザA陽性であり、症状の訴え強いため、本剤75mg内服後透新開始 (10:30)心不全、不整の為、他院へ入院。 (夕方)精神症状も改善するが、不穏状態であった時の記憶は皆無であった。	109	
133	B07000104	57	年	男性	①痙攣 ②肺炎	2007/3/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月26日(4:00)痙攣を発症。(10:00)死亡 死亡原因 肺炎	108	
134	B07000278	59	年	女性	①痙攣 ②意識レベルの低下 ③息詰まり	-	-	-	-	X	No	-	-	No	解熱過程	-	-	-	-	無	痙攣、意識レベル低下(非重篤)。食事で食べ物を詰まらせ窒息(異常な食べ方をした可能性)発現。食事をかき込むように食べ窒息後、昏睡状態。	110
135	B08001548	65	年	女性	異常行動	2008/3/25～ 2008/3/27	1日2回	2008/3/27	12:00	X	No	-	-	Yes	解熱後	Yes	No	No	-	No	2008/03/25 インフルエンザA型治療のため、本剤服用開始(2cap/日) 2008/03/27 (12:00)5回服用後、怒りがこみ上げる。物を投げるといった症状。異常行動(非重篤)発現。体温:36.5℃。本剤服用中止。同日回復。	
136	B07001731	66	年	女性	①意識障害状態 ②痙攣	2007/3/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月28日(7:30)食事中、腹痛、気分不快になり意識消失(5分間程)。夫の語では尿失禁もあり、その後回復した。	111	
137	B07002262	66	年	女性	うつ病	2007/3/13 2007/3/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月14日うつ状態発現(非重篤)。夕方の分まで内服したが、あまりに症状がきついで(手首を切つて死にたいと思うという症状が出現)、夕方の内服以降、本剤、ピリナジンを投与中止。	112	
138	B06026127	67	年	女性	意識消失	2007/3/3 2007/4/7	11:00 17:00	2007/03/03	19:00	X	No	-	1時間	Yes	発熱持続	No	No	No	No	無	2007/03/03 (11:00)本剤75mg×1回投与。 (18:00)再受診。体温:37.8℃ 本剤75mg×1回投与。 (20:00)本剤服用後、病院から帰る途中、運転時、自宅近くで意識消失。ガードレールにぶつかり(ブレーキかけず)前の部分が大破。 本人はその前後、車での事故当時の記憶がないどの様に事故になったか覚えていない。 救急車で運ばれ、頭部CTとも異常なし。 2007/03/04 (9:00)当院受診。体温36.2℃と解熱。事故について、意識がなかったことを聞く。本剤服用後、投与中止。以後、順調に経過。 2007/03/05 インフルエンザ:軽快・回復	113

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例の追加調査結果

No.	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻		異常な行動 発現時刻	就寝中か否 か(就寝中:○、 就寝中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の 場合、就 寝時刻か ら発現ま での時間	回復まで の時間	一睡りし て完全回 復	体温	患者の記 憶	睡眠覚醒 症等の既 往	睡眠覚醒 症等の家 族歴	光に対す る反応	他剤によ る「異常な 行動」の 副作用歴	異常な行 動に關す る既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、鏡が幻 覚を見ていたようだと書いているのか?)	旧資料No
139	B07027779	67	年	女性	異常行動 脳血管障害	2008/1/17 2008/1/18 2008/1/18 2008/1/19	夕 朝 夕 朝	2008/1/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	パーキンソン	不明 A院にて以前より、パーキンソンの治療を受けていた。 2008/1/17 発熱と咳を訴え、当院に来院。本人の希望によりキットで診断したと ころ、A型インフルエンザと判定され本剤を4回処方。本剤投与開始(~ 1/19)。 2008/01/18 服用後、体を横にゴロゴロするような不穏な動きを度々していた。 足の不協運動が強く立つ事が困難であった。トイレにうづくまってしまうた。 異常行動(非重篤)発現。 2008/1/19 体を横に動かす動きがあった。B院受診。本剤中止の指示あり(そ れまで4Cap内服)。 2008/1/20 翌朝体調が急変し、救急車でC院に搬送。不確実な情報で実際どう であったかは不明。(12:03)死亡。 直後の死因は脳梗塞と診断されたが、家族は異常行動が見られた点から、本 剤が脳梗塞を誘発した、もしくは本剤によりパーキンソンが悪化し、死亡に至っ たと主張している。	
140	B07000205	69	年	女性	意識消失	-	-	-	×	No	-	1~2分	Yes	解熱過程	Yes	No	No	-	No	無	トイレで歩行した後、ふわとした感じになり、廊下でまよのめりに転倒、歯がへ こむほど歯を床にうつ。意識が戻ってからは、気分爽快。	114
141	B07001524	69	年	男性	①幻覚 ②認知症	2007/3/28 2007/3/28 2007/3/27 2007/3/27 2007/3/28 2007/3/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3月28日幻覚、認知症の悪化発現。幻覚の内容は「周りに女の人が出て集団見 合いをしている」。本剤服用後しばらくは認知症の程度が強くなった。	115
142	B07025093	70	年	男性	自殺念慮	2008/2/7		2008/2/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/02/08 A緊急センターにてロキソニン、PL、セルベックス、SP等処方。 2008/02/07 B病院にて本剤 75 mg x 2、カロナール 200 mg x 2 処方。 2008/02/08 近くの川に飛び込みたい、酒をたらふく飲みたいとの発言あり。	
143	B07000290	72	年	男性	妄想	-	-	2007/3/14 2007/3/15	23:00 18:00	○	Yes 睡眠中も 覚醒後も 起きた	17時間	Yes	発熱持続 解熱過程	幻覚・熱 で動けな かった	No	No	-	No	-	常に後ろから誰かに邪魔されている、邪魔されている人から逃げろ。逃げ切った 後に急にその人が前に現れるといった症状。	118
144	B07027778	74	年	男性	異常行動	2008/3/8	-	2008/3/8	-	×	-	-	-	解熱後	No	-	-	-	-	-	2008/03/08 発熱(発熱)があり、インフルエンザA型確定にて本剤投与開始。 2008/03/08 解熱していたが、自動車運転中に中央分離帯へ接触しそうになる 行動が7~8回あり、本人はよく覚えていない。両車していた妻が、電気が止ま るようハンドルを補助したりした。本人はそのことを認めようとしなが、妻より 問いかけを受けた。	
145	B07001906	80	歳代		認知症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本剤服用後、うなったり寝れりたりということが見られ、その後、訳のわからない事 を言うなど痴呆症のような状態になってしまった。インフルエンザ発症前は、痴 呆症などなく元気な方であった。	47
146	B07000126	82	年	女性	幻覚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	「揺の体がずたずたになっている」と発言。	119
147	B07001708			男性	パーキンソン病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	本剤内服後、パーキンソン病発現。	新-3-11